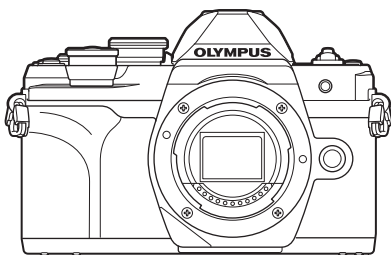


デジタルカメラ

E-M10 Mark IV

取扱説明書



もくじ

機能目次

1. 準備する
2. 撮影する
3. 再生する
4. メニューの機能
5. スマートフォンと接続する
6. パソコンと接続する
7. ご注意
8. 資料
9. 安全にお使いいただくために

Model No. : IM021

■オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます。カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。

■「9. 安全にお使いいただくために」は、製品をご使用になる前によくお読みください。またお読みになったあとも、必ず保管してください。

■ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。

■取扱説明書で使用している画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

■カメラのファームアップにより機能の追加・変更があった場合、記載内容が異なります。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

はじめにお読みください

「9. 安全にお使いいただくために」をお読みください

誤った使い方をしたときに生じる人への危害や火災などの財産への損害を未然に防ぐために、製品をご使用になる前に「9. 安全にお使いいただくために」(P.174)をよくお読みください。

カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。お読みになったあとも必ず保管してください。

このカメラを購入した国・地域以外での使用については、その国・地域の規則に違反する恐れがありますので、当社では一切の責任は負えません。

このカメラの無線LAN、Bluetooth®機能について

このカメラは、無線LANおよびBluetooth®機能を搭載しています。カメラを購入された地域以外での使用については、その国の電波管理規定に違反する恐れがありますので、あらかじめご確認ください。当社では一切の責任は負えません。

使用が禁止されている場所では、無線LANおよびBluetooth®機能を停止させていただきます。🔇「無線LAN/Bluetooth®機能をオフにする」(P.146)

■ ユーザー登録について

お買い求めいただいた製品のユーザー登録をお願いします。ユーザー登録の方法は、当社ホームページをご確認ください。

■ ソフトウェア／アプリケーションのインストール

Olympus Workspace

カメラで撮影した静止画やムービーをパソコンに取り込んで、閲覧や編集を行うためのアプリケーションソフトウェアです。カメラのファームウェアのアップデートもできます。ソフトウェアのダウンロードについては以下をご覧ください。ソフトウェアのダウンロードにはご利用の製品のシリアルNoを入力する必要があります。

<https://support.olympus-imaging.com/owdownload/>

OLYMPUS Image Share (OI.Share)

カメラ内の画像をスマートフォンに取り込むことができます。

またスマートフォンでカメラをリモート操作し、撮影することができます。

<https://app.olympus-imaging.com/oishare/>



本製品の説明書について

本製品では、付属の「取扱説明書」（本書）の他に、PDF版の取扱説明書や「機能活用ガイド」をご用意しています。あわせてご利用ください。



取扱説明書(本書およびPDF版)

カメラの使い方と機能について説明しています。PDF版は、当社ホームページの下記URLからダウンロードすることができます。

https://cs.olympus-imaging.jp/jp/support/cs/man/man_esystem.html#omd

- PDF版については、スマートフォン用アプリ OLYMPUS Image Share (OI.Share)から直接ダウンロードもできます。

機能活用ガイド

このカメラの機能をご活用いただくために、機能や設定についての情報を掲載しています。OI.Shareからもご利用いただけるようにスマートフォンなどの表示にも最適化されています。

<https://cs.olympus-imaging.jp/jp/support/cs/webmanual/index.html>



本書の表記について

本文中、以下の表記を使っています。

	実際に操作するときに確認していただきたいことを記載しています。
	知っておくと便利なことや役に立つ情報を記載しています。
	関連する情報の参照ページを記載しています。

もくじ

はじめにお読みください	2	アドバンスフォトモードを使う (AP モード).....37
本製品の説明書について	3	APモードの種類.....37
機能目次	8	[ライブコンボジット]で撮影する.....38
各部の名称	10	[ライブタイム]で撮影する.....39
準備する	12	[多重露出]で合成画像を撮影する.....40
■ カメラと付属品を確認する.....12		[HDR撮影]で合成画像を撮影する.....41
■ ストラップを取り付ける.....13		[静音[♥]撮影]を使う.....42
■ 電池とカードを入れる／取り出す.....14		パノラマ写真を撮影する.....43
電池を取り出す.....15		[デジタルシフト]を使う.....44
カードを取り出す.....15		[AEブラケット]で露出を 変化させた画像を撮影する.....45
■ 電池を充電する.....16		[フォーカスブラケット]で ピントの位置を変えて撮影する.....46
■ レンズを取り付ける.....17		■ アートフィルターを使う (ART モード).....47
■ レンズを取り外す.....18		アートフィルターの種類.....49
■ 電源を入れる.....19		アートフィルターのかかり具合を 調整する(ファインチューン).....50
■ 初期設定をする.....20		[パートカラー]で撮影する.....50
■ 言語の表示がおかしい／ 設定した言語が 表示されないときは.....22		■ 絞り値とシャッター速度を 自動で設定して撮影する (P プログラム撮影).....51
撮影する	23	■ 絞りを決めて撮影する (A 絞り優先撮影).....53
■ 表示の切り換え.....23		■ シャッター速度を決めて撮影する (S シャッター優先撮影).....55
■ 撮影時の情報表示.....24		■ 絞りとシャッター速度を 自分で決めて撮影する (M マニュアル撮影).....57
情報表示を切り換える.....26		■ 長秒時(バルブ/タイム)撮影.....58
■ 撮影モードを選んで静止画を 撮る.....27		■ ライブコンボジット (比較明合成)撮影.....60
撮影モードの種類.....27		■ 静止画撮影時にムービーを撮る.....62
■ ハイアングル・ローアングルで 撮る.....29		■ ムービーモードを使って撮る.....63
■ タッチパネルを使って撮る.....30		ムービーモードの種類.....64
■  (ショートカット)ボタンで 表示を切り換える.....31		■ スローモーションムービーを 撮る.....65
■ カメラまかせで撮影する (オートモード).....32		■ ムービー撮影中のカメラ の操作音を抑える.....65
■ シーンモードを使う (SCN モード).....34		
シーンモードの種類.....34		

■ 自分撮りモードで撮影する	66
■ 撮影機能を使う	67
画像の明るさを変えて撮影する (露出補正)	67
被写体を拡大して記録する (デジタルテレコン)	67
ピント合わせの範囲を選ぶ (AFターゲット設定)	68
ピントの位置を自分で決める	68
顔優先AF / 瞳優先AFを使う	69
感度を変更する (ISO感度)	70
フラッシュを使って撮影する (フラッシュ撮影)	71
連写する / セルフタイマーを使う	73
電子シャッターを使って撮影する (静音 [♥] 撮影)	74
撮影機能呼び出す	75
画像の仕上がりを設定する (ピクチャーモード)	77
画像全体の色味を調整する (カラークリエーター)	78
画像の色合いを調整する (ホワイトバランス)	79
ピントの合わせ方を設定する (AF方式)	80
アスペクト比を設定する	82
画質を選択する (画質モード)	82
画質を選択する (画質モード)	83
静止画撮影の効果を使って撮影する (モード (ムービー露出モード))	87
フラッシュの発光量を調節する (フラッシュ発光量補正)	88
手ぶれを抑えて撮影する (手ぶれ補正)	88
ホワイトバランスを微調整する (ホワイトバランス補正)	89
明るさを測る方法を選ぶ (測光)	90
鮮鋭さを微調整する (シャープネス)	90
明暗の差を微調整する (コントラスト)	91
色の鮮やかさを微調整する (彩度)	91
画像の階調を微調整する (階調)	92
モノトーンにフィルター効果をつける (フィルター効果)	92
モノトーンの調色をする (調色)	93
i-Finish の効果を調整する (効果)	93

色の再現方式を設定する (カラー設定)	94
ハイライト部 / シャドウ部の明るさを変えて撮影する (ハイライト&シャドウコントロール)	95
ボタン機能を割り当てる (ボタン機能)	96
拡大枠 AF / 拡大 AF を使う (スーパースポット AF)	98

再生する 100

■ 再生時の情報表示	100
再生画像情報	100
情報表示を切り換える	101
■ 撮った画像 / ムービーを見る	102
画像をすばやく探す (インデックス再生 / カレンダー再生)	103
画像を拡大して見る (クローズアップ再生)	103
画像を回転する (回転)	103
画像をスライドショーで見る (スライドショー)	104
ムービーを見る	104
画像を保護する (プロテクト)	105
画像を消去する (1コマ消去)	105
画像の転送予約をする (シェア予約)	106
全てのシェア予約を解除する (全シェア予約解除)	106
複数の画像を一括で処理する (プロテクト・選択コマ消去・ 選択コマシェア予約)	106
プリント予約する (DPOF)	107
プリント予約を選択して解除する / すべて解除する	108
記録した画像に音声をつける (録音)	108
録音音声の再生 ([♪] 再生)	109
パノラマ画像をスクロール 再生する	109
■ タッチパネルを使う	110
1コマ再生で使う	110
インデックス再生 / カレンダー再生で使う	111
画像を選択する / プロテクトする	111
自分撮りモードで再生する	112

メニューの機能	113	D1 露出/ISO/BULB	129
■ メニューの基本操作	113	D2 露出/ISO/BULB	130
■ 撮影メニュー 1 /		E フラッシュ	130
撮影メニュー 2を使う	114	F 画質/WB/色	130
カメラの設定を初期値に戻す (リセット)	115	G 記録	131
画像の仕上がりを設定する (ピクチャーモード)	115	H EVF	132
被写体を拡大して記録する (デジタルテレコン)	115	I その他	132
暗い場所でもピントを合わせやすくする (AF-イルミネーター)	116	AEL/AFLモード	132
ズーム速度を設定する (📷電動ズーム速度)	116	マニュアルフォーカス時にピント合わせ を補助する(MFアシスト)	133
複数の画像を重ね合わせて撮影する (多重露出撮影)	116	情報表示の画面を追加する	133
一定時間ごとに自動的に撮影する (インターバル撮影)	118	カメラの画像をテレビで見る (HDMI)	134
静音撮影時の動作を設定する (静音[♥]撮影設定)	119	フラッシュ発光時のシャッター速度 (🔌同調速度/🔌低速制限)	136
ワイヤレスRCフラッシュ撮影 (🔌RCモード撮影)	119	JPEGの画像サイズと圧縮率の組み合わ せ(画質設定)	136
■ 動画メニューを使う	120		
■ 再生メニューを使う	121	スマートフォンと接続する	137
縦位置で撮影した画像を自動で回転表示 する(回転再生)	121	■ スマートフォンとの接続設定を する	138
撮影した画像を加工する(編集)	121	■ 電源オン時の無線接続常時受け 付けを設定する	139
画像を合成する(画像合成)	123	■ 電源オフ時の無線接続を設定する ...	140
ムービーから静止画を作る (静止画切り出し)	123	■ スマートフォンに画像を転送する ...	142
ムービーをトリミングする (トリミング)	124	■ カメラの電源オフ時に自動で画像 を転送する	142
全てのプロテクトを解除する (全プロテクト解除)	124	■ スマートフォンからリモート撮影する (ライブビューリモコン)	143
■ セットアップメニューを使う	125	■ スマートフォンからリモート撮影する (ワイヤレスリリースリモコン) ...	143
カードを初期化する (カードセットアップ)	126	■ 画像に位置情報をつける	144
全コマを消去する (カードセットアップ)	126	■ 無線LAN/Bluetooth®設定を 初期化する	145
表示言語を設定する(🗨️)	126	■ パスワードを変更する	145
■ カスタムメニューを使う	127	■ 無線LAN/Bluetooth®機能を オフにする	146
A AF/MF	127		
B ボタン/ダイヤル	128	パソコンと接続する	147
C1 表示/音/接続	128	■ パソコンに画像を取り込んで 保存する	147
C2 表示/音/接続	129	■ ソフトウェアのインストール	148

ご注意	149
■ 電池についてのご注意	149
■ 海外での使用について	150
■ カードについて	150
■ 画質モード／ファイル容量／ 撮影可能枚数	151
■ 交換レンズについて	152
■ MFクラッチを搭載したレンズ について	153
■ 専用外部フラッシュ	154
ワイヤレスRCフラッシュ撮影	155
■ 市販のフラッシュについて	156
■ 主なアクセサリについて	157
コンバーターレンズ	157
アイカップ(EP-16)	157
■ システムチャート	158








資料	160
■ カメラのお手入れと保管	160
カメラのお手入れ	160
カメラの保管	160
撮像素子のクリーニングとチェック	160
画像処理機能をチェックするーピクセル マッピング	161
■ アフターサービス	161
■ こんなときは?	162
■ エラーコード	165
■ 初期設定一覧	167
■ 仕様	171
安全にお使いいただくために	174
■ 安全にお使いいただくために	174
■ 使用上のご注意	177
■ その他のご注意	179

索引	181
-----------	------------

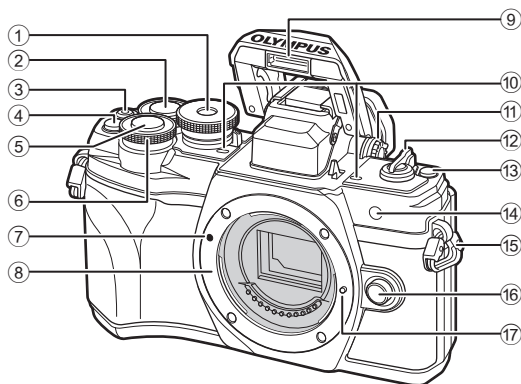
機能目次

機能	🔍
撮影モード	27
モニターの表示	26, 101
LVコントロールの機能	75
LVスーパーコンパネの機能	76
📷 撮影メニュー 1	
リセット	115
ピクチャーモード	77, 115
デジタルテレコン	115
測光	90
AFイルミネーター	116
📷 撮影メニュー 2	
📷 手ぶれ補正	88
📷 電動ズーム速度	116
フラッシュ補正	88
多重露出撮影	116
インターバル撮影設定	118
静音[♥]撮影設定	119
🔌 RCモード撮影	119
📺 動画メニュー	
ムービー録音	120
録音レベル調整	120
📷 AF方式	120
📷 手ぶれ補正	88
📷 電動ズーム速度	120
動画フレームレート	83, 120
動画ビットレート	83, 120
▶ 再生メニュー	
スライドショー	104
回転再生	121
編集	121
プリント予約	107
全プロテクト解除	124
全シェア予約解除	106
スマートフォン接続	138

機能	🔍
* カスタムメニュー	
A AF/MF	
AEL/AFLモード	127, 132
AFターゲットパッド	127
☺ 顔優先	69, 127
MFアシスト	127, 133
レンズリセット	127
B ボタン/ダイヤル	
📷 ボタン機能	96, 128
▶📷 ボタン機能	128
ダイヤル機能	128
C1 表示/音/接続	
📷 Control表示	76, 128
📷 /Info表示設定	128, 133
LVブースト	128
フリッカー低減	128
表示野線選択	128
ピーキング色	128
C2 表示/音/接続	
電子音	129
HDMI	129, 134
USB接続モード	129
D1 露出/ISO/BULB	
露出基準調整	129
ISOオート設定	129
高感度ノイズ低減	129
長秒時ノイズ低減	57, 129
D2 露出/ISO/BULB	
BULB/TIMEリミッター	58, 130
ライブBULB設定	58, 130
ライブTIME設定	58, 130
コンポジット撮影設定	60, 130

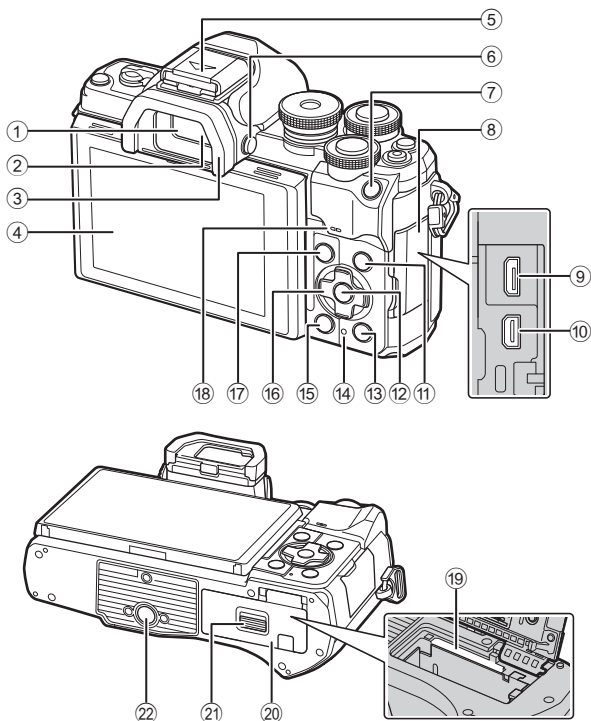
機能	
E フラッシュ	
 同調速度	130, 136
 低速制限	130, 136
 +  連動	67, 88, 130
 +WB連動	130
F 画質/WB/色	
画質設定	130, 136
WBモード	79, 130
WBオート 電球色残し	130
カラー設定	94, 130
G 記録	
ファイルネーム	131
ファイルネーム編集	131
著作権情報	131
H EVF	
EVF自動切換設定	132
EVF調整	132
I その他	
ピクセルマッピング	132, 161
水準器調整	132
タッチパネル設定	132
スリープ時間	19, 132
認証マーク表示	132
Y セットアップメニュー	
カードセットアップ	126
日時設定	20
	125, 162
モニター調整	125
撮影確認	125
Wi-Fi/Bluetooth設定	146
バージョン	125

各部の名称



- | | |
|--|--|
| ① モードダイヤルP.27 | ⑨ 内蔵フラッシュP.71 |
| ② リアダイヤル* (☺) P.51-57, 102 | ⑩ ステレオマイクP.108, 120, 122 |
| ③ ☹ (ムービー) / ⏪ ボタン
.....P.62 / P.106 | ⑪ 視度調整ダイヤルP.23 |
| ④ Q (デジタルテレコン) ボタン
.....P.67, 96 | ⑫ ON/OFF レバー P.19 |
| ⑤ シャッターボタンP.28 | ⑬ SC (ショートカット) ボタンP.31 |
| ⑥ フロントダイヤル* (☺) | ⑭ セルフタイマーランプ /
AFイルミネーター P.73 / P.116 |
| P.51-57, 67, 71, 102 | ⑮ ストラップ取り付け部P.13 |
| ⑦ レンズ合わせマークP.17 | ⑯ レンズ取り外しボタンP.18 |
| ⑧ マウント(ボディキャップを外してから
レンズを取り付けます。) | ⑰ レンズロックピン |

* 本書では、フロントダイヤルやリアダイヤルの操作を☺や☹のアイコンで示しています。



- | | | | | | |
|---|--------------------|-----------------------------|---|-----------------|-----------------------|
| ① | ファインダー |P.23 | ⑪ | INFO ボタン |P.26, 101, 133 |
| ② | アイセンサー |P.23 | ⑫ | OK ボタン |P.75, 102 |
| ③ | アイカップ |P.158 | ⑬ | ▶ (再生) ボタン |P.102 |
| ④ | モニター (タッチパネル) |P.24, 30, 75, 100, 110 | ⑭ | CHARGE ランプ |P.16 |
| ⑤ | ホットシュー (ホットシューカバー) |P.154 | ⑮ | 🗑️ (消去) ボタン |P.105 |
| ⑥ | IOI (モニター) ボタン |P.23 | ⑯ | 十字ボタン* |P.20, 68–73, 102 |
| ⑦ | AEL/AFL ボタン |P.96, 97, 132 | ⑰ | MENU ボタン |P.113 |
| ⑧ | コネクタカバー | | ⑱ | スピーカー | |
| ⑨ | マイクロUSBコネクタ |P.147 | ⑲ | カードスロット |P.15 |
| ⑩ | HDMIマイクロコネクタ |P.134 | ⑳ | 電池/カードカバー |P.14, 15 |
| | | | ㉑ | 電池/カードカバーロック |P.14, 15 |
| | | | ㉒ | 三脚穴 | |

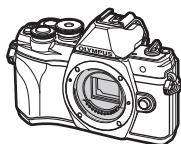
* 本書では十字ボタンの操作を△▽◀▶のアイコンで示しています。

1 準備する

1
準備する

カメラと付属品を確認する

お買い上げの商品には、カメラ本体と以下の付属品が入っています。
万一、不足していたり、破損していた場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。



カメラ



ボディキャップ*



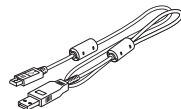
アイカップ
EP-15*



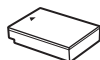
ホットシュー
カバー*



ストラップ



USBケーブル
CB-USB12



リチウムイオン電池
BLS-50



USB-ACアダプター
F-5AC



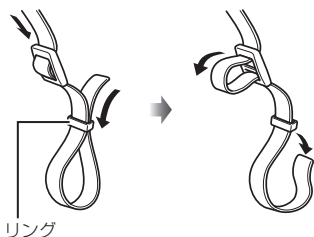
取扱説明書(本書)

- 保証書

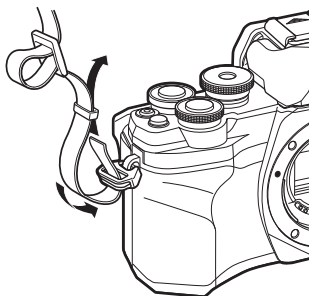
* ボディキャップ、アイカップ、ホットシューカバーは、あらかじめカメラ本体に取り付けられています。

ストラップを取り付ける

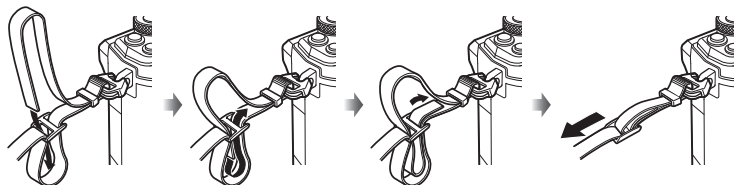
- 1 カメラに取り付けるために、一度リングから外してほどこきます。



- 2 ストラップの端をカメラのストラップ取り付け部に通してから、再度リングに通します。



- 3 ストラップの端を留め具に通して固定します。



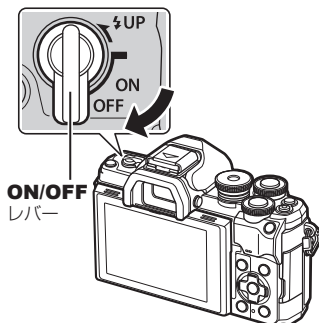
- 同様に逆側も取り付けます。
- 最後にストラップを少し強めに引っ張り、抜けないことを確認してください。

電池とカードを入れる／取り出す

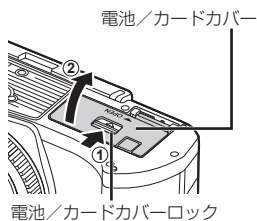
本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、SD規格に準拠したSD/SDHC/SDXCカード(市販)です。

新しく購入したカード、他のカメラで使用したカード、パソコンなどで他の用途で使用したカードは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。☑「カードを初期化する(カードセットアップ)」(P.126)

- 1 **ON/OFF**レバーが**OFF**の位置になっていることを確認します。

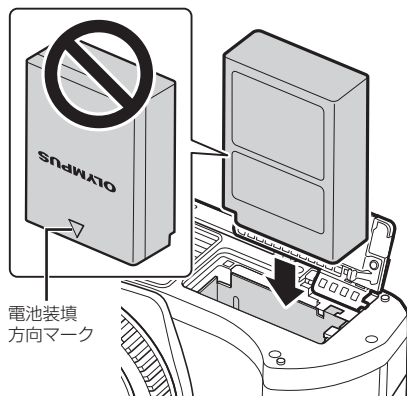


- 2 電池／カードカバーを開けます。



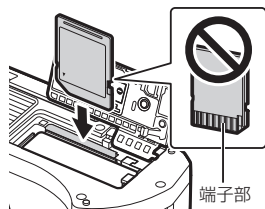
- 3 電池を入れます。

- 電池は必ずBLS-50 (P.12, 173)をお使いください。



4 カードを入れます。

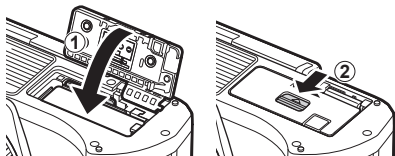
- カードがロックされるまで差し込みます。
- ☞ 「カードについて」(P.150)



- 破損、変形したカードを無理に入れないでください。カードスロットを破損させる場合があります。

5 電池／カードカバーを閉めます。

- カメラをご使用の際は、必ず電池／カードカバーを閉じてください。

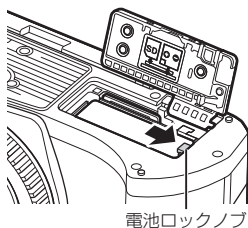


- 長時間の撮影には、電池の消耗に備えて予備の電池を用意されることをおすすめします。
- 「電池についてのご注意」も併せてお読みください(P.149)。

電池を取り出す

電池／カードカバーを開け閉めする際は、カメラの電源を切ってください。電池を取り出すには、電池ロックノブを矢印の向きに押し、ロックを外してから取り出します。

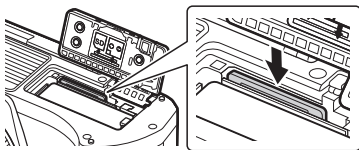
- カード書き込み中のマーク(P.25)が表示されている間は、絶対に電池を抜かないでください。
- カメラから電池を取り出せなくなった場合は無理に取り出さず、当社修理センターまたはサービスステーションまでご相談ください。



カードを取り出す

差し込まれているカードを軽く押すと、カードが出てきます。カードをつまんで取り出します。

- カード書き込み中のマーク(P.24、25)が表示されている間は、絶対にカードを抜かないでください。

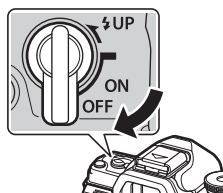


電池を充電する

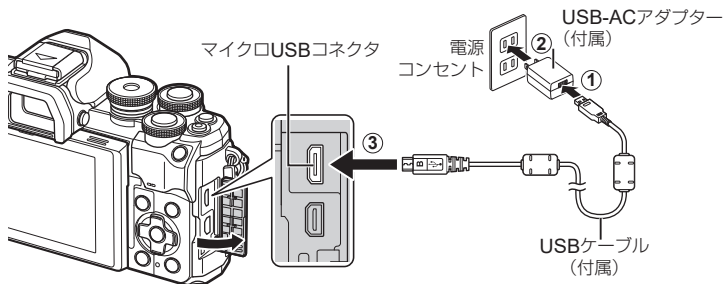
1

準備する

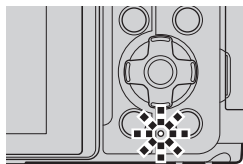
- 1 **ON/OFF**レバーが**OFF**の位置になっていることを確認します。



- 2 カメラに電池が入っていることを確認し、USBケーブル、USB-ACアダプター、電源コンセントを接続します。



- 付属または当社指定以外のUSBケーブルは絶対に使用しないでください。発煙や発火の恐れがあります。
- 本体内充電中は**CHARGE**ランプが点灯します。充電時間は約4時間です。充電が完了するとランプが消灯します。
- 充電中でも、カメラの電源をオンにすると充電は停止します。



- カメラの電源がオンのときは、**USB-ACアダプター**による充電はできません。
- **CHARGE**ランプが点滅しているときは充電エラーです。**USBケーブル**を外して接続しなおしてください。
- 電池の温度が0°C ~ 40°Cのときに、**USB機器**による充電ができます。
- 付属の充電電池は充電器(**BCS-5**：別売)を使って充電することもできます。



- 安全に充電を行うため、高温環境下では、充電時間が長くなる、または充電される容量が少なくなることがあります。
- カメラの電源がオフでも、スマートフォンとWi-Fi接続してデータを自動転送中のときは、充電できません。☞「カメラの電源オフ時に自動で画像を転送する」(P.142)

USB-ACアダプターの取扱いについて

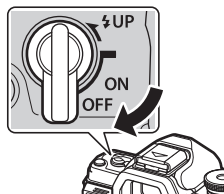
- お手入れの際は、**USB-ACアダプター**本体をコンセントから抜いて行ってください。**USB-ACアダプター**本体を抜かないで行くと、感電・けがの原因となることがあります。

レンズを取り付ける

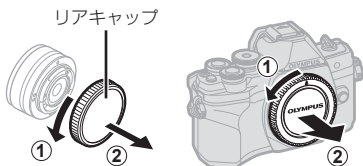
1

準備する

- 1 **ON/OFF**レバーが**OFF**の位置になっていることを確認します。



- 2 レンズのリアキャップ、カメラのボディキャップを外します。



- 3 カメラのレンズ合わせマーク(赤印)にレンズの取り付け指標(赤印)を合わせ、レンズをボディに差し込みます。

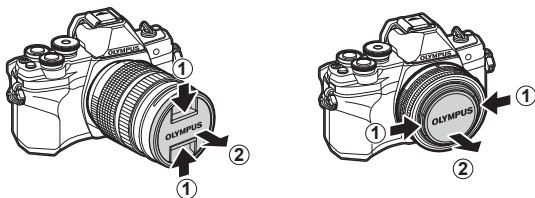


- 4 レンズをカチッと音がするまで矢印の方向に回します。



- レンズ取り外しボタンは押さないでください。
- カメラ内部には触らないでください。

- 5 レンズキャップを取り外します。

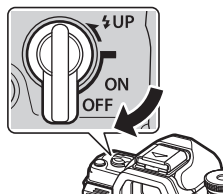


レンズを取り外す

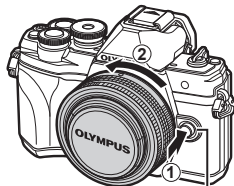
1

準備する

- 1 **ON/OFF**レバーが**OFF**の位置になっていることを確認します。



- 2 レンズ取り外しボタンを押しながら、矢印の方向に回します。



レンズ取り外しボタン

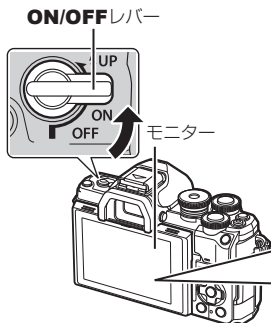
交換レンズについて

「交換レンズについて」(P.152)をお読みください。

電源を入れる

1 ON/OFFレバーをONの位置に合わせます。

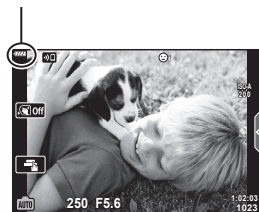
- 電源が入るとモニターが点灯します。
- 電源をオフにするには、レバーを**OFF**の位置に戻します。



電池残量表示

電池残量のアイコンが表示されます。

- 点灯(緑)：撮影できます。
- 点灯(緑)：電池が減っています。
- 点灯(緑)：残量が少なくなっています。
- 点滅(赤)：充電してください。



カメラのスリープ動作について

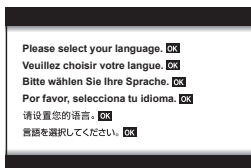
1分間何も操作しないとスリープモード(待機状態)になってモニターが消灯し、カメラは動作を停止します。シャッターボタンを操作するとカメラは動作を再開します。スリープモードで4時間放置すると電源が切れます。お使いになるときは、電源を入れなおしてください。スリープモードに入るまでの時間は変更できます。☞【スリープ時間】(P.132)

初期設定をする

初めて電源を入れたときは、初期設定として言語と日時の設定を行います。

- 日時の情報は画像とともにカードに記録されます。
- ファイル名は日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。設定されていないと使用できない機能もあります。

- 1 初期設定画面(言語の設定を促す画面)が表示されたら、**OK** ボタンを押します。



- 2 十字ボタンの Δ ∇ \triangleleft \triangleright またはフロント/リアダイヤルで、設定したい言語にカーソルを移動します。

- 言語を選択する画面は、2ページで構成されています。 Δ ∇ \triangleleft \triangleright ボタンまたはフロント/リアダイヤルでカーソルを移動して、ページを切り換えられます。



- 3 設定したい言語の位置にカーソルを移動させた状態で、**OK** ボタンを押します。

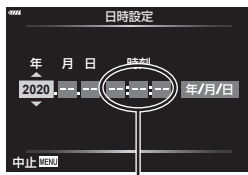
- **OK** ボタンを押す前にシャッターボタンを押すと、言語が設定されないまま撮影待機状態になります。その場合、一度カメラの電源を切ってから入れ直す初期設定画面が再度表示されますので、手順1から操作を行ってください。



- 言語の設定は、**Y**セットアップメニューで後から変更できます。**OK** 「表示言語を設定する(🗨️)」(P.126)

4 日付／時刻／日付表示順序を設定します。

- 十字ボタンの◀▶で項目を選びます。
- 十字ボタンの△▽で内容を選びます。
- 日時の設定は、↑セットアップメニューで後から変更できます。☞【日時設定】(P.125)



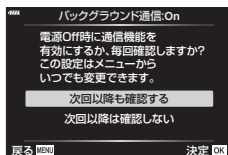
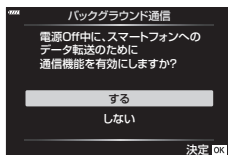
時刻は24時間表示です。

5 設定を終了します。

- Ⓞボタンを押して日付／時刻を確定します。
- カメラから電池を取り外してしばらく放置すると、日時が初期状態にリセットされる場合があります。
- ムービーを撮影する場合は、各国/地域のテレビ映像信号に合わせてムービーのフレームレートを設定してください。☞【動画フレームレート】(P.120)

電源を切るときは

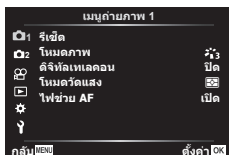
電源を切るには、**ON/OFF**レバーを**OFF**の位置に戻します。図の画面が表示される場合は、P.140をご確認ください。



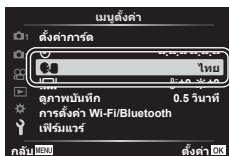
言語の表示がおかしい／設定した言語が表示されないときは

画面の表示が読めない文字になっていたり、意図しない言語が表示されたときは、言語設定時に設定したい言語とは異なる言語を選択した可能性があります。次の手順で言語の設定を変更してください。

- ① **MENU** ボタンを押し、メニューを表示します。
- ② $\Delta \nabla$ で **?** タブを選択し、**▷** を押します。



- ③ $\Delta \nabla$ で **[?]** を選択し、**▷** を押します。
- ④ $\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$ で設定したい言語を選択し、**OK** ボタンを押します。



2 撮影する

表示の切り換え

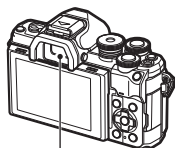
このカメラはアイセンサーの働きにより、ファインダーに目を近づけるとファインダーが自動的に点灯し、目を離すとファインダーが消えモニターが点灯します。



モニター



目を近づける



ファインダー

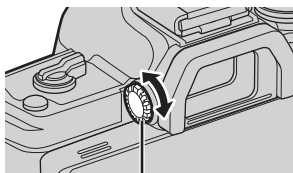


モニターにライブビューが表示されます。



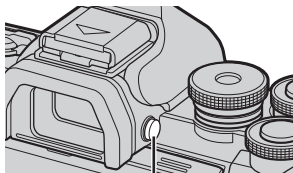
ファインダーにライブビューが表示されます。

- ファインダー内の表示がぼやけて見えるときは、ファインダーをのぞきながらファインダー内の表示がはっきり見えるまで視度調整ダイヤルを回します。



視度調整ダイヤル

- [O]ボタン**を長押しすると、ファインダーの自動切り換え設定変更メニューが表示されます。
[O] [EVF自動切換設定] (P.132)
- [EVF自動切換設定]**を**[Off]**に設定すると、**[O]ボタン**を押すごとに、モニター撮影とファインダー撮影が切り換わります。



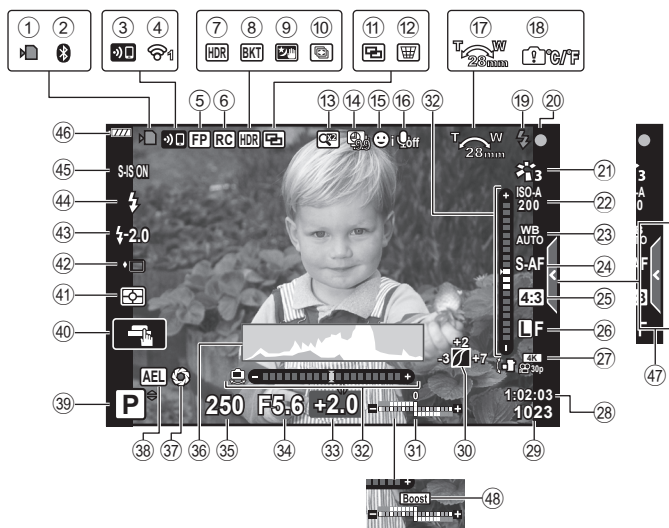
[O]ボタン



- モニターの角度を変えていると、アイセンサーは動きません。

撮影時の情報表示

静止画像撮影時のモニター表示



ムービーモード中のモニター表示

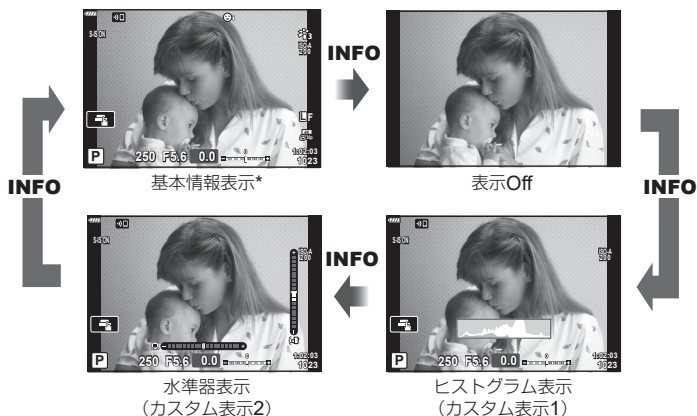
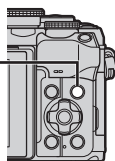


- ① カード書き込み中.....P.15
- ② Bluetooth®接続状態.....P.137-146
- ③ 無線LAN接続スタート.....P.137-146
- ④ 無線LAN接続状態.....P.137-146
- ⑤ スーパー FP発光.....P.154
- ⑥ RCモード.....P.155
- ⑦ HDR撮影.....P.41
- ⑧ AEブラケット撮影.....P.45
フォーカスブラケット撮影.....P.46
- ⑨ 手持ち夜景.....P.35
- ⑩ マルチフォーカス撮影.....P.36
- ⑪ 多重露出/多重露出撮影.....P.40, 116
- ⑫ デジタルシフト撮影.....P.44
- ⑬ デジタルテレコン.....P.115
- ⑭ インターバル撮影.....P.118
- ⑮ 顔優先/瞳優先.....P.69
- ⑯ ムービー録音.....P.120
- ⑰ ズーム操作方向/焦点距離
- ⑱ 内部温度上昇警告.....P.165
- ⑲ フラッシュ.....P.71
(点滅:充電中、点灯:充電完了)
- ⑳ 合焦マーク.....P.28
- ㉑ ピクチャーモード.....P.77, 115
- ㉒ ISO感度.....P.70
- ㉓ ホワイトバランス.....P.79
- ㉔ AF方式.....P.80
- ㉕ アスペクト比.....P.82
- ㉖ 画質モード(静止画).....P.82
- ㉗ 画質モード(ムービー).....P.83
- ㉘ 録画可能時間
- ㉙ 撮影可能枚数.....P.151
- ㉚ ハイライト&シャドウコントロール.....P.95
- ㉛ 上:フラッシュ補正.....P.88
下:露出補正.....P.67
- ㉜ 水準器.....P.26
- ㉝ 露出補正值.....P.67
- ㉞ 絞り値.....P.51-57
- ㉟ シャッター速度.....P.51-57
- ㊱ ヒストグラム.....P.26
- ㊲ プレビュー.....P.97
- ㊳ AEロック.....P.97, 132
- ㊴ 撮影モード.....P.27-65
- ㊵ タッチ操作.....P.30
- ㊶ 測光方式.....P.90
- ㊷ 連写/セルフタイマー.....P.73
静音撮影.....P.42
- ㊸ フラッシュ補正.....P.88
- ㊹ フラッシュモード.....P.71
- ㊺ 手ぶれ補正.....P.88
- ㊻ 電池残量.....P.19
- ㊼ ライブガイド呼び出し.....P.32
- ㊽ LVブースト.....P.128
- ㊾ 録音レベルメーター.....P.120
- ㊿ 静音操作タブ.....P.65
- ㉠ ムービー(露出)モード.....P.87

情報表示を切り換える

撮影待機状態で**INFO**ボタンを押すと、撮影時の情報表示の切り換えができます。

INFOボタン



* (ムービーモード)の撮影待機中は表示されません。

- カスタム表示1とカスタム表示2の設定は変更できます。 **[Info表示設定]**の **[LV-Info]** (P.128)
- **INFO**ボタンを押しながらフロントダイヤルを回して撮影時の情報表示を双方向に変更することもできます。

ヒストグラム表示

画像の明るさの分布をヒストグラムで表示します。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの画素数を表しています。撮影時は露出オーバーの部分を赤、露出アンダーの部分を青、スポット測光のエリア内を緑で表示します。



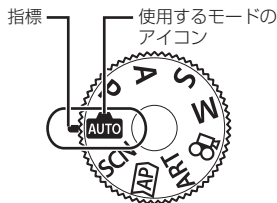
水準器表示

カメラの傾きを表示します。「あおり」方向は縦のバー、「水平」方向は横のバーで表示します。バーが緑色で表示されたとき、カメラは水平・垂直になります。

- 水準器の表示は目安としてお使いください。
- 表示に誤差がある場合は、水準器調整(P.132)を行ってください。

撮影モードを選んで静止画を撮る

モードダイヤルを使って撮影モードを選んで撮影します。



撮影モードの種類

各撮影モードの使い方は以下をご覧ください。

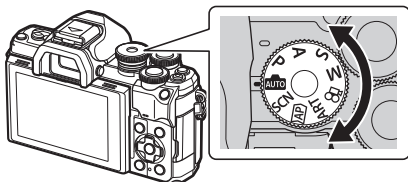
撮影モード	内容	📖
	カメラが最適な撮影モードに自動的に設定します。	P.32
SCN	被写体や撮影シーンに合わせて適切な設定で撮影できます。	P.34
	一歩進んだ撮影機能を簡単に使うことができます。	P.37
ART	芸術的な表現の効果を加えた撮影ができます。	P.47
P	被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定します。	P.51
A	絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定します。	P.53
S	シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定します。	P.55
M	絞り値とシャッター速度を自分で設定できます。	P.57
	いろいろなムービー撮影ができます。	P.63

メニューで選べない機能について

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。

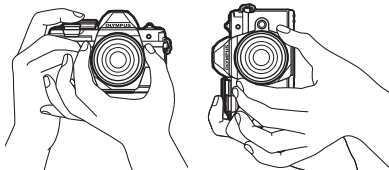
- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- 設定済みの項目との組み合わせにより設定できない場合
モードダイヤルを に設定していると、ピクチャーモードが選択できないなど

1 モードダイヤルを回して使用するモードに設定します。



2 カメラを構えて構図を決めます。

- レンズやAFイルミネーターに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

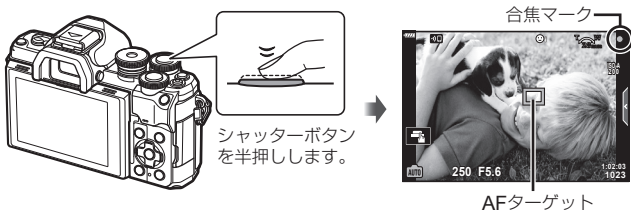


横位置

縦位置

3 ピントを合わせます。

- 被写体がモニター中央にくるようにして、シャッターボタンを1段目まで浅く押し込みます(半押し)。
合焦マーク(●)が表示され、ピントの合ったところに緑の枠(AFターゲット)が表示されます。



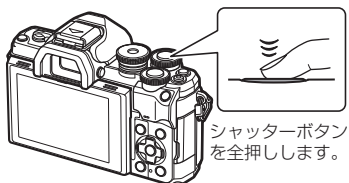
シャッターボタンを半押しします。

AFターゲット

- 合焦マークが点滅しているときは、被写体にピントが合っていません(P.163)。

4 撮影します。

- 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます(全押し)。
- シャッターが切れ、撮影されます。
- 撮影された画像がモニターに表示されます。



シャッターボタンを全押しします。

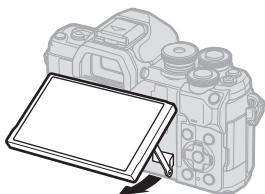


- タッチ操作でもピント合わせや静止画の撮影ができます。☞ 「タッチパネルを使って撮る」(P.30)
- メニュー操作中、再生中にシャッターボタンを半押しすると、撮影待機状態になります。

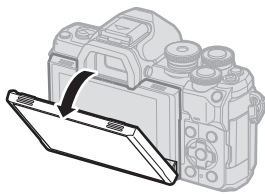
ハイアングル・ローアングルで撮る

モニターの向きと角度を変えることができます。

ローアングル



ハイアングル

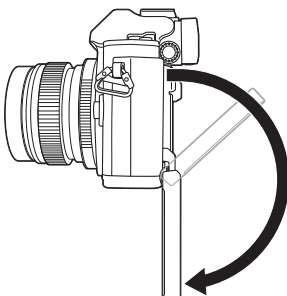
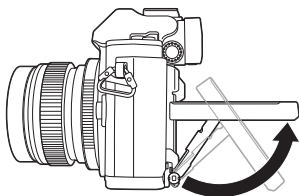


2

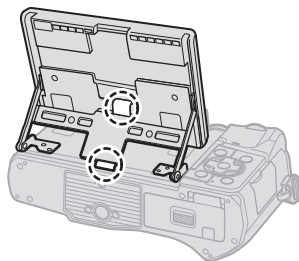
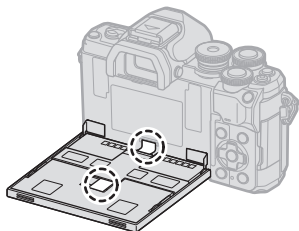
撮影する

モニターを回転させるときのご注意

- モニターを回転させるときは、回転範囲内でゆっくりと回してください。無理な力がかかると接続部の破損の原因となります。




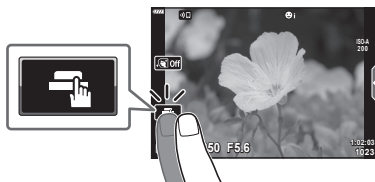
- 図で示した箇所には触れないでください。破損や故障の原因となります。






- モニターを反転させ、構図を確認しながら自分を撮影できます。📷「自分撮りモードで撮影する」(P.66)

タッチパネルを使って撮る


 ボタンにタッチするたびに操作方法が切り換わります。



	タッチした箇所にピントを合わせて自動的に撮影します。 ムービーモード/バルブ/タイム/コンポジット撮影では使えません。
	タッチ操作を禁止します。
	タッチした箇所にAFターゲットを表示してピントを合わせます。 撮影はシャッターボタンを押します。


■ ピントを合わせる被写体を確認する()

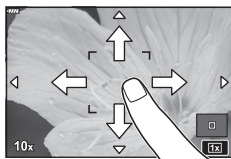
1 ピントを合わせたい被写体にタッチします。


- AFターゲットが表示されます。
- レベルバーを指で上下させると枠の大きさを変えられます。
-  にタッチするとAFターゲット表示を終了します。




2 にタッチすると、枠の位置を拡大表示します。

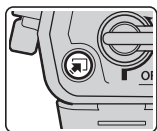
- 拡大中に、タッチした状態で指を動かすとスクロールできます。
-  にタッチすると拡大表示を終了します。
- ムービーモードでは、枠の大きさを変えたり枠の位置を拡大表示することはできません。



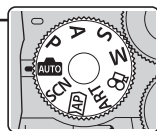
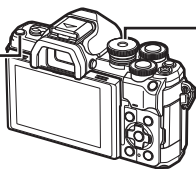
- 次の場合はタッチ操作できません。
ワンタッチWB取得画面/ボタンまたはダイヤル操作中など
- 先のがったものや爪で操作しないでください。
- モニター保護シートや手袋を使っていると、うまく操作できない場合があります。
- タッチパネルの操作を禁止することができます。 **【タッチパネル設定】** (P.132)

(ショートカット)ボタンで表示を切り換える

撮影待機時に  ボタンを押すと、選んでいる撮影モードの各画面に切り換わります。



 (ショートカット)ボタン



モードダイヤル



ライブガイド(P.32)



SCN

シーンモード(P.34)



アドバンスドフォトモード(P.37)



ART

アートフィルターモード(P.47)



P/A/S/M

LVスーパーコンパネ(P.76)




ムービーモード(P.63)

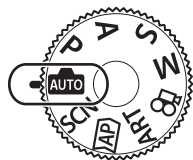


カメラまかせで撮影する(オートモード)


シャッターボタンを押すだけで、撮影シーンに適した撮影ができます。
ライブガイドを使って、色合いや明るさ、ぼかし等の効果を簡単に設定できます。

1 モードダイヤルを に合わせます。

- オートモードでは、シャッターボタンを半押しすると、撮影に適したシーンをカメラが自動的に判別します。シーンを判別すると、画面左下の  アイコンが判別したシーンモードのアイコンに変わります。





2 撮影の設定を変更したい場合は、 ボタンを押してライブガイドを表示します。

- △▽を押してガイド項目を選択し、 ボタンを押すと、スライダーが表示されます。



ガイド項目

3 △▽でスライダーを動かしてレベルを調整します。

-  ボタンを押して設定を確定します。
- ライブガイドの設定を解除するときは、**MENU** ボタンを押します。
- 【撮影のヒント】を選んだときは、△▽で項目を選択し、 ボタンを押すと説明が表示されます。
- レベルを変更すると画面で効果を確認できます。
【背景をぼかす】、【動きを表現する】では設定を確定すると元の表示に戻りますが、撮影した画像に効果は反映されます。



スライダー

4 複数のライブガイドを設定する場合は、手順2と3を繰り返します。

- 設定済みのライブガイドには、ガイド項目にチェックが表示されます。
- 【背景をぼかす】、【動きを表現する】は同時に設定できません。





5 撮影します。


- **MENU**ボタンを押すとライブガイドは終了します。
- 画質モードが**[RAW]**のときは、自動的に**RAW+JPEG**に設定されます。
- ライブガイドの一部の設定は、**RAW**画像には適用されません。
- ライブガイドの設定レベルによっては、画像の粗さが強調される場合があります。
- ライブガイドの設定レベルを変えても、効果をライブビューであまり確認できない場合があります。
- **[動きを表現する]**でスライダーを**[動きを流す]**の方向へ動かすと、表示のフレームレートが遅くなります。
- ライブガイドではフラッシュは無効です。
- ライブガイドの設定がカメラの連動範囲外になると、白くとんだり暗い画像になる場合があります。



- タッチで操作することもできます。

ワンタッチeポートレート

 Off (ワンタッチeポートレートアイコン)をタッチして  On にすると、ワンタッチeポートレートがオンになり、肌の質感をなめらかにした撮影ができます。

 「自分撮りモードで撮影する」(P.66)

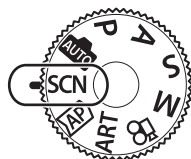


ワンタッチeポートレート
アイコン

シーンモードを使う(SCNモード)

被写体や撮影シーンに合わせて適切な設定で撮影できます。

1 モードダイヤルを**SCN**に設定します。



2 Δ ∇ \triangleleft \triangleright で撮影シーンを選択し、 \odot ボタンを押します。



3 \triangleleft \triangleright でシーンモードを選択し、 \odot ボタンを押して設定します。

- 他のシーンを選ぶときは、 \blacktriangleright ボタンを押します。
















4 撮影します。















- タッチで操作することもできます。

シーンモードの種類

撮影シーン	シーンモード	内容
人を撮る	ポートレート	人物撮影に適しています。肌の質感を強調します。
	ビューティー	肌をなめらかに整えます。効果適用前と適用後の2コマの画像が同時に記録されます。
	風景&人物	風景を背景にした人物の撮影に適しています。青・緑・肌の色を綺麗に再現します。
	夜景&人物	夜景を背景にした人物の撮影に適しています。フラッシュをポップアップしてください(P.71)。三脚の使用とOI.Shareを使ったリモート撮影をおすすめします(P.138, 143)。
	キッズ	活発な子供などの被写体を撮影するのに適しています。

撮影シーン	シーンモード	内容
夜景を撮る	 夜景	カメラを三脚で固定しての夜景撮影に適しています。三脚の使用と <i>OI.Share</i> を使ったりリモート撮影をおすすめします(P.138, 143)。
	 夜景&人物	夜景を背景にした人物の撮影に適しています。フラッシュをポップアップしてください(P.71)。三脚の使用と <i>OI.Share</i> を使ったりリモート撮影をおすすめします(P.138, 143)。
	 手持ち夜景	三脚を使わない夜景撮影に適しています。手ぶれによる乱れを軽減します。 1回の撮影で8枚撮影して合成します。
	 打ち上げ花火	夜空の花火を撮影するのに適しています。三脚の使用と <i>OI.Share</i> を使ったりリモート撮影をおすすめします(P.138, 143)。
	 光跡撮影	自動的に複数枚を撮影して明るく変化した部分だけを合成します。 長時間露出では全体が明るくなってしまうシーンでも、仕上がりをモニターで確認しながら、建物や夜空などを背景にして星などの光跡を表現できます。シャッターボタンを押して撮影を開始し、モニターで画像が変化する様子を確認しながら最適な仕上がりでシャッターボタンを押して撮影を終了します。 (最長3時間) 三脚の使用と <i>OI.Share</i> を使ったりリモート撮影をおすすめします(P.138, 143)。 <ul style="list-style-type: none"> • Mモードのライブコンポジット(比較明合成)では、より詳細な設定ができます(P.60)。
動きのあるものを撮る	 スポーツ	動きのある被写体の撮影に適しています。連写撮影になります。
	 キッズ	活発な子供などの被写体を撮影するのに適しています。
	 流し撮り	移動する被写体に対して、背景が流れるような撮影に適しています。カメラの動きを検出し、流し撮りに最適なシャッター速度で撮影します。
風景を撮る	 風景	風景撮影に適しています。
	 夕日	夕日の撮影に適しています。
	 ビーチ&スノー	晴天の海や雪山で撮影するのに適しています。
	 パノラマ	通常の画像に比べて広い画角のパノラマ写真を撮影できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 撮影方法は「パノラマ写真を撮影する」(P.43)の手順3以降をご覧ください。
	 HDR逆光補正	明暗の差が大きい撮影に適しています。連写した画像を合成して適切な明るさに補正します。シャッターボタンを押すと、自動的に4枚の撮影を行います。撮影が終わると、自動的に1枚の画像が合成されます。

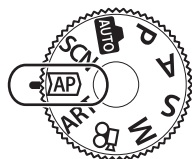
撮影シーン	シーンモード	内容
室内で撮る	 キャンドル ライト	キャンドルライトの光源下で撮影するのに適しています。温かみのある色が再現されます。
	 静音[♥]撮影	カメラが発するシャッター音や光が気になる場所で、音や光を発しないで撮影できます。 • 撮影方法は「 静音[♥]撮影 を使う」(P.42)の手順2以降をご覧ください。
	 ポートレート	人物撮影に適しています。 肌の質感を強調します。
	 ビューティー	肌をなめらかに整えます。 効果適用前と適用後の2コマの画像が同時に記録されます。
	 キッズ	活発な子供などの被写体を撮影するのに適しています。
	 HDR逆光補正	明暗の差が大きい撮影に適しています。連写した画像を合成して適切な明るさに補正します。シャッターボタンを押すと、自動的に4枚の撮影を行います。撮影が終わると、自動的に1枚の画像が合成されます。
近づいて撮る	 マクロ	クローズアップ撮影に適しています。
	 ネイチャー マクロ	クローズアップ撮影に適しています。 花や昆虫を鮮やかに撮影するのに適しています。
	 文書	書類や時刻表を撮影するのに適しています。文字と背景の明暗がはっきりと再現されます。
	 マルチ フォーカス撮影	1コマごとにピント位置を変えて最大8コマ撮影します。 • 撮影方法は「 フォーカスブラケット でピントの位置を変えて撮影する」(P.46)の手順2以降をご覧ください。

- シーンの効果を最大限に引き出すため、撮影機能の設定変更には制限があります。
- **[ビューティー]**では、記録に時間がかかることがあります。また、画質モードが**[RAW]**のときは、RAW+JPEGで記録されます。
- **[ビューティー]**、**[手持ち夜景]**、**[パノラマ]**、**[HDR逆光補正]**ではムービー撮影はできません。
- **[手持ち夜景]**では、画質モードが**[RAW]**のとき、RAW+JPEGで1枚目のRAW画像と合成されたJPEG画像が記録されます。
- **[HDR逆光補正]**では、HDR処理された画像はJPEGで記録されます。画質モードが**[RAW]**のときはRAW+JPEGで記録されます。
- **[流し撮り]**では、流し撮り検出時に、未検出時にが表示されます。
- **[流し撮り]**で手ぶれ補正機能切り換えスイッチがついているレンズを使用する場合、手ぶれ補正機能切り換えスイッチをオフにしてください。
- 明るいシーンでは、流し撮り効果を十分に得られない場合があります。市販のNDフィルターを使うと、効果を得られやすくなります。

アドバンスフォトモードを使う(ⒶPモード)

一歩進んだ撮影機能を簡単に使うことができます。

1 モードダイヤルをⒶPに設定します。



2 <D>でAPモードを選択します。

- モードによっては、▽で詳細設定ができます。



3 OKボタンを押して設定します。

- 他のモードを選ぶときは、M/ボタンを押します。詳細設定が表示されたときは△を押します。



- モードによっては、フロントダイヤルで露出補正(P.67)の設定ができ、リアダイヤルでプログラムシフト(P.52)が使えます。
- タッチで操作することもできます。

APモードの種類

APモード	内容	📖
ライブコンポジット	全体の明るさは一定のまま星などの光の軌跡を観察しながら撮影できます。	P.38
ライブタイム	花火や夜景などの撮影に適しています。設定した時間で長時間撮影ができます。	P.39
多重露出	2枚の画像を重ねて合成できます。	P.40
HDR撮影	明るい部分と暗い部分のどちらも再現した写真を撮ることができます。	P.41
静音[♥]撮影	カメラが発するシャッター音や光が気になる場所で、音や光を発生しないで撮影できます。	P.42
パノラマ	複数の画像をつなぎ合わせた画角の広い画像の撮影ができます。通常の画像に比べて広い画角([S180])とさらに広い画角([S270])の2種類から選べます。	P.43
デジタルシフト	建物や風景の遠近感による画像の歪みを補正できます。	P.44
AEブラケット	1回の撮影で、1コマごとに露出を変えて複数コマを連続撮影します。	P.45
フォーカスブラケット	1回の撮影で、1コマごとにピント位置を変えて最大8コマを連続撮影します。	P.46

[ライブコンポジット]で撮影する

背景の明るさを変えずに、星などの光の軌跡を観察しながら、簡単に撮影することができます。**SCN**モードの光跡撮影ではできないピクチャーモードやホワイトバランスなどを変更できます。

- 1** APモードメニュー (P.37)で**[ライブコンポジット]**を選び、**[OK]**ボタンを押します。
- 2** シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
 - カメラのぶれを抑えるために、しっかりした三脚でカメラを固定し、**OI.Share**を使ったりリモート撮影をおすすめします (P.143)。
 - 合焦マークが点滅したときはピントが合っていません。
- 3** シャッターボタンを全押しして撮影します。
 - カメラが自動で適切な設定を行い、撮影を開始します。
 - シャッターボタンを押してから撮影開始までにタイムラグがあります。
 - 一定時間毎に合成された画像が表示されます。
- 4** シャッターボタンをもう一度押しして撮影を終了します。
 - モニターで画像が変化の様子を確認しながら、最適な仕上がりで撮影を終了します。
 - 1回で撮影できる時間は、最長3時間です。



- M**モードのライブコンポジット(比較明合成)では、より詳細な設定ができます (P.60)。

[ライブタイム]で撮影する

シャッターボタンを押し続けることなく長時間露出撮影をすることができます。撮影中は変化する仕上がりをモニターで確認できます。

1 APモードメニュー (P.37)で[ライブタイム]を選びます。

2 ▽を押して、◀▶で最大露出時間を選び、OKボタンを押します。

- 設定した最大露出時間によって、画面の表示更新時間が自動的に決まります。
- 最大露出時間が短いほど、画面の表示更新時間が短くなります。



3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- カメラのぶれを抑えるために、しっかりした三脚でカメラを固定し、OI.Shareを使ったりリモート撮影をおすすめします (P.143)。
- 合焦マークが点滅したときはピントが合っていません。

4 シャッターボタンを全押ししてライブタイム撮影を開始します。

- カメラが自動で適切な設定を行い、撮影を開始します。
- モニターで画像が変化する様子を確認できます。

5 シャッターボタンをもう一度押しして撮影を終了します。




- モニターで画像が変化する様子を確認しながら、最適な仕上がりで撮影を終了します。
- 設定した露出時間が経つと自動的に撮影を終了します。



- Mモードの長秒時(バルブ/タイム)撮影では、より詳細な設定ができます (P.58)。

[多重露出]で合成画像を撮影する

2枚の異なる画像を重ねて1つの画像に合成します。

- 1 APモードメニュー (P.37)で[多重露出]を選び、ボタンを押します。
- 2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
 - 合焦マークが点滅したときはピントが合っていません。
- 3 シャッターボタンを全押しして1枚目を撮影します。
 - 撮影を始めるとが緑で表示されます。
 - 撮影した画像が半透過で表示されます。
 - ボタンを押すと、撮影した画像が取り消されます。
- 4 2枚目を撮影します。
 - 合成位置を確認しながら撮影します。


- 多重露出撮影を設定すると、スリープモードには入りません。
- 次の場合は2枚目の撮影が自動的に解除されます。

電源を切る / ボタンを押す / **MENU**ボタンを押す / ボタンを押す /
モードダイヤルを回す / 電池残量がなくなる / 各コネクタへのケーブルの挿入



- 撮影した画像を合成したい:  「画像を合成する(画像合成)」(P.123)



- P/A/S/M時に適用できる多重露出撮影では、より詳細な設定ができます。
 「複数の画像を重ね合わせて撮影する(多重露出撮影)」(P.116)

[HDR撮影]で合成画像を撮影する

明るい部分と暗い部分のどちらも再現した写真を撮ることができます。露出を変えた4枚の画像を撮影をして、自動的に合成します。

1 APモードメニュー (P.37)で[HDR撮影]を選びます。

2 ▽を押して、◀▶で[HDR1]または[HDR2]を選択し、OKボタンを押します。

HDR1	露出を変えて4枚の撮影をして、カメラ内でHDR合成をします。[HDR2]は[HDR1]より印象的な画像になります。ISO感度は200に固定されます。
HDR2	



3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。


- 合焦マークが点滅したときはピントが合っていません。

4 シャッターボタンを全押ししてHDR撮影を開始します。



- シャッターボタンを押すと、自動的に4枚の撮影を行います。
- シャッター速度が遅くなる条件で撮影すると、画像にノイズが目立つ場合があります。
- 三脚などでカメラを固定して撮影すると、より効果的です。
- 撮影中にモニターやファインダーに表示される画像は、HDR処理された画像とは異なります。
- HDR処理された画像はJPEGで記録されます。画質モードが[RAW]のときはRAW+JPEGで記録されます。
- ピクチャーモードは[Natural]に、カラー設定は[sRGB]に固定されます。

[静音[♥]撮影]を使う

カメラが発するシャッター音や光が気になる場所で、音や光を発しないで撮影できます。

- 1 APモードメニュー (P.37)で[静音[♥]撮影]を選び、 ボタンを押します。
- 2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
 - 合焦マークが点滅したときはピントが合っていません。
- 3 シャッターボタンを全押しして撮影します。
 - シャッターが切れるとモニターの画面は一度暗くなります。シャッター音はしません。
 - 被写体の大きな動きや蛍光灯やLED照明などのフリッカーにより、画像に乱れが出ることがあります。
 - **SCN** / **AP**モードの[静音[♥]撮影]では、カメラが発する音と光を抑えるために、以下の動作になります。
 - 電子シャッター撮影
 - 電子音：Off
 - AFイルミネーター：Off
 - フラッシュ：発光禁止
 - **SCN** / **AP**モードの静音撮影時、長秒時ノイズ低減機能は動きません。
 - 電子シャッターで撮影するため、動きの速い被写体の撮影やカメラを激しく動かして撮影をすると、被写体が歪んで写ることがあります。





-  を押すと連写/セルフタイマー撮影(P.73)が行えます。
- **P/A/S/M/ART**時に設定できる静音[♥]撮影(P.74)では、より詳細な設定ができます。 「静音撮影時の動作を設定する(静音[♥]撮影設定)」(P.119)

パノラマ写真を撮影する

ガイドに従ってカメラを動かすだけで、画角の広い1枚の画像(パノラマ写真)を撮影できます。

1 APモードメニュー (P.37)で[パノラマ]を選びます。

2 ▽を押して、◀▶でパノラマ写真の種類を選んで
OKボタンを押します。

	通常の画像に比べて広い画角のパノラマ写真を撮影します。
	STDよりもさらに広い画角のパノラマ写真を撮影します。



3 ▲▽◀▶でカメラを動かす方向を選び、OKボタンを押します。

- ・フロント/リアダイヤルで方向を選ぶこともできます。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。



5 シャッターボタンを全押しして撮影を開始し、モニターに表示された矢印の方向にゆっくりとカメラを動かします。

- ・カメラの動きに合わせて、モニター上の矢印が移動します。
- ・MENUボタンを押すと、撮影を中断して手順3に戻ります。



6 モニター上の矢印が端まで移動すると、撮影が終了してパノラマ写真が合成されます。



- ・ピントや露出などは、撮影開始時の設定で固定されます。
- ・矢印が端まで移動する前に、OKボタンを押すか再度シャッターボタンを押すと撮影が終了し、それまでに撮影した画像が合成されます。
- ・次の場合は、エラーが表示されてパノラマ撮影が中断されることがあります。
カメラの動きが遅すぎるまたは速すぎる場合/カメラを斜めに動かした場合/
モニター上の矢印と逆方向にカメラを動かした場合/レンズのズームを使用した場合/
カメラを動かさずに一定時間が経過した場合
- ・レンズによってはパノラマ撮影ができない場合があります。

[デジタルシフト]を使う

建物などを撮影したとき、レンズの焦点距離や距離の影響で台形に歪んで写るのを正しい形に補正したり、正しい形状を歪めて遠近感を強調した画像を撮影できます。画面で効果を見ながら、補正量を設定します。補正した画像は元の画像から切り出されるので、少し拡大されます。

1 APモードメニュー (P.37)で[デジタルシフト]を選び、**OK**ボタンを押します。

2 画面を見ながら補正をして構図を決めます。

- フロントダイヤルとリアダイヤルで台形補正をします。
- **△▽◀▶**で記録する範囲を決めます。補正量によっては、範囲の移動ができない場合があります。
- **OK**ボタンを長押しすると、設定がキャンセルされます。
- デジタルシフト撮影時に露出補正などの撮影機能を設定する場合は、**INFO**ボタンを押して表示をデジタルシフト設定画面以外に切り換えます。デジタルシフト撮影に戻るには、デジタルシフト設定画面が表示されるまで**INFO**ボタンを押します。



3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- 合焦マークが点滅したときはピントが合っていません。

4 シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 補正の度合いを大きくするほど、下記となります。
 - 画像が粗くなります。
 - 切り出し時の倍率は大きくなります。
 - 切り出し位置の移動ができなくなります(上下・左右両方向補正時)。
- 画質モードが[RAW]のときは、RAW+JPEGで記録されます。
- コンバーターレンズをお使いの場合は、意図どおりに補正できない場合があります。
- 補正の度合いによっては、一部のAFターゲットが表示範囲内がない場合があります。表示範囲の外にあるAFターゲットでピントがあったときはアイコン(☰、♀、◀、▶)が表示されます。
- [手ぶれ補正]で焦点距離設定をしているときは、設定値に従って補正されます。マイクロフォーサーズ/フォーサーズ以外のレンズを使うときは、[手ぶれ補正]で焦点距離設定をしてください(P.88)。

[AEブラケット]で露出を変化させた画像を撮影する

1コマごとに露出を変えた画像が撮影できます。

1 APモードメニュー (P.37)で[AEブラケット]を選びます。

2 ▽を押して、◀▶で撮影コマ数を設定して、**OK**ボタンを押します。

3f	3コマの画像をそれぞれ0.0 (EV適正露出)、-1.0EV、1.0EVの露出で撮影します。
5f	5コマの画像をそれぞれ0.0 (EV適正露出)、-1.3EV、-0.7EV、0.7EV、1.3EVの露出で撮影します。



2

撮影する

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。


- 合焦マークが点滅したときはピントが合っていません。



4 シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 設定したコマ数の撮影を行います。
- ブラケット撮影中は**OK**が緑色で表示されます。
- 露出補正を行っている場合、すでに補正されている値を中心としたAEブラケット撮影が行われます。

[フォーカスブラケット]でピントの位置を変えて撮影する

自動的にピント位置を変えながら、1回の撮影で8コマ撮影します。

- 1 APモードメニュー (P.37)で[フォーカスブラケット]を選びます。
- 2 ▽を押して、<|>でピントの移動量を設定して、ボタンを押します。

	それぞれのピントの間隔を狭く設定して撮影します。
	それぞれのピントの間隔を広く設定して撮影します。

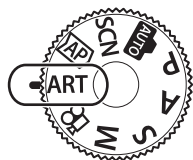


- 3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
 - 合焦マークが点滅したときはピントが合っていません。
- 4 シャッターボタンを全押しして撮影します。
 - 1コマごとにピント位置を変えながら、8コマ撮影します。シャッターボタンを半押ししてピントを合わせた位置とその前後でピントを移動させて撮影します。
 - ブラケット撮影中は[BKT]が緑色で表示されます。
 - フォーカスブラケット撮影中にズーム操作を行うと、撮影は終了します。
 - ピント位置が∞(無限遠)に達すると撮影が終了します。
 - フォーカスブラケット撮影は、電子シャッターで動作します。
 - 一部のマイクロフォーサーズ規格レンズやフォーサーズマウント規格レンズ使用時は、フォーカスブラケット撮影はできません。

アートフィルターを使う(ARTモード)

モードダイヤルを**ART**に設定すると、アートフィルターを選択するだけで芸術的な表現を気軽に楽しめます。

1 モードダイヤルを**ART**に設定します。



2 <D>でフィルターを選びます。

- [ポップアート1]または[ファンタジックフォーカス]を選ぶと、スライダーが表示されます。アートフィルターのかかり具合を調整できます(P.50)。



スライダー

3 ▽を押して、<D>でエフェクト(効果)を設定します。

- 設定できる効果はアートフィルターごとに異なります(ソフトフォーカス効果、ピンホール効果、枠(フレーム)効果、ホワイトエッジ効果、スターライト効果、フィルター効果、調色、ぼかし効果、シェード効果)。

4 ▽を押して、露出補正を設定します。


- スライダーが表示されます。
- フロントダイヤルを回して補正量を決めます。
- +補正にするとより明るく、-補正にするとより暗く表現できます。±5.0EVの範囲で補正できます。ライブビューの明るさは±3.0EVまでしか変化しません。露出補正バーは±3.0EVを超えると点滅します。
- OKボタンを長押しすると、補正量をリセットできます。



スライダー

5 OKボタンを押します。

6 撮影します。

- 他のアートフィルターを選ぶときは、ボタンを押します。エフェクトが表示されたときは△を押します。露出補正が表示されたときは▽を押します。



露出補正バー



- アートフィルターによっては、【フィルター効果】(P.92)や【調色】(P.93)の設定が可能です。
- 手順5でOKボタンを押したあとフロントダイヤルで露出補正(P.67)の設定が、リアダイヤルでプログラムシフト(P.52)の設定ができます。
- タッチで操作することもできます。

2

アートフィルターの種類

ポップアートⅠ／Ⅱ	色の美しさを強調した仕上がりになります。
ファンタジックフォーカス	柔らかいトーンの中で空気感を表し、幻想的な仕上がりになります。
デイドリームⅠ／Ⅱ	全体的に光を散らし、露出をややオーバー気味にして、やさしい光に包まれた浮遊感を表現した仕上がりになります。
ライトトーン	シャドウ部もハイライト部も柔らかく描写し、上質で落ち着いた仕上がりになります。
ラフモノクロームⅠ／Ⅱ	モノクロならではの力強さ、荒々しさを表現した仕上がりになります。
トイフォトⅠ／Ⅱ／Ⅲ	画面周辺部を暗くして、古いカメラやトイカメラを使って撮ったときのような仕上がりになります。
ジオラマⅠ／Ⅱ	彩度やコントラストを強調し、ピントを合わせた位置以外をぼかし、ミニチュアのような雰囲気の上仕上がりになります。
クロスプロセスⅠ／Ⅱ	不安定で非現実的な雰囲気を表現した仕上がりになります。クロスプロセスⅡは、マゼンタを強調した仕上がりになります。
ジェントルセピア	全体的に柔らかい描写で、落ち着いた雰囲気の中にもシャドウ部が引き締まった、しっとりとした上品な仕上がりになります。
ドラマチックトーンⅠ／Ⅱ	部分的にコントラストを強くし、明暗差を強調した仕上がりになります。
リーニュクレールⅠ／Ⅱ	エッジラインを強調し、イラストテイストを付加した仕上がりになります。
ウォーターカラーⅠ／Ⅱ	暗部を大胆に削除し、白いキャンバスに淡く明るい色彩をなじませ、さらに柔らかい輪郭線を載せて、ほんわりとした明るい雰囲気の上仕上がりになります。
ヴィンテージⅠ／Ⅱ／Ⅲ	フィルムプリントの変色や退色などの効果を加えることによって、日常のひとコマをノスタルジックなヴィンテージ調に表現します。
パートカラーⅠ／Ⅱ／Ⅲ	強調したい色を抽出し、それ以外はモノトーンに抑えることで、被写体を印象的に表現します。
ブリーチバイパスⅠ／Ⅱ	映画撮影などで用いられる「銀残し(ブリーチバイパス)」の効果を加えることで、街並みなどの情景や金属の質感をより印象的に表現します。
ネオノスタルジー	フィルム特有の人物の肌のトーンや暗部の色の変化を、現代風にアレンジして表現します。

Ⅱ、Ⅲは、オリジナル(Ⅰ)に対して変化をつけたものです。

- アートフィルターの効果を最大限に引き出すため、撮影機能の設定変更には制限があります。
- 画質モード(P.82)が**[RAW]**のときは、自動的にRAW+JPEGに設定されます。アートフィルターの効果はJPEG画像にのみ適用されます。

- ・撮影シーンによっては階調が崩れたり、補正の効きが弱くなったり、また画像の粗さが強調される場合があります。
- ・エフェクトの設定によっては、ムービー撮影に反映しないものもあります。
- ・ムービー撮影時、フィルター、効果、ムービーの画質設定によっては、再生時のスピードや滑らかさが異なります。

アートフィルターのかかり具合を調整する(ファインチューン)

ポップアートⅠ、ファンタジックフォーカスのかかり具合を調整して撮影できます。

1 アートフィルターメニュー (P.49)で [ポップアートⅠ]または[ファンタジックフォーカス]を選びます。

- ・スライダーが表示されます。
- ・フロントダイヤルを回してアートフィルターのかかり具合を決めます。
- ・タッチで操作することもできます。
- ・画面で効果を確認できます。
- ・**OK**ボタンを長押しすると、アートフィルターのかかり具合をリセットできます。



スライダー

2 **OK**ボタンを押します。

3 撮影します。

- ・再度アートフィルターのかかり具合を調整するときは、**戻る**ボタンを押します。

[パートカラー]で撮影する

特定の色のみを残した画像にできます。

1 アートフィルターメニュー (P.49)で[パートカラーⅠ/Ⅱ/Ⅲ]を選びます。

- ・画面にカラーリングが表示されます。



2 フロントダイヤルを回して色を選択します。

- ・画面で効果を確認できます。
- ・タッチで操作することもできます。

3 **OK**ボタンを押します。

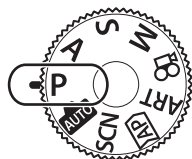
4 撮影します。

- ・他の色を選ぶときは、**戻る**ボタンを押します。

絞り値とシャッター速度を自動で設定して撮影する (Pプログラム撮影)

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定します。

1 モードダイヤルをPに合わせます。



2 被写体にピントを合わせて表示を確認します。

- カメラが設定したシャッター速度と絞り値が表示されます。

3 撮影します。



絞り値
シャッター速度
撮影モード

- フロントダイヤルで露出補正の設定ができます。
- リアダイヤルでプログラムシフトが使えます。
- シャッター速度と絞り値が点滅しているときは、適正露出が得られません。使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。**[ISO感度]**の設定を固定しているときは、設定を変更してください。☞ 「感度を変更する (ISO感度)」 (P.70)

警告表示例(点滅)	状態	対処方法
	被写体が暗すぎます。	フラッシュを使用してください。
	被写体が明るすぎます。	<ul style="list-style-type: none"> カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター (光量調節用) が必要です。 静音モードで撮影します。☞ 「電子シャッターを使って撮影する(静音[♥]撮影)」 (P.74)



- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。☞ **[カメラダイヤル機能]** (P.128)
- 画面の表示に露出補正の設定を反映するか、常に見やすい明るさで表示するかを選ぶことができます。初期設定では、露出補正を反映した明るさで表示します。☞ **[LVブースト]** (P.128)

■ プログラムシフトについて

自動的に設定された絞り値とシャッター速度の組み合わせを、露出を変えずに変更することができます。これをプログラムシフトといいます。

- 使いたい絞り値、またはシャッター速度が表示されるまでリアダイヤルを回します。
- プログラムシフトにすると、画面の撮影モードの**P**が**Ps**と表示されます。プログラムシフトを解除するには、表示が**P**になるまで、リアダイヤルを逆に回します。



プログラムシフト

絞りを決めて撮影する(A絞り優先撮影)

絞り値(F値)を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正なシャッター速度を自動的に設定します。絞り値の数値を小さくする(絞りを開く)ほど、ピントの合う範囲(被写界深度)が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞り値の数値を大きくする(絞りを絞る)ほど、ピントの合う範囲が前後に広がります。

絞り値を小さくする

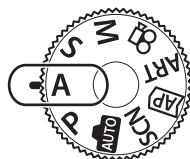
絞り値を大きくする



ピントの合う範囲が狭くなり、ボケが強くなる

ピントの合う範囲が広がる

1 モードダイヤルをAに合わせます。



2 絞り値を設定します。

- 初期設定では、リアダイヤルで絞り値の設定ができます。
- 適正なシャッター速度が自動的に設定され画面に表示されます。
- フロントダイヤルで露出補正の設定ができます。



絞り値

3 撮影します。

- シャッター速度が点滅しているときは、適正露出が得られません。

[ISO感度]の設定を固定しているときは、設定を変更してください。☞ 「感度を変更する(ISO感度)」(P.70)

警告表示例(点滅)	状態	対処方法
	露出アンダーです。	絞り値を小さくしてください。
	露出オーバーです。	<ul style="list-style-type: none">絞り値を大きくしてください。それでも解消されないときは、カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター(光量調節用)が必要です。静音モードで撮影します。☞ 「電子シャッターを使って撮影する(静音[♥]撮影)」(P.74)



- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。☞ [カメラダイヤル機能] (P.128)
- 画面の表示に露出補正の設定を反映するか、常に見やすい明るさで表示するかを選ぶことができます。初期設定では、露出補正を反映した明るさで表示します。☞ [LVブースト] (P.128)

2

シャッター速度を決めて撮影する(Sシャッター優先撮影)

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正な絞り値を自動的に設定します。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影できます。シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されますが、躍動感や動きのある仕上がりになります。

シャッター速度を遅くする

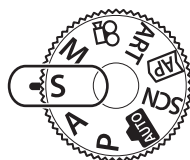
シャッター速度を速くする

60" ← 15 ← 30 ← 60 → 125 → 250 → 4000


躍動感や動きのある
仕上がりになる

動きの速い被写体を
止まったように撮影する

1 モードダイヤルをSに合わせます。




2 シャッター速度を設定します。




- 初期設定では、リアダイヤルでシャッター速度の設定ができます。
- シャッター速度は、1/4000 ～ 60秒に設定できます。
- 静音撮影に設定時は、1/16000秒まで設定できます。
 「電子シャッターを使って撮影する(静音[♥]撮影)」(P.74)
- 絞り値が自動的に設定され画面に表示されます。
- フロントダイヤルで露出補正の設定ができます。



シャッター速度

3 撮影します。

- 絞り値が点滅しているときは、適正露出が得られません。使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。
[ISO感度]の設定を固定しているときは、設定を変更してください。 「感度を変更する(ISO感度)」(P.70)

警告表示例(点滅)	状態	対処方法
2000  -	露出アンダーです。	シャッター速度を遅くしてください。
125  -	露出オーバーです。	<ul style="list-style-type: none"> シャッター速度を速くしてください。静音撮影に設定すると、シャッター速度の上限が1/16000になります。 「電子シャッターを使って撮影する(静音[♥]撮影)」(P.74) それでも解消されないときは、カメラの測光範囲を超えています。市販のNDフィルター(光量調節用)が必要です。



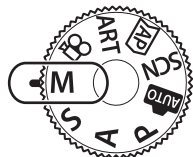
- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。☞ [カメラダイヤル機能] (P.128)
- 画面の表示に露出補正の設定を反映するか、常に見やすい明るさで表示するかを選ぶことができます。初期設定では、露出補正を反映した明るさで表示します。☞ [LVブースト] (P.128)

2

絞りとシャッター速度を自分で決めて撮影する (Mマニュアル撮影)

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。被写体に合わせて速いシャッター速度にしつつ、絞り込んで被写界深度を確保するといった、狙いに合わせた撮影ができます。

1 モードダイヤルをMに合わせます。



2 絞り値とシャッター速度を設定します。

- 初期設定では、フロントダイヤルで絞り値、リアダイヤルでシャッター速度の設定ができます。
- 設定されている絞り値とシャッター速度による露出と、カメラが測った適正露出との差が画面に表示されます。
- シャッター速度は1/4000～60秒、**[BULB (LIVE BULB)]**、**[TIME (LIVE TIME)]**および**[LIVECOMP]**に設定できます。
- 静音撮影に設定時は、1/16000秒まで設定できます。
☞ 「電子シャッターを使って撮影する(静音[♥]撮影)」(P.74)



3 撮影します。



- フロント/リアダイヤルで設定できる機能を変更することができます。☞ **[カメラダイヤル機能]** (P.128)
- 絞り値とシャッター速度を変更するとモニターの表示画像の明るさが変化します。被写体を確認しながら撮影できるように表示画像の明るさを一定にすることが可能です。☞ **[LVブースト]** (P.128)

長秒時(バルブ/タイム)撮影

シャッターを長時間開いて露光をします。夜景や打ち上げ花火のような長時間の露光が必要なときに設定します。

バルブ撮影(BULB)、ライブバルブ撮影(LIVE BULB)

シャッターボタンを押している間、露光を続けます。シャッターボタンを離すと露光が終了します。

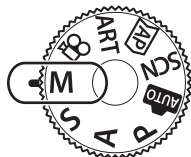
- 露光中の明るさは加算されます。
- ライブバルブ撮影のときは、露光中の画像をライブビューで表示する間隔を設定できます。

タイム撮影(TIME)、ライブタイム撮影(LIVE TIME)

シャッターボタンを全押しすると露光を始めます。露光を終了するときには、もう一度シャッターボタンを全押しします。

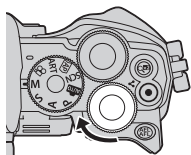
- 露光中の明るさは加算されます。
- ライブタイム撮影のときは、露光中の画像をライブビューで表示する間隔を設定できます。

1 モードダイヤルをMに合わせます。



2 シャッター速度を[BULB]または[LIVE TIME]に設定します。

- 初期設定ではリアダイヤルを図の矢印の方向に回して設定します。



バルブ撮影、タイム撮影

3 MENUボタンを押します。

- 撮影中のライブビュー表示の間隔を設定するメニューが表示されます。

4 十字ボタンの△▽で表示更新間隔を設定します。

5 OKボタンを押して設定を確定します。

- メニュー画面が表示されます。



6 MENUボタンを押して、メニューを終了します。

- [Off]以外に設定したときは、画面に[LIVE BULB]または[LIVE TIME]と表示されます。

7 絞り値を設定します。

- 初期設定では、フロントダイヤルで設定します。



絞り値

8 撮影します。

- バルブ撮影の場合はシャッターボタンを押し続けます。シャッターボタンを離すと撮影は終了します。
- タイム撮影の場合はシャッターボタンを全押しして撮影を開始し、撮影を終えるときにもう一度シャッターボタンを全押しします。
- [BULB/TIMEリミッター]で設定されている時間に達すると自動的に撮影を終了します。初期設定は[8分]です。設定は変更できます。☞ [BULB/TIMEリミッター] (P.130)
- 撮影後に[長秒時ノイズ低減]が働きます。ノイズ低減処理中は、画面に処理が終了するまでの時間が表示されます。[長秒時ノイズ低減]の動作は選択できます(P.129)。
- ライブタイムで撮影中にシャッターボタンを半押しすると、表示を更新できます。
- 設定できるISO感度に制限があります。
- 以下の撮影機能の設定に制限があります。
連写/セルフタイマー撮影/インターバル撮影/手ぶれ補正/多重露出撮影* など
* [ライブBULB設定]または[ライブTIME設定] (P.130)が[Off]以外のとき
- [手ぶれ補正] (P.88)は自動的にオフになります。
- カメラの設定や温度や環境条件によっては、モニターに表示される画像にノイズや輝点が目立つ場合があります。また、これらは[長秒時ノイズ低減] (P.129)が設定されていても撮影画像に写る場合があります。

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生する場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、長秒時の露出で顕著に表れます。これらのノイズを軽減するために、このカメラは長秒時ノイズ低減が働きます。☞ [長秒時ノイズ低減] (P.129)



- バルブ/タイム撮影では、被写体が暗くても見やすい明るさで表示します。☞ [LVブースト] (P.128)

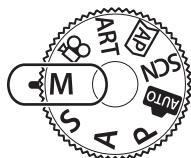
ライブコンポジット(比較明合成)撮影

シャッターを長時間開いて露光をします。背景の明るさを変えずに、火花や星などの明るい光跡の変化を観察しながら撮影できます。複数枚を合成し、1枚の画像として記録します。

2

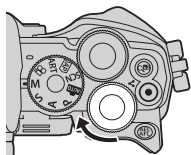
撮影する

1 モードダイヤルをMに合わせます。



2 シャッター速度を[LIVE COMP]に設定します。

- 初期設定ではリアダイヤルを図の矢印の方向に回して設定します。



ライブコンポジット撮影

3 MENUボタンを押します。

- [コンポジット撮影設定]の設定画面が表示されます。

4 十字ボタンの△▽で1コマの露出時間を設定します。

- 露出時間は、1/2秒～60秒の間で設定できます。

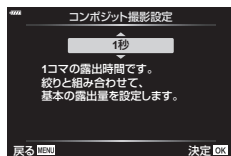
5 OKボタンを押して設定を確定します。

- メニュー画面が表示されます。

6 MENUボタンを繰り返し押して、メニューを終了します。

7 絞り値を設定します。

- 初期設定では、フロントダイヤルで設定します。



8 撮影準備のためにシャッターボタンを全押しします。


- モニターに[コンボジット撮影できます]の表示が出たら撮影できます。



9 シャッターボタンを押して撮影を開始します。

- ライブコンボジット撮影が始まります。設定した露出時間ごとにモニターの画像が更新されます。

10 もう一度シャッターボタンを押して撮影を終了します。

- ライブコンボジット撮影では最長で3時間の撮影が可能です。撮影可能時間は、撮影環境や充電状態などによって変わります。
- 設定できるISO感度に制限があります。
- カメラのぶれを抑えるために、しっかりした三脚でカメラを固定し、Ol.Shareを使ったリモート撮影をおすすめします(P.143)。
- 以下の撮影機能の設定に制限があります。
連写／セルフタイマー撮影／インターバル撮影／手ぶれ補正／多重露出撮影など
- 【手ぶれ補正】(P.88)は自動的にオフになります。

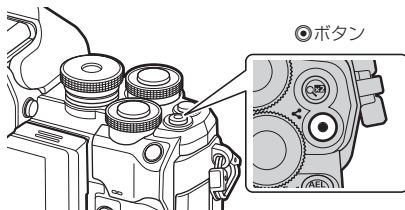
静止画撮影時にムービーを撮る

モードダイヤルを \square 以外に設定している場合も、 \odot ボタンを押すとムービーを撮影できます。

- \odot ボタンに他の機能を割り当てている場合は、【 \odot REC】を割り当てます(P.96)。

1 \odot ボタンを押してムービー撮影を始めます。

- モニターに撮影中の画像が表示されます。
- ファインダーをのぞくと、ファインダーに撮影中の画像が表示されます。
- 撮影中に画面にタッチして、ピントを合わせる位置を変えることができます。



2 再度 \odot ボタンを押してムービー撮影を終了します。

- タッチ操作やボタンの操作音が録音されることがあります。
- このカメラは撮像素子にCMOSを搭載しているため、ローリングシャッターによる「動体歪み」という現象が発生します。動体歪みは、動きの速い被写体や手ぶれのときに撮影画像に歪みが発生する物理現象です。特に長焦点で使用すると、この現象が顕著になります。
- 撮影中のムービーのファイルサイズが4GB以上になると、ファイルは自動的に分割されます(撮影条件によっては4GB以下で分割される場合があります)。
- 長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、画像にノイズや色むらが発生します。しばらく電源を切ってください。また、ISO感度が高い設定の画像でもノイズや色むらが発生します。さらに温度が上がると、カメラの電源が切れます。
- 次の場合、 \odot ボタンを押してもムービー撮影はできません。

シャッターボタン半押し中/バルブ、タイムまたはコンポジット撮影中/連写中/
インターバル撮影中/ **SCN**モードのビューティー、手持ち夜景、パノラマ、HDR逆光
補正/ **AP**モードのデジタルシフト、パノラマ、ライブタイム、多重露出、HDR撮影

- ムービー撮影の場合は、SDスピードクラス10以上に対応したカードをご使用ください。
- 次の場合は、UHS-II またはUHS-I のUHSスピードクラス3以上をご使用ください。


【 \square 画質モード】の画像サイズが【4K】のとき


- フォーサズマウント規格レンズ使用時は、ムービー撮影中のAFは動作しません。




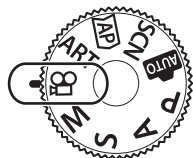
- AF方式など一部の設定は、静止画撮影時の設定とは別にムービー撮影用の設定ができます。
 \square 「動画メニューを使う」(P.120)



ムービーモードを使って撮る

モードダイヤルを  (ムービーモード) に設定すると、スローモーションムービー撮影などができるようになります。


P/A/S/Mモードの効果を活かしたムービー撮影が可能です。  「ムービーに効果をつける」(P.87)


1 モードダイヤルを  に設定します。








2   でムービーモード(P.64)を選択します。



3  ボタンを押して設定します。

- 他のムービーモードを選ぶときは、 ボタンを押します。

4  ボタンを押して、ムービー撮影を開始します。


-  ボタンに他の機能を割り当てている場合は、**[REC]** を割り当てます (P.96)。
- もう一度  ボタンを押すと、ムービー撮影を終了します。
- ムービー撮影中の録音音量は、録音レベルメーターで確認できます。録音レベルメーターが赤色の方向に伸びるほど、録音音量が大きいことを示しています。
- 録音音量は、 動画メニューで調整できます。
 **【録音レベル調整】** (P.120)

録音レベルメーター







- ムービーモードでは、合焦時でもピピッという音はしません。



- ムービー撮影中のカメラの操作による操作音が録音されるのを防ぐことができます。
 「ムービー撮影中のカメラの操作音を抑える」(P.65)
- タッチで操作することもできます。

ムービーモードの種類

ムービーモード	内容	
 4K	4Kサイズのムービー撮影ができます。	—
 スタンダード	通常のムービー撮影です。	—
 ハイスピード	スローモーションのムービーを撮影することができます。 音声は記録されません。	P.65

- ムービーモードによって使用できるピクチャーモードが異なります。
- ムービー撮影の場合は、SDスピードクラス10以上に対応したカードをご使用ください。
- **[4K]**、**[ハイスピード]**を選択したときは、UHS-IIまたはUHS-IのUHSスピードクラス3のカードをご使用ください。
- **[4K]**を選択して生成されたムービーは、パソコンの環境によって再生できない場合があります。再生条件については当社ホームページをご確認ください。

スローモーションムービーを撮る

スローモーションのムービーを撮影することができます。フレームレート120fpsで撮影して、[HD]相当の画質で30fpsのムービーとして記録します。

1 ムービーモード(P.64)で[ハイスピード]を選び、**OK**ボタンを押します。

2 **●**ボタンを押して撮影をはじめます。

- 撮影を終了するときにはもう一度**●**ボタンを押します。
- ムービー記録中、AF/AEは固定されます。
- スローモーションムービーは、最大で20秒間撮影が可能です。
- 音声は記録されません。

2

撮影する

ムービー撮影中のカメラの操作音を抑える

ムービー撮影中のカメラの操作による操作音が録音されるのを防ぐことができます。

静音操作タブにタッチすると以下の機能のアイコンが表示されます。項目にタッチした後、表示される矢印にタッチして設定します。

静音操作タブ

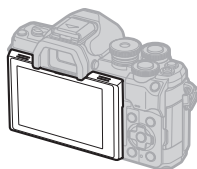


- 電動ズーム* / 録音レベル / 絞り / シャッター速度 / 露出補正 / ISO感度
 - * 電動ズーム機能つきレンズを使用時のみ
- 撮影モードによって設定できる項目は異なります。
- 自分撮りモード(P.66)では無効です。

自分撮りモードで撮影する

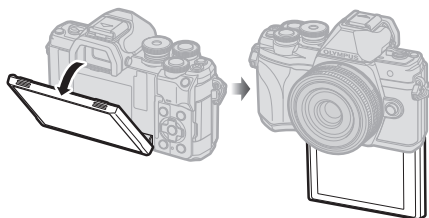
モニターを反転させ、構図を確認しながら自分を撮影できます。

1 モニターを開いているときは、閉じます。



2 モニターを下に開きます。

- ・モニターを動かすときは、「モニターを回転させるときのご注意」(P.29)もご確認ください。



- ・電動ズームレンズを装着している場合は自動的に広角になります。
- ・モニターに自分撮りメニューが表示されます。
- ・撮影モードによって、表示されるアイコンは異なります。



	タッチシャッター	アイコンをタッチすると、約1秒後にシャッターが切れます。
	ムービー	アイコンをタッチすると、ムービーの撮影を始めます。撮影を終了するときは、アイコン()をタッチします。
	再生	タッチすると再生モード(P.112)に切り換わります。
	ワンタッチ eポートレート	Onにすると、なめらかな肌に補正します。
	ワンタッチ カスタムセルフ	セルフタイマーで3コマ撮影します。シャッターが切れる枚数や間隔などはカスタムセルフタイマーで設定できます。 「カスタムセルフタイマー」(P.73)
	明るさの調整 (露出補正)	[+]または[-]アイコンをタッチすると、明るさを調整することができます。

3 カメラを構えて構図を決めます。

- ・レンズに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

4 をタッチして撮影します。

- ・モニターに映った被写体をタッチしても、シャッターボタンを押しても撮影できます。
- ・撮影された画像がモニターに表示されます。
- ・片手でカメラを持った状態でタッチ操作をするときは、カメラが落下しないようにご注意ください。

画像の明るさを変えて撮影する (露出補正)

カメラが自動的に設定した露出を、自分のイメージした明るさに調整します。+補正にするとより明るく、-補正にするとより暗く表現できます。±5.0EVの範囲で補正できます。



- フロントダイヤルを回して露出補正を行います。
- **AV**モード / **M**モード / **SCN**モード / **AP**モードのライブタイム、パノラマでは、露出補正はできません。
- ライブビュー（ファインダー、モニター）の明るさは、±3.0EVまでしか変化しません。露出補正バーは±3.0EVを超えると点滅します。
- ムービーで補正できる範囲は±3.0EVまでです。
- フロント／リアダイヤルの機能は、*****カスタムメニューで変更できます。☑「ダイヤル機能」(P.128)

被写体を拡大して記録する (デジタルテレコン)

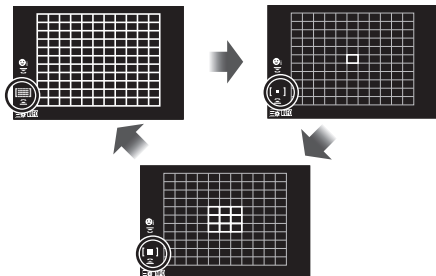
画像の中央部を切り出して、設定されている画質モードのサイズまで拡大して記録します。被写体を約2倍に拡大して記録できます。レンズの焦点距離以上の倍率で撮影できるため、レンズ交換ができないときや被写体に近づきにくいときに便利です。

- **Q**ボタンを押すと、デジタルテレコンが**[On]**になります。
- 画面に**Q**が表示されます。
- **Q**ボタンに他の機能を割り当てている場合は、**[Q]**を割り当てます(P.96)。
- デジタルテレコンを解除するには、もう一度**Q**ボタンを押します。
- パノラマ、多重露出、デジタルシフトでは使用できません。
- RAW画像では表示した部分を示す枠が表示されます。
- AFターゲットが少なくなります。
- デジタルテレコンは撮影メニュー1からも設定できます(P.115)。

ピント合わせの範囲を選ぶ (AFターゲット設定)

ピントを合わせる位置や範囲を示す枠をAFターゲットと呼びます。AFターゲットのサイズを変更できます。また、顔優先AF (P.69)を選択することができます。

- 1 **[AF-ON]**ボタン(◁)を押して、AFターゲットを表示します。
- 2 フロントダイヤルで**[シングルターゲット]**または**[9点グループターゲット]**を選択します。



[9点] オールターゲット	すべてのAFターゲットからカメラが自動的にピントを合わせるAFターゲットを選びます。
[1点] シングルターゲット	1つのAFターゲットを選びます。
[9点] 9点グループターゲット	選択した9点グループの中からカメラが自動的にピントを合わせるAFターゲットを選びます。

- ムービー撮影時は、グループターゲットはシングルターゲットになります。

ピントの位置を自分で決める

ピントを合わせたい位置にAFターゲットを移動することができます。

- 1 **[AF-ON]**ボタン(◁)を押して、AFターゲットを表示します。
 - オールターゲットのときは、フロントダイヤルで**[シングルターゲット]**か**[9点グループターゲット]**にします。
- 2 **△▽◁▷**でAF位置を選択します。
 - **[デジタルテレコン]** (P.115)、**アスペクト比設定** (P.82)の設定により、AFターゲットの数や大きさが変わります。

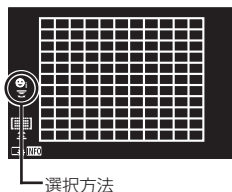


- タッチで操作することもできます。

顔優先AF / 瞳優先AFを使う

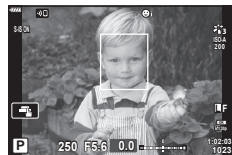
カメラが自動的に人物の顔や瞳を検出してピントを合わせます。デジタルESP測光のときは、露出は顔を中心に設定されます。

- 1 [Fn]ボタン(◀)を押して、AFターゲットを表示します。
- 2 リアダイヤルで設定を選択します。



	顔優先On	被写体の顔を検出してピントを合わせます。
	顔優先Off	顔優先AFを使いません。
	顔・瞳優先On	被写体の顔を検出して、近いほうの瞳にピントを合わせます。

- 3 カメラを被写体に向けます。
 - カメラが顔を検出すると、検出された部分に白い枠が表示されます。



- 4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
 - 枠の顔にピントが合うと、枠が緑に変わります。
 - 被写体の目を検出できるときは、近い方の目にピントが合い緑の枠が表示されます(瞳優先AF)。



- 5 シャッターボタンを全押しします。
 - 被写体やアートフィルターの設定によっては、顔を検出できないことがあります。
 - [ESP] (デジタルESP測光) (P.90)では顔を優先して測光します。



- [MF] (P.80)でも顔の検出ができます。顔を検出すると白い枠が表示されます。

感度を変更する

(ISO感度)

被写体の明るさに応じて設定します。数値を大きくすると暗い環境での撮影が可能になりますが、画像のノイズ(ざらつき)が多くなります。[AUTO]の設定では、明るさに応じて自動的に設定が変わります。

- 1 ISOボタン(Δ)を押します。
- 2 フロントダイヤルを回して設定値を選択します。



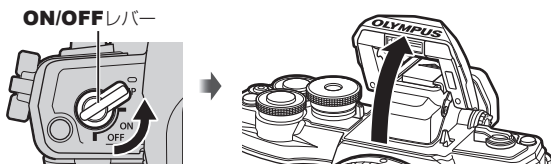
ISO感度

AUTO	撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。ISO感度が変わるときの上限やシャッター速度を、★カスタムメニュー 01の[ISOオート設定] (P.129)で設定することができます。
LOW、200 ~ 25600	ISO感度を手動で設定します。ISO200はノイズと画像の階調のバランスが最もとれる設定です。

フラッシュを使って撮影する (フラッシュ撮影)

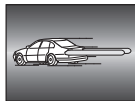
目的に応じていろいろなフラッシュ撮影が行えます。

- 1 **ON/OFF**レバーを⚡UPの位置に回して、フラッシュをポップアップさせます。



- 2 ⚡ボタン(▷)を押します。
- 3 フロントダイヤルでフラッシュ発光モードを選択して、OKボタンを押します。
 - 撮影モードによってフラッシュ発光モードの種類と並びの順番は異なります。
 - 🔍 「撮影モード別使用可能なフラッシュ発光モード」(P.72)

⚡ 発光	フラッシュを発光させます。 • シャッター速度は、★カスタムメニューEで設定されている【⚡低速制限】(P.136)から【⚡同調速度】(P.136)の間に設定されます。
⚡👁️ 赤目軽減	人物の目が赤く写る現象を起こりにくくします。
🔒 発光禁止	フラッシュは発光しません。
⚡👁️ SLOW スローシンクロ (先幕シンクロ+ 赤目軽減発光)	スローシンクロと赤目軽減発光を併用します。
⚡ SLOW スローシンクロ (先幕シンクロ)	背景が明るく撮れるように遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。
⚡ SLOW2 スローシンクロ (後幕シンクロ)	移動方向の後ろに流れた写真にするために、シャッターを閉じる直前で発光します。
🔒 FULL、🔒 1/4 マニュアル など 発光量変更	マニュアル操作で撮影をする人向け。 INFO ボタンを押して、△▽で発光量を選べます。



- 【👁️ (赤目軽減)】では、最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。撮影が終わるまでカメラを動かさないください。
- 撮影状況によっては、【👁️ (赤目軽減)】の効果が得られないことがあります。
- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/250秒以下に設定されます。背景の明るい被写体では、発光すると背景が露出オーバーになることがあります。
- 静音[♥]撮影時(P.74)は同調速度が1/20秒以下となります。

別売の専用フラッシュを使用するときは

別売の専用フラッシュを使用するときは、内蔵フラッシュをしっかりと収納してください。

撮影モード別使用可能なフラッシュ発光モード

撮影モード	モニターの表示	フラッシュ発光モード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件	
P/A		発光	先幕シンク口	いつでも発光	30秒～1/250秒*	
		赤目軽減	シンク口		1/30秒～1/250秒*	
		発光禁止	—	—	—	
		赤目Slow スローシンク口 (赤目軽減)	先幕シンク口	いつでも発光	60秒～1/250秒*	
		Slow スローシンク口 (先幕シンク口)				
		Slow2 スローシンク口 (後幕シンク口)	後幕シンク口			
S/M		発光	先幕シンク口	いつでも発光		60秒～1/250秒*
		赤目軽減	シンク口			
		発光禁止	—	—		—
		Slow2 スローシンク口 (後幕シンク口)	後幕シンク口	いつでも発光	60秒～1/250秒*	

• では、のみ選択できます。

* 別売の専用フラッシュ使用時は、1/200秒。静音[]撮影時は、1/20秒。

至近限界


被写体が近いとレンズの影になったり、発光量を最小にしても強すぎる場合があります。









レンズ	影になる限界(目安)
14-42mm F3.5-5.6 II R	1m
ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ	0.5m
ED 40-150mm F4.0-5.6 R	0.9m
ED 14-150mm F4.0-5.6 II	0.5m

• 影を防ぐには専用外部フラッシュをお使いください。また、露出オーバーを防ぐには**A**、**M**モードなどで絞り値を大きく、ISO感度を小さく設定して撮影します。

連写する／セルフタイマーを使う

連続撮影やセルフタイマーの方法を設定します。被写体に合わせて撮影方法を選択します。






- 1  ボタン(▽)を押します。
- 2 フロントダイヤルで項目を選択します。

	単写	一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます。
	連写H	 ではシャッターボタンを全押ししている間、最大約8.7コマ/秒で連続撮影できます。  では最大約15コマ/秒で連続撮影できます。連写中、ピント・露出・ホワイトバランスは、最初の1コマで固定されます。
	連写L	シャッターボタンを全押ししている間、最大約5コマ/秒で連続撮影できます。連写中のピントと露出は【AF方式】(P.80)、【AEL/AFLモード】(P.132)に従って固定されます。
	セルフタイマー 12s	シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しするとセルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、撮影されます。
	セルフタイマー 2s	シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しするとセルフタイマーランプが約2秒間点滅した後、撮影されます。
	カスタム セルフタイマー	INFO ボタンを押して【セルフタイマー時間】、【コマ数】、【撮影間隔】を設定できます。 ◀▶で選択し、△▽で数値を設定します。

◆の付いた項目はシャッター動作による微小なぶれを低減した撮影ができます。

♥の付いた項目は、電子シャッターを使って撮影します。1/4000秒より高速のシャッター速度に設定するときや、シャッター音が出せない環境下で撮影するときに使います。

3 ボタンを押します。

- セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。
- セルフタイマー撮影時に、カメラの前立ってシャッターボタンを押すとピントがボケる原因になります。
- /◆/♥では、撮影中もライブビューを表示します。/♥では、直前に撮影した画像を撮影中に表示します。
- 使用するレンズやズームの位置により、連写速度は変わります。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。




- セルフタイマー作動中に撮影を中止するには、▽を押します。

電子シャッターを使って撮影する (静音[♥]撮影)

電子シャッターによる撮影をします。1/4000秒より高速のシャッター速度に設定するときや、シャッター音が出せない環境下で撮影するときを使用します。単写や最大約15コマ/秒の連写、セルフタイマーと組み合わせた設定が選べます。**P/A/S/M/ART**モードでのみ設定できます。

- フラッシュの同調速度は、1/20秒です。
- 初期設定では、[静音[♥]撮影]では[電子音] / [AFイルミネーター] / [フラッシュ]の動作が禁止となりますが、[静音[♥]撮影設定] (P.119)でそれぞれの動作を許可することもできます。

1  ボタン(▽)を押します。

2 フロントダイヤルで♥の付いた項目を選択します。

3  ボタンを押します。

- シャッターが切れるとモニターの画面は一度暗くなります。シャッター音はしません。
- 被写体の大きな動きや蛍光灯やLED照明などのフリッカーにより、画像に乱れが出ることがあります。
- 電子シャッターで撮影するため、動きの速い被写体の撮影やカメラを激しく動かして撮影をすると、被写体が歪んで写ることがあります。

撮影機能呼び出す

■ ライブコントロール

ライブコントロールは、画面で効果を確認しながら設定できる操作画面です。



設定できる機能

ピクチャーモード	P.77
ISO感度	P.70
ホワイトバランス	P.79
AF方式	P.80
アスペクト比*1	P.82

画質モード	P.82
画質モード	P.83
ムービー（露出）モード	P.87
シーンモード*2	P.34
アートフィルターモード*3	P.47

*1 ムービーモードでは使えません。

*2 **SCN**モード時に表示されます。

*3 **ART**モード時に表示されます。

1 OKボタンを押してライブコントロールを表示します。

- 再度OKボタンを押すとライブコントロールの表示が消えます。

2 △▽でカーソルを設定したい機能に移動し、◀▶で設定を選択しOKボタンを押します。

- フロント/リアダイヤルでも設定を選択できます。
- 何も操作せずに約8秒間経過すると、設定が確定します。



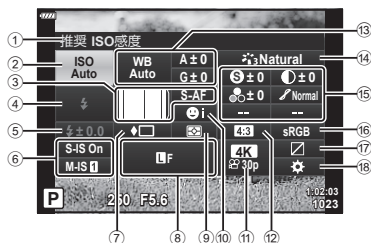
- 撮影モードによっては選択できない機能があります。



- 各機能の初期設定については、「初期設定一覧」(P.167)をご覧ください。

■ LVスーパーコンパネ

その他の撮影機能は、撮影の設定状態を一覧表示するLVスーパーコンパネを使って設定します。



使用可能な設定機能

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|
| ① 現在選択している機能 | ⑭ ピクチャーモード..... P.77 |
| ② ISO感度..... P.70 | ⑮ シャープネス S^* P.90 |
| ③ AF 方式..... P.80 | コントラスト L^* P.91 |
| AFターゲット..... P.68 | 彩度 C^* P.91 |
| ④ フラッシュモード..... P.71 | 階調 G^* P.92 |
| ⑤ フラッシュ補正值..... P.88 | フィルター効果 F^* P.92 |
| ⑥ 手ぶれ補正..... P.88 | 調色 T^* P.93 |
| ⑦ 連写/セルフタイマー..... P.73 | 効果 E^* P.93 |
| ⑧ AF 画質モード..... P.82 | Color C^* P.50 |
| ⑨ 測光方式..... P.90 | Color/Vivid C^* P.77 |
| ⑩ 顔優先..... P.69 | Effect * P.47 |
| ⑪ AF 画質モード..... P.83 | ファインチューン Fine-Tune * P.50 |
| ⑫ アスペクト比..... P.82 | ⑯ カラー設定..... P.94 |
| ⑬ ホワイトバランス..... P.79 | ⑰ ハイライト&シャドウコントロール... P.95 |
| ホワイトバランス補正..... P.89 | ⑱ ボタン機能割り当て..... P.96 |

*1 ピクチャーモードをアートフィルターに設定すると、表示が異なる場合があります。

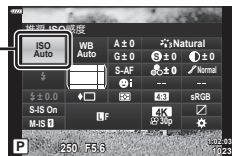
*2 パートカラー設定時に表示されます。

*3 カラークリエイター設定時に表示されます。

1 P/A/S/Mモードで Fn ボタンを押します。

- LVスーパーコンパネが表示されます。
- $\text{Auto}/\text{ART}/\text{SCN}/\text{AP}$ モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]**で設定します(P.128)。
- ムービーモードでは表示されません。

カーソル



2 設定する機能を $\Delta/\nabla/\leftarrow/\rightarrow$ で選択して、 OK ボタンを押します。

3 \leftarrow/\rightarrow で設定を変更します。



- タッチやダイヤルで操作することもできます。
- 各機能の初期設定については、「初期設定一覧」(P.167)をご覧ください。

- *1 <D>でポップアート I またはファンタジックフォーカスを選択後、**INFO**ボタンを押すと、ファインチューンのスライダーが表示されます(P.50)。
- *2 <D>でパートカラーを選択後、**INFO**ボタンを押すと、カラーリングが表示されます(P.50)。

画像全体の色味を調整する (カラークリエイター)

画像全体の色を色相30段階と彩度8段階の組み合わせで設定できます。

- 1 **OK**ボタンを押して、**△▽**でピクチャーモードを選択します。



ピクチャーモード

- 2 <D>で[カラークリエイター]を選択し、**INFO**ボタンを押します。
- 3 色相と彩度を調整します。

- フロントダイヤルを回して色相を調整します。
- リアダイヤルを回して彩度を調整します。
- **OK**ボタンを長押しすると調整値をリセットできます。



- 4 **OK**ボタンを押して設定を確定します。
- シャッターボタンを半押しして設定を終了することもできます。
 - 画質モード(P.82)が[RAW]のときは、RAW+JPEGで記録されます。
 - [多重露出撮影] (P.116)では、[Natural]で撮影されます。

画像の色合いを調整する (ホワイトバランス)

ホワイトバランス(WB)は白いものを白く写すための機能です。通常は[AUTO](オート)で問題ありませんが、適切な白にならない場合や、逆に色合いを出したい場合は光源に合わせて、[AUTO]以外のホワイトバランスを手動で設定します。

- 1 **OK** ボタンを押して、**△▽** でホワイトバランスを選択します。
- 2 **<D>** で項目を選択し、**OK** ボタンを押します。



ホワイトバランス

WB モード		設定される色温度	適した撮影シーン
オート ホワイトバランス	AUTO	—	一般的なほとんどの撮影シーン(画面内に白に近い色が存在する撮影シーン)。通常はこのモードをお使いください。 <ul style="list-style-type: none"> • 選択時にINFOボタンを押すと、△▽<D>またはフロント/リアダイヤルで[WBオート電球色残し](P.130)の[On]と[Off]を切り換えられます。
プリセット ホワイトバランス		5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
		7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
		6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
		3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
		4000K	蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
		5500K	フラッシュ撮影のとき
ワンタッチ ホワイトバランス		ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度	白かグレーの測定できる被写体があり、特性のわからないフラッシュや光源のときや、光源が複数あって特定できないとき INFO ボタンを押します。 INFO 「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P.80)
カスタム ホワイトバランス	CWB	2000K～14000K	INFO ボタンを押した後、 △▽<D> で色温度を選択し、 OK ボタンを押します。

ワンタッチホワイトバランスの設定

撮影する光源下で白い紙などにカメラを向けて、ホワイトバランスを測定します。自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた撮影に有効です。

- 1 **[W1]**、**[W2]**、**[W3]**または**[W4]**（ワンタッチホワイトバランス1、2、3または4）を選択した後、**INFO**ボタンを押します。
- 2 白かグレーのように無彩色の紙を撮影します。
 - ・紙が画面いっぱいに写るようにカメラを構えます。影の部分ができないようにしてください。
 - ・ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。
- 3 **[実行]**を選択して**OK**ボタンを押します。
 - ・ホワイトバランスがプリセットホワイトバランスの1つとしてカメラに登録されます。
 - ・新しいワンタッチホワイトバランスを撮影するまで、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

ピントの合わせ方を設定する (AF方式)

ピント合わせの方法（フォーカスモード）を選択します。静止画撮影モードとムービーモードで別々に設定できます。

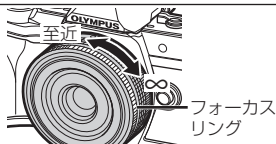
- 1 **OK**ボタンを押して、**△▽**でAF方式を選択します。



AF方式

- 2 **◀▶**で項目を選択し、**OK**ボタンを押します。

S-AF (シングルAF)	シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。ピントが合うと、ピピッと音がして、画面に合焦マークとAFターゲットが点灯します。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。
C-AF (コンティニユスAF)	シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせを繰り返します。被写体にピントが合うと、画面に合焦マークが点灯します。また、1回目の合焦時には、ピピッと音がします。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。
MF (マニュアルフォーカス)	レンズのフォーカスリングを操作することで任意の位置に手でピントを合わせることができます。
S-AF+MF (S-AFとMFの併用)	[S-AF] でピントを合わせた後、フォーカスリングを回してピントの微調整ができます。



C-AF+TR (追尾AF)	シャッターボタンの半押しでピントの合った被写体を、半押ししている間追尾してピント合わせの動作を繰り返します。 <ul style="list-style-type: none"> • 追尾被写体を見失うと、AFターゲットが赤く表示されません。シャッターボタンを放して、もう一度被写体に合わせてシャッターボタンを半押ししてください。
-----------------------	--

- 明るさが不足している、霧などで被写体があっさり見えないなど、被写体のコントラストが弱い場合はピントが合わないことがあります。
- フォーサーズマウント規格レンズ使用時は、AFは動作しません。
- レンズのMFフォーカスクラッチがMFになっていると設定できません。
- **P/A/S/M/☞/ART**モードで**[MF]**、**[C-AF]**、**[C-AF+TR]**に設定すると、ピントが合わなくてもシャッターを切ることができるようになります。
- **[C-AF]**、**[C-AF+TR]**設定時は、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ続けて、少ししてから全押しして撮影してください。
- **[C-AF]**、**[C-AF+TR]**に設定して連続撮影(連写)中にズーム操作を行うと、ピントが外れることがあります。
- **[C-AF]**で素早い動きの人物を連続撮影(連写)するときには、**[顔優先Off]**をおすすめします(P.69)。
- **[C-AF+TR]**で素早い動きの被写体を連続撮影(連写)すると、ピントが外れることがあります。



- ピント合わせの方法は、*カスタムメニューで変更できます。☞「AEL/AFLモード」(P.132)

アスペクト比を設定する

撮影の意図やプリントなどの出力時の狙いに合わせて、画像の縦横比を設定します。通常のアスペクト比(横×縦)である**[4:3]**の他に**[16:9]**、**[3:2]**、**[1:1]**、**[3:4]**が設定できます。

- 1 **OK** ボタンを押して、**△** **▽** でアスペクト比設定を選択します。
- 2 **◀▶** で設定値を選択し、**OK** ボタンを押します。



アスペクト比設定

- アスペクト比は、静止画撮影時のみ設定できます。
- JPEGの画像は、設定したアスペクト比の画像で記録されます。RAW画像は、撮像素子のサイズである4:3のままの画像にアスペクト比の設定情報を付けて記録されます。再生時は、設定情報に合わせて枠が表示されます。

画質を選択する

(**📷**画質モード)

静止画の画質モードを設定します。パソコンでの加工やホームページでの使用など用途に応じて選べます。

- 1 **OK** ボタンを押して、**△** **▽** で **📷** 画質モードを選択します。



📷画質モード

- 2 **◀▶** で項目を選択し、**OK** ボタンを押します。
 - 選択可能な画質モードはJPEG (**📷SF**/**📷F**/**📷N**/**📷M**)とRAWです。JPEG+RAWの場合、JPEGとRAWの2種類の画像を同時に記録します。JPEGは画像サイズ(**📷L**/**📷M**/**📷S**)と圧縮率(SF/F/N)の組み合わせからできています。
 - **📷SF**/**📷F**/**📷N**/**📷M**以外の組み合わせを設定したいときは、カスタムメニューの**[画質設定]** (P.130)の設定を変更してください。

RAW画像とは

露出補正やホワイトバランスなどの撮影の設定が反映されていない未加工の状態のデータ(拡張子「.ORF」)です。撮影後にあらためて絵作りをするための元データとして使います。他のカメラでの再生はできません。パソコンでの閲覧は画像編集ソフトウェアOlympus Workspaceをお使いください。このカメラの編集機能を使ってJPEGのデータにすることができます。**📷**「撮影した画像を加工する(編集)」(P.121)

画質を選択する

(画質モード)

ムービーの画質モードを設定します。パソコンでの加工やホームページでの使用など、用途に応じて設定できます。

- 1 OK ボタンを押して、△▽で画質モードを選択します。
- 2 <▷> で設定値を選択し、OK ボタンを押します。



画質モード

2

撮影する

■ 選択できる画質の種類

選択できるムービーの画質は、ムービーモード(P.64)および動画メニュー (P.120) の【動画フレームレート】と【動画ビットレート】の設定によって異なります。

- テレビでムービーを再生する場合、テレビとムービーのフレームレートが合っていないと自動的に再生されません。ムービーを撮影する前に、各国/地域のテレビ映像信号に合わせてフレームレートを設定してください。
 - NTSC地域：60p (30p)
 - PAL地域：50p (25p)





モードダイヤルが動画以外の場合

選択できる画質	画質モードの構成
 3840×2160 30p	ムービーの画質モードは、次の組み合わせで設定されています。  ① 画像サイズ 4K : 3840×2160 FHD : 1920×1080 HD : 1280×720 ② ビットレート(圧縮率) *1 SF (Super Fine) / F (Fine) / N (Normal) ③ フレームレート 30p (60p) / 25p (50p) / 24p
 3840×2160 25p	
 3840×2160 24p	
 1920×1080 Super Fine 60p	
 1920×1080 Super Fine 30p	
 1280×720 Super Fine 30p	
 1920×1080 Fine 60p	
 1920×1080 Fine 30p	
 1280×720 Fine 30p	
 1920×1080 Normal 60p	
 1920×1080 Normal 30p	
 1280×720 Normal 30p	

選択できる画質	画質モードの構成
 1920×1080 Super Fine 50p	ムービーの画質モードは、次の組み合わせで設定されています。 
 1920×1080 Super Fine 25p	
 1280×720 Super Fine 25p	
 1920×1080 Fine 50p	
 1920×1080 Fine 25p	
 1280×720 Fine 25p	
 1920×1080 Normal 50p	
 1920×1080 Normal 25p	
 1280×720 Normal 25p	
 1920×1080 Super Fine 24p	
 1280×720 Super Fine 24p	
 1920×1080 Fine 24p	
 1280×720 Fine 24p	
 1920×1080 Normal 24p	
 1280×720 Normal 24p	


*1 画像サイズが[4K]のときはビットレートを変更できません。

ムービーモードが[4K]の場合*2

選択できる画質	画質モードの構成
 3840×2160 30p	ムービーの画質モードは、次の組み合わせで設定されています。 
 3840×2160 25p	
 3840×2160 24p	
	① 画像サイズ 4K : 3840×2160 ② フレームレート 30p / 25p / 24p

*2 ビットレートを変更できません。











ムービーモードが[ハイスピード]の場合*3

選択できる画質	画質モードの構成
HD HS 120fps 1280×720 HighSpeed 120fps	 <p>① 画像サイズ HD : 1280×720</p> <p>② フレームレート 120fps</p>

*3 フレームレートとビットレートを変更できません。

ムービーモードが[スタンダード]の場合


選択できる画質	画質モードの構成
FHD SF 60p 1920×1080 Super Fine 60p	<p>ムービーの画質モードは、次の組み合わせで設定されています。</p>  <p>① 画像サイズ FHD : 1920×1080 HD : 1280×720</p> <p>② ビットレート(圧縮率) SF (Super Fine) / F (Fine) / N (Normal)</p> <p>③ フレームレート 30p (60p) / 25p (50p) / 24p</p>
FHD SF 30p 1920×1080 Super Fine 30p	
HD SF 30p 1280×720 Super Fine 30p	
FHD SF 60p 1920×1080 Fine 60p	
FHD SF 30p 1920×1080 Fine 30p	
HD SF 30p 1280×720 Fine 30p	
FHD SF 60p 1920×1080 Normal 60p	
FHD SF 30p 1920×1080 Normal 30p	
HD SF 30p 1280×720 Normal 30p	
FHD SF 50p 1920×1080 Super Fine 50p	
FHD SF 25p 1920×1080 Super Fine 25p	
HD SF 25p 1280×720 Super Fine 25p	
FHD SF 50p 1920×1080 Fine 50p	
FHD SF 25p 1920×1080 Fine 25p	
HD SF 25p 1280×720 Fine 25p	




選択できる画質	画質モードの構成
 1920×1080 Normal 50p	ムービーの画質モードは、次の組み合わせで設定されています。 
 1920×1080 Normal 25p	
 1280×720 Normal 25p	
 1920×1080 Super Fine 24p	
 1280×720 Super Fine 24p	
 1920×1080 Fine 24p	
 1280×720 Fine 24p	
 1920×1080 Normal 24p	
 1280×720 Normal 24p	

- ① 画像サイズ
 FHD : 1920×1080
 HD : 1280×720
- ② ビットレート(圧縮率)
 SF (Super Fine) / F (Fine) /
 N (Normal)
- ③ フレームレート
 30p (60p) / 25p (50p) / 24p

- MPEG-4 AVC/H.264形式で保存されます。1ファイルは4GBに制限されます。1回の撮影は最長29分に制限されます。
- 使用するカードによっては、最長時間まで記録されずに途中で撮影が終了する場合があります。

静止画撮影の効果を使って撮影する (モード(ムービー露出モード))

P/A/S/Mモードの効果を活かしたムービー撮影が可能です。
モードダイヤルをにして撮影しているときに有効です。

- 1 モードダイヤルをに設定します。
- 2 ボタンを押して、 Δ ∇ でムービー(露出)モードを選択します。
- 3 \triangleleft \triangleright で設定値を選択し、ボタンを押します。





ムービー(露出)モード

P	被写体の明るさに応じて、最適な露出に設定します。 フロントダイヤルで露出補正を設定できます。
A	絞り値を設定することで、背景の描写に変化がつけられます。 フロントダイヤルで露出補正、リアダイヤルで絞り値を設定できます。
S	シャッター速度を設定することで、被写体の写り方に変化がつけられます。 フロントダイヤルで露出補正、リアダイヤルでシャッター速度を設定できます。 設定可能なシャッター速度は1/24 ~ 1/4000秒です。
M	絞り値とシャッター速度を設定します。 フロントダイヤルで絞り値を設定し、リアダイヤルでシャッター速度を設定します。 設定可能なシャッター速度は、1/24 ~ 1/4000秒です。 ISO感度は200 ~ 6400のマニュアル設定だけです。

- 露出中のぶれ(被写体ぶれなど)が発生する撮影状況では、シャッター速度を高速側(速くする)にすることでぶれを軽減できる場合があります。
- シャッター速度の低速側は、ムービー画質のフレームレートの設定によって変わります。



- フロント/リアダイヤルの機能は、カスタムメニューで変更できます。「ダイヤル機能」(P.128)

フラッシュの発光量を調節する (フラッシュ発光量補正)

フラッシュの光で被写体が白く飛んでしまったり、全体的にはちょうどよい明るさなのに被写体だけが暗い写真になってしまうときにフラッシュの発光量を調整します。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

- **Auto/ART/SCN/AP** モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]** で設定します (P.128)。

2 $\Delta \nabla < >$ で [フラッシュ補正] を選択し、**OK** ボタンを押します。

3 $< >$ で補正値を設定し、**OK** ボタンを押します。

- 専用外部フラッシュの調光モードが**MANUAL**のときは、この設定は働きません。
- 専用外部フラッシュで発光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。



フラッシュ補正

手ぶれを抑えて撮影する (手ぶれ補正)

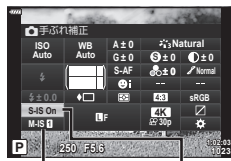
被写体が暗い場面や、高倍率撮影などで起きやすい手ぶれを抑えることができます。シャッターボタンの半押しから手ぶれ補正が働きます。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

- **Auto/ART/SCN/AP** モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]** で設定します (P.128)。

2 $\Delta \nabla < >$ で [手ぶれ補正] を選択し、**OK** ボタンを押します。

3 $< >$ で項目を選択し、**OK** ボタンを押します。



 手ぶれ補正  手ぶれ補正

静止画 (S-IS)	S-IS Off	手ぶれを補正しません。
	S-IS On	流し撮りの方向なども検知して、最適な手ぶれ補正をします。
ムービー (M-IS)	M-IS Off	手ぶれを補正しません。
	M-IS 1	センサーシフト式 (VCM) と電子式の両方の補正を使用します。
	M-IS 2	センサーシフト式 (VCM) 補正のみ行います。 電子式の補正は行いません。

- M-IS 1 のときは画面の端が切り取られるため、撮影できる範囲が少し狭くなります。

- 手ぶれが大きすぎるときやシャッター速度が極端に遅い場合、手ぶれを補正しきれないことがあります。このときは三脚を使用して撮影してください。
- 三脚使用時は**[手ぶれ補正]**を**[S-IS Off]** / **[M-IS Off]**に設定してください。
- 手ぶれ補正機能切り換えスイッチのあるレンズでは、レンズ側の設定が優先されます。
- 手ぶれ補正が作動していると、作動音や振動を感じることがあります。

マイクロフォーサーズ／フォーサーズ以外のレンズを使うとき

マイクロフォーサーズ／フォーサーズレンズ以外のレンズが装着された場合は設定された焦点距離情報を使って手ぶれ補正を行います。

- [手ぶれ補正]**の設定中に**INFO**ボタンを押して、 Δ ∇ \langle \triangleright で焦点距離を設定し**OK**ボタンを押します。
- 0.1mm ~ 1000.0mmまでの焦点距離が設定可能です。
- レンズに記載の数値を設定してください。
- 撮影メニュー 1の**[リセット]** (標準)でカメラの設定をリセットしても、登録したレンズの焦点距離は保持されます。

ホワイトバランスを微調整する (ホワイトバランス補正)

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

あらかじめ、補正したいホワイトバランスを設定してください。📷 「画像の色合いを調整する(ホワイトバランス)」(P.79)

1 P/A/S/Mモードで📷ボタンを押します。

- Auto/ART/SCN/AP**モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]**で設定します(P.128)。

2 Δ ∇ \langle \triangleright でホワイトバランス補正を選択し、**OK**ボタンを押します。

3 \langle \triangleright で補正方向を選択します。

4 Δ ∇ で補正値を変更し、**OK**ボタンを押します。

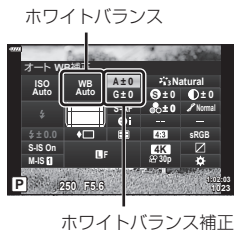
A方向(赤 - 青)で補正する場合

+方向で赤味がかり、-方向で青味がかった画像になります。

G方向(緑 - 赤紫)で補正する場合

+方向で緑の色味が増し、-方向で赤紫がかった画像になります。

- 撮影メニュー 1の**[リセット]** (標準)でカメラの設定をリセットしても、設定した補正値は保持されます。



明るさを測る方法を選ぶ

(測光)

カメラが被写体の明るさを測定する方法を変更します。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。









- **Auto/ART/SCN/AP** モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]** で設定します(P.128)。

2 で[測光]を選択し、 ボタンを押します。

3 で項目を選択し、 ボタンを押します。



測光

 デジタルESP測光	画面を324分割測光し、撮影シーンや顔( 顔優先)が[OFF]以外有的时候などを考慮し最適な露出値を演算します。通常はこのモードをおすすめします。
 中央重点平均測光	画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。 
 スポット測光	測光したいポイントにカメラを向け、狭い範囲(約2%)の明るさを測光するときに使います。測光した箇所が適正な明るさになります。 
 HI スポット測光ハイライト	スポット測光したポイントがより明るくなります。明るいところを明るく表現します。
 SH スポット測光シャドウ	スポット測光したポイントがより暗くなります。暗いところを暗く表現します。

鮮鋭さを微調整する

(シャープネス)

画像の鮮鋭さを調整します。輪郭の強調をすることでシャープなはっきりした感じの画像にすることができます。それぞれのピクチャーモードで、個別に設定しておけます。

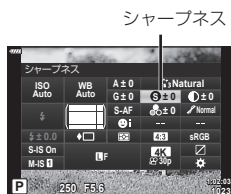
- 撮影モードによっては調整できません。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

- **Auto/ART/SCN/AP** モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]** で設定します(P.128)。

2 で[シャープネス]を選択し、 ボタンを押します。

3 でシャープネスを調整し、 ボタンを押します。



シャープネス

明暗の差を微調整する

(コントラスト)

画像の明暗差を調整します。明暗差を強調することではっきりした印象の強い画像にすることができます。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- 撮影モードによっては調整できません。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

- /ART/SCN/APモードでLVスーパーコンパネを表示するためには、 [Control表示] で設定します(P.128)。

2 で [コントラスト] を選択し、 ボタンを押します。

3 でコントラストを調整し、 ボタンを押します。

コントラスト



色の鮮やかさを微調整する

(彩度)

画像の色合いや色の濃さを調整します。彩度を上げると色合いのはっきりした印象的な画像になります。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

- 撮影モードによっては調整できません。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

- /ART/SCN/APモードでLVスーパーコンパネを表示するためには、 [Control表示] で設定します(P.128)。

2 で [彩度] を選択し、 ボタンを押します。

3 で彩度を調整し、 ボタンを押します。

彩度



画像の階調を微調整する

(階調)

画像の色や明るさの濃淡を調整します。被写体のイメージに合わせて全体的に明るく表現したり暗く表現します。明暗差によって暗い階調と明るい階調のどちらも表現できます。それぞれのピクチャーモードで個別に設定しておけます。

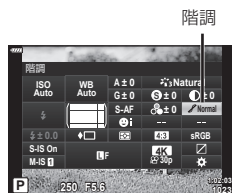
- 撮影モードによっては調整できません。





1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

-  /ART/SCN/APモードでLVスーパーコンパネを表示するためには、 [Control表示] で設定します(P.128)。

2 で [階調] を選択し、 ボタンを押します。

3 で階調を調整し、 ボタンを押します。



 Auto (階調オート)	画像を細かい領域にわけて部分的に明るさを補正します。黒つぶれ・白とびの起きやすい明暗差の大きい画像に有効です。
 Normal (階調標準)	適度な階調にします。通常は標準に設定してください。
 High (階調ハイキー)	明るい被写体に適した階調にします。
 Low (階調ローキー)	暗い被写体に適した階調にします。

モノトーンにフィルター効果をつける

(フィルター効果)

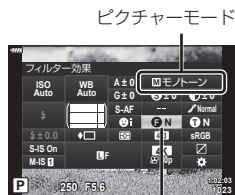
ピクチャーモード(P.77)の[モノトーン]の設定に、カラーフィルターの効果をつけることができます。被写体の色によって明るく表現したりコントラストを強調することができます。黄、橙、赤の順にコントラストが強くなります。緑はポートレート撮影などにも効果的です。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

-  /ART/SCN/APモードでLVスーパーコンパネを表示するためには、 [Control表示] で設定します(P.128)。

2 で [フィルター効果] を選択し、 ボタンを押します。

3 で項目を選択し、 ボタンを押します。



N: 無し	通常の白黒画像になります。
Ye: 黄	自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。
Or: オレンジ	青空らしさ・夕日の輝きが少し強調されます。
R: 赤	青空らしさ・紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
G: 緑	赤い唇・緑の葉がよりいっそう強調されます。

フィルター効果

モノトーンの調色をする

(調色)

ピクチャーモード(P.77)の【モノトーン】の設定に、色味を付ける設定を記憶させておくことができます。

1 P/A/S/Mモードで \blacktriangleright ボタンを押します。

- **ART/SCN/AP**モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]**で設定します(P.128)。

2 $\Delta \nabla \langle \rangle$ で【調色】を選択し、**OK**ボタンを押します。

3 $\langle \rangle$ で設定値を選択し、**OK**ボタンを押します。



2

撮影する

N: 無し	通常の白黒画像になります。
S: セピア	セピア調の画像にします。
B: 青	青味がかった画像にします。
P: 紫	紫味がかった画像にします。
G: 緑	緑味がかった画像にします。

i-Finishの効果进行调整する

(効果)

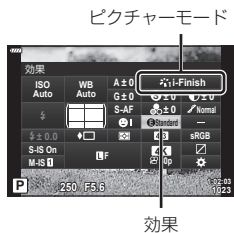
ピクチャーモード(P.77)を【i-Finish】に設定したときの、効果の強さを設定します。

1 P/A/S/Mモードで \blacktriangleright ボタンを押します。

- **ART/SCN/AP**モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]**で設定します(P.128)。

2 $\Delta \nabla \langle \rangle$ で【効果】を選択し、**OK**ボタンを押します。

3 $\langle \rangle$ で効果を調整し、**OK**ボタンを押します。




Low (効果 弱)	弱めの効果を画像に加えます。
Standard (効果 標準)	弱と強の中間程度の効果を画像に加えます。
High (効果 強)	強めの効果を画像に加えます。

色の再現方式を設定する

(カラー設定)


撮影した画像をモニターやプリンターで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。カスタムメニューの[カラー設定] (P.130)と同じ機能です。


1 P/A/S/Mモードで  ボタンを押します。

-  / **ART** / **SCN** /  モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、 **Control表示** で設定します (P.128)。





カラー設定

2 $\Delta \nabla < >$ で [カラー設定] を選択し、 ボタンを押します。

3 $< >$ でカラー設定の方式を選択し、 ボタンを押します。

sRGB	Windowsの環境での標準の色域として定着している規格です。標準的なディスプレイやプリンター、デジタルカメラ、各種のアプリケーションで使用されています。通常はこの設定にしてください。
AdobeRGB	アドビシステムズ社によって定義された規格です。sRGBより広い色域の再現ができます。正しく出力するためには、この規格に対応したソフトウェア、ディスプレイやプリンターなどの機器が必要です。ファイル名の初めの文字が、「_」(アンダーバー)で示されます(例: _xxx0000.jpg)。

-  モード (P.32) / **ART** モード (P.47) / **SCN** モード (P.34) /  モード (P.37) / ムービーモード (P.64) では、**[AdobeRGB]** を選択できません。

ハイライト部／シャドウ部の明るさを変えて撮影する (ハイライト&シャドウコントロール)

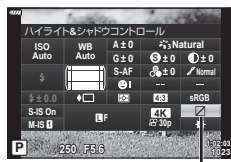
明部、暗部、中間部に分けて個別に明るさの調整をします。露出補正だけではできない光のコントロールができます。明部の明るさだけを落としたり、暗部を明るくするといった調整ができます。

- 撮影モードによっては調整できません。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

- Auto/ART/SCN/AP**モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[Control表示]**で設定します(P.128)。

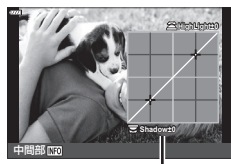
2 $\Delta \nabla \langle \rangle$ で[ハイライト&シャドウコントロール]を選択し、 ボタンを押します。



ハイライト&シャドウコントロール


3 INFOボタンを押して調整する明るさの範囲を選択します。

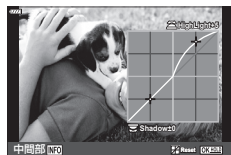
- INFO**ボタンを押すたびに調整する範囲が切り換わります。



調整する明るさの範囲

4 ダイヤルを回して調整値を設定します。

- [明部&暗部]**のとき
フロントダイヤルで明部、リアダイヤルで暗部の調整をします。
- [中間部]**のとき
フロント／リアダイヤルで調整をします。
-  ボタンを長押しすると調整値をリセットできます。



5 ボタンを押して設定を確定します。

- シャッターボタンを半押しして、設定を終了することもできます。

あらかじめ割り当てられているボタンの機能を他の機能に変更します。

■ カスタマイズできるボタンと初期設定

ボタン	初期設定
ボタン機能	AEL/AF-L
ボタン機能	(デジタルテレコン)
ボタン機能	REC

各ボタンの割り当て機能を変更したい場合は、以下の手順で変更できます。

1 P/A/S/Mモードで ボタンを押します。

- **Auto/ART/SCN/AP**モードでLVスーパーコンパネを表示するためには、**[カメラControl表示]**で設定します(P.128)。

2 Δ ∇ \triangleleft \triangleright で[ボタン機能]を選択し、 ボタンを押します。

- カスタムメニューの[ボタン機能]が表示されます。
- [ボタン機能]は、メニューから表示させることもできます(P.113, 128)。

3 Δ ∇ で機能を割り当てるボタンを選択し、 \triangleright を押します。

4 Δ ∇ で割り当てる機能を選択し、 ボタンを押します。

5 もう一度 ボタンを押して設定を終了します。













- モードによっては設定したボタンが機能しない場合があります。
- 設定時のモードによって、選択できる機能は異なります。





ボタン機能

■ ボタンに割り当てられる機能と働き

 (AEL/AFL)	AEロックやAFロックとして働きます。 [AEL/AFLモード] (P.132)の設定により機能は変わります。AELのときは、一度ボタンを押すと露出が固定され画面に [AEL] が表示されます。再度押すと解除します。
 REC	ボタンを押すと、ムービーを撮影できます。
 (プレビュー)	ボタンを押している間、設定された絞り値まで絞り込みます。
 (ワンタッチWB)	ボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、ホワイトバランスの値を取得します (P.80)。設定したい番号を選び、  ボタンを押して設定します。
 ([::]選択)	AFターゲットの設定をします (P.68)。
MF切換	ボタンを押すと、AF方式が [MF] に切り換わります。再度押すと、元のAF方式に切り換わります。ボタンを押しながらフロントダイヤルまたはリアダイヤルを回すとフォーカスモードを切り換えることができます。
 (露出補正)	露出補正をします。 P/A/S/ART/AP/ム モードなどでボタンを押すと、フロントダイヤル、リアダイヤルまたは \triangleleft で露出補正を変更できます。 M モードでボタンを押すと、フロントダイヤル、リアダイヤルまたは $\triangle \nabla \triangleleft$ でシャッター速度や絞り値を変更できます。
 (デジタルテレコン)	ボタンを押すたびに [On] と [Off] の切り換えができます (P.115)。
 (拡大)	ボタンを押すと拡大枠が表示され、もう一度押すと画像が拡大されます。中止するにはボタンを長押しします。
ピーキング	ボタンを押すたびに表示/非表示が切り換わります。ピーキング表示中は、ヒストグラムやハイライト/シャドウ表示はできません (P.133)。
 (ロック)	ボタンを長押しすると、タッチパネル操作の許可と禁止の切り換えができます。

■ 露出を固定する(AEロック)

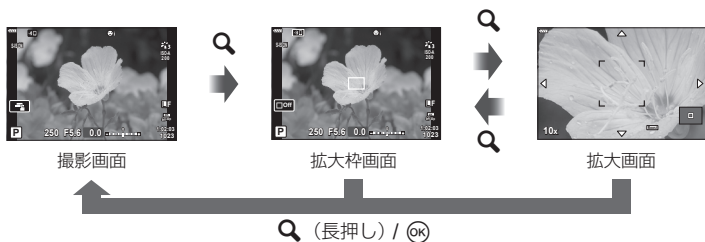
AEL/AFLボタンを押して、露出だけを固定することができます。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使います。

- 一度ボタンを押すと露出が固定され**[AEL]**が表示されます。 「AEL/AFLモード」 (P.132)
- AEロックを解除するには、もう一度ボタンを押します。
- モードダイヤル、**MENU**ボタンや ボタンの操作をするとロックは解除されます。

拡大枠AF / 拡大AFを使う (スーパースポットAF)

画面の一部を拡大して表示できます。ピント合わせを行う範囲を拡大表示することによって、より正確にピントを合わせることができます。拡大倍率を高くすると、通常のAFターゲット枠よりも小さい範囲でオートフォーカスをすることができます。拡大する範囲は任意で移動できます。

- あらかじめボタン機能でいずれかのボタンに【Q】を割り当てておく必要があります (P.96)。



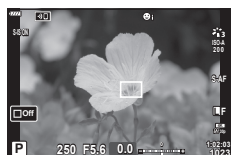
1 【Q】(拡大)を割り当てたボタンを押します。

- 画面に拡大枠が表示されます。
- 拡大枠は、直前にオートフォーカスでピントを合わせた位置に表示されます。



2 十字ボタンの△▽◀▶を動かして拡大枠を移動します。

- OKボタンを長押しすると拡大枠が中央に戻ります。



3 拡大枠の大きさ(倍率)を変更します。

- INFOボタンを押してから、△▽ボタンを押すか、フロント/リアダイヤルを回すと拡大枠の大きさを変更できます。
- OKボタンを押すと、設定を確定して設定画面を終了します。



4 [Q]の機能を割り当てたボタンをもう一度押します。

- 拡大枠の部分が画面全体に拡大表示されます。
- フロント/リアダイヤルを回すと拡大の倍率が変わります。
- $\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$ ボタンで拡大範囲の変更をすることもできます。
- 撮影モードが**M** (マニュアル)の場合、拡大表示時に**INFO**ボタンを押すと絞りやシャッター速度の設定ができます。
- **Q** ボタンを押すと、拡大枠に戻ります。
- \odot ボタンを押すと、拡大表示を終了します。
- **Q** ボタンを長押ししても拡大表示を終了できます。



Mモード時の
露出設定画面

5 シャッターボタンを半押ししてオートフォーカスをします。

- 拡大表示はモニター上の表示のみです。実際に撮影される画像には反映されません。



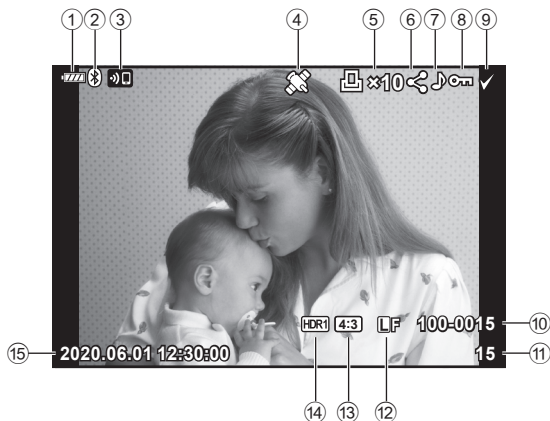
- 拡大枠AFは、タッチ操作でも使用できます。☞ 「タッチパネルを使って撮る」(P.30)

3 再生する

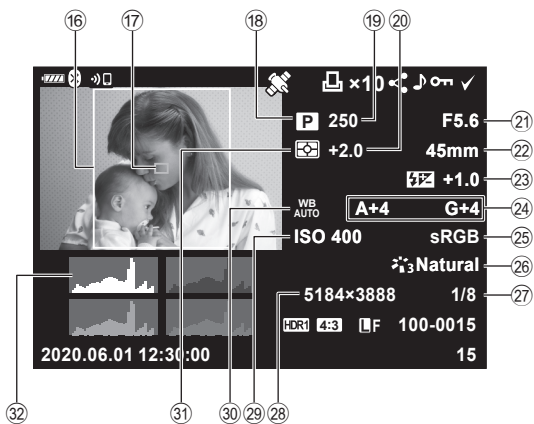
再生時の情報表示

再生画像情報

簡易表示



総合表示

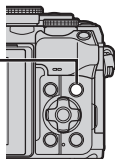


① 電池残量	P.19	⑩ アスペクト比	P.82
② Bluetooth®接続状態	P.137-146	⑪ HDR画像	P.41
③ 無線LAN接続	P.137-146	⑫ 日時	P.20
④ GPS位置情報有り	P.144	⑬ アスペクト枠	P.82
⑤ プリント予約 プリント枚数	P.107	⑭ AFターゲット表示	P.68
⑥ シェア予約	P.106	⑮ 撮影モード	P.27-63
⑦ 録音	P.108, 122	⑯ シャッター速度	P.51-57
⑧ プロテクト(保護)	P.105	⑰ 露出補正	P.67
⑨ 画像選択	P.106	⑱ 絞り値	P.51-57
⑩ ファイル番号	P.131	⑳ 焦点距離	
⑪ コマ番号		㉑ フラッシュ補正	P.88
⑫ 画質モード	P.82	㉒ ホワイトバランス補正值	P.89
⑬ アスペクト比	P.82	㉓ カラー設定	P.94
⑭ HDR画像	P.41	㉔ ピクチャーモード	P.77, 115
⑮ 日時	P.20	㉕ 圧縮率	P.136
		㉖ ピクセルサイズ	P.136
		㉗ ISO感度	P.70
		㉘ ホワイトバランス	P.79
		㉙ 測光方式	P.90
		㉚ ヒストグラム	P.26

情報表示を切り換える

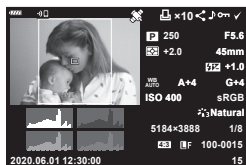
INFO ボタンを押すたびに再生時の情報表示の切り換えができます。

INFO ボタン



表示Off

INFO



総合表示

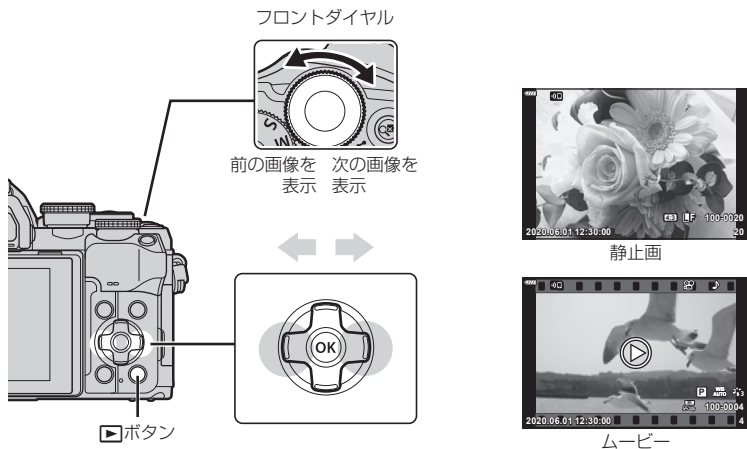
- 再生時の情報表示に、ヒストグラム表示、ハイライト&シャドウ表示を追加できます。

 **[▶Info]** (P.133)

撮った画像／ムービーを見る

1 再生ボタンを押します。

- 撮影した画像が表示されます。
- フロントダイヤルや十字ボタンで画像が切り替わります。
- シャッターボタン半押しまたは再生ボタンを押すと撮影モードに戻ります。



リアダイヤル	表示の拡大(🔍) / インデックス(📄)
フロントダイヤル	コマ戻し(⏮) / コマ送り(⏭) クローズアップ再生中でも操作できます。
十字ボタン (△▽◀▶)	1コマ再生：コマ送り(▶) / コマ戻し(◀) / 10コマ送り(▽) / 10コマ戻し(△) クローズアップ再生：クローズアップ位置の変更 INFO ボタンを押すとクローズアップしたままコマ送り(▶)戻し(◀)ができます。 インデックス再生 / カレンダー再生：画像の選択
INFO ボタン	画像情報の表示
🔍(📄)ボタン	画像のシェア予約(P.106)
🔒ボタン	画像のプロテクト(P.105)
🗑️ボタン	画像の消去(P.105)
Ⓞ(OK)ボタン	メニューの表示(カレンダー再生中に押すと1コマ再生に戻ります。)

画像をすばやく探す (インデックス再生/カレンダー再生)

- 1コマ再生でリアダイヤルを (⊙) に回すとインデックス再生します。さらに回すと、カレンダー再生に変わります。
- リアダイヤルを (⊙) に回すと1コマ再生に戻ります。



- インデックス再生のコマ数を変更できます。 [表示] (P.134)



- タッチで操作することもできます(P.111)。

画像を拡大して見る (クローズアップ再生)

1コマ再生でリアダイヤルを (⊙) に回すと表示を拡大し、 (⊙) に回すと1コマ再生に戻ります。



- タッチで操作することもできます(P.110)。

画像を回転する (回転)

撮影した画像を回転させることができます。

- 再生画面で画像を表示し、 ボタンを押します。
- [回転] を選択して、 ボタンを押します。
- (反時計回り)、 (時計回り) を押すたびに画像が回転します。
 - ボタンを押して、設定を終了します。
 - 回転表示した画像はその状態でカードに記録されます。
 - ムービーやプロテクトされている画像は回転できません。

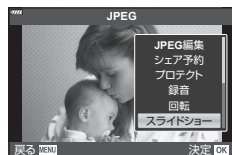


- カメラを縦位置で撮影した画像を、再生時に自動的に回転して表示することができます。
再生メニュー【回転再生】(P.121)
【回転再生】が【Off】のときは、【回転】は選択できません。

画像をスライドショーで見ると (スライドショー)

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。

- 再生画面で \odot ボタンを押します。
- 【スライドショー】を選択し、 \odot ボタンを押します。



- スライドショーの設定をします。

スタート	スライドショーを開始します。表示している画像から、順に再生されます。
BGM	【On】、または【Off】を設定します。
スライド	再生する画像の種類を設定します。
1コマ再生時間	次の画像に切り換わる間隔を2～10秒の間で設定します。
ムービー再生	ムービーを再生するときに、ムービー全編を再生する【フル】か、途中までの部分を再生する【ショート】を設定します。

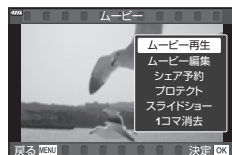
- 【スタート】を選択して \odot ボタンを押します。

- スライドショーが始まります。
- スライドショーの再生中に Δ / ∇ を押すと、全体の音量が調節できます(カメラのスピーカーでの再生時のみ)。音量調節表示中に \triangleleft / \triangleright を押すと、画像やムービーに録音した音量とBGMのバランスを調節できます。
- \odot ボタンを押すとスライドショーが停止します。

ムービーを見る

ムービーを選んで \odot ボタンを押すと再生メニューが表示されます。【ムービー再生】を選択し、 \odot ボタンを押すとムービー再生が始まります。十字ボタンの \triangleleft / \triangleright で早送り、巻き戻しします。 \odot ボタンを再度押すと一時停止します。一時停止中は、 Δ ボタンで先頭のフレーム、 ∇ ボタンで最後のフレームを表示します。 \triangleleft / \triangleright ボタンまたはフロントダイヤルでコマ戻し/コマ送りします。**MENU**ボタンを押すと再生を終了します。

- ムービーの再生中に Δ / ∇ を押すと音量調節ができます。





- タッチで操作することもできます(P.110)。

4GBを超えるサイズのムービーの再生

長時間撮影したムービーはファイルサイズが4GBを超える場合があります。ファイルサイズが4GBを超えると、自動的にファイルを分割して記録を続けます。自動的に複数に分割されたムービーは、一つのムービーとして連続して再生することもできます。

1 再生ボタンを押します。

- 最後に撮影した画像が表示されます。

2 再生したい長時間ムービーコマを表示してOKボタンを押します。

[先頭から連続で再生]：分割されたムービーを通して再生

[ムービー再生]： ファイル別に再生

[同一ムービー消去]： 分割されたムービーをすべて消去

[1コマ消去]： ファイル別に消去

- パソコンでのムービー再生には最新版のOlympus Workspaceをおすすめします。はじめてソフトウェアをお使いになる際は、カメラをパソコンに接続してからソフトウェアを起動してください。

画像を保護する

(プロテクト)

画像を誤って消さないように保護します。保護したい画像を再生してQボタンを押すと、画像にPマーク(プロテクトマーク)が付きます。再度Qボタンを押すと解除されます。

あらかじめプロテクトしたい画像を選んで、一括してプロテクトすることもできます。Mマーク「複数の画像を一括で処理する(プロテクト・選択コマ消去・選択コマシェア予約)」(P.106)

プロテクトマーク

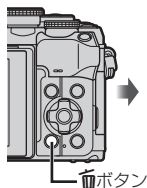


- カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像も消去されます。

画像を消去する

(1コマ消去)

消去したい画像を再生し、Qボタンを押します。**[実行]**を選択しOKボタンを押すと消去されます。



画像の転送予約をする

(シェア予約)

スマートフォンに転送したい画像をあらかじめ選択しておくことができます。また、シェア予約をつけると、OI.Shareでその画像だけを閲覧することもできます。

転送したい画像を再生して◀ (⊙) ボタンを押すと、画像にシェア予約が付き、◀ が表示されます。再度◀ (⊙) ボタンを押すと解除されます。

あらかじめ転送したい画像を選んで、一括してシェア予約をつけることもできます。

☑ 「複数の画像を一括で処理する(プロテクト・選択コマ消去・選択コマシェア予約)」

- シェア予約できるコマは200コマです。
- RAW画像はシェア予約はできません。



- ◀ (⊙) ボタンに[◀]以外の機能を割り当てている場合は、カスタムメニューの[▶⊙ボタン機能] (P.128)で[◀]を割り当ててください。



全てのシェア予約を解除する

(全シェア予約解除)

画像に設定されているシェア予約を解除します。

- 1 ▶再生メニューで[全シェア予約解除]を選択して⊙ ボタンを押します。
- 2 [実行]を選択して⊙ ボタンを押します。

複数の画像を一括で処理する

(プロテクト・選択コマ消去・選択コマシェア予約)

複数の画像を選択し、一括して[プロテクト]・[選択コマ消去]・[選択コマシェア予約]をすることができます。

- 複数の画像を選択するには、カスタムメニューの[▶⊙ボタン機能] (P.128)を[☑]に設定しておく必要があります。

インデックス再生画面(P.103)で◀ (⊙) ボタンを押すと画像が選択され、✓が表示されます。もう一度押すと解除されます。

⊙ ボタンを押してメニューを表示し、[選択コマシェア予約]・[プロテクト]・[選択コマ消去]から選択します。

1コマ再生でも使用できます。

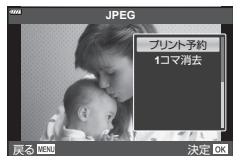


- タッチで操作することもできます(P.111)。

プリント予約する (DPOF)

プリントしたい画像にあらかじめ枚数や日時の印刷などの条件を指定しておくことができます。プリント予約した画像は、DPOF対応のプリントショップでプリントできます。プリント予約の情報(DPOF)はカードに記録されます。

- 1 再生画面で \odot ボタンを押します。
- 2 [プリント予約]を選択し、 \odot ボタンを押します。



- 3 [1コマ予約]または[全コマ予約]を選択し、 \odot ボタンを押します。

1コマ予約の場合

\triangleleft と \triangleright を押してプリント予約したいコマを選択し、 \triangle と ∇ を押してプリントする枚数を設定します。

- 複数の画像をプリント予約する場合は、この手順を繰り返します。予約が終わったら \odot ボタンを押します。

全コマ予約の場合

[全コマ予約]を選択し、 \odot ボタンを押します。

- 4 日時の種類を選択し、 \odot ボタンを押します。

無し	画像のみプリントされます。
日付	画像と撮影年月日がプリントされます。
時刻	画像と撮影時刻がプリントされます。

- 複数の画像をプリントする場合、1コマごとに設定を変えることはできません。

- 5 [予約する]を選択し、 \odot ボタンを押します。

- 再生中のカードに保存されている画像に、設定が反映されます。
- 他の機器で予約した内容を、このカメラで変更することはできません。また、このカメラで新たに予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- RAWデータおよびムービーはプリント予約できません。



- \triangleleft (\odot)ボタンを押しても再生中の画像をプリント予約できます。 \triangleleft (\odot)ボタンに[\square]以外の機能を割り当てている場合は、カスタムメニューの[\triangleright \odot ボタン機能] (P.128)で[\square]を割り当ててください。

プリント予約を選択して解除する／すべて解除する

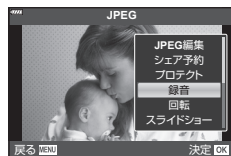
すべてのプリント予約を解除する方法と、選択した画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

- 1 再生画面で \odot ボタンを押します。
- 2 [プリント予約]を選択し、 \odot ボタンを押します。
- 3 [1コマ予約]を選択し、 \odot ボタンを押します。
 - すべてのプリント予約を解除する場合は、[解除する]を選択して、 \odot ボタンを押します。そうでない場合は[解除しない]を選択して \odot ボタンを押します。
- 4 \triangleleft を押してプリント予約を解除したいコマを選択します。
 - ∇ でプリント枚数を0に設定します。すべて解除したら \odot ボタンを押します。
- 5 日時の種類を選択し、 \odot ボタンを押します。
 - プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。
 - 再生中のカードに保存されている画像に、設定が反映されます。
- 6 [予約する]を選択し、 \odot ボタンを押します。

記録した画像に音声をつける (録音)

カメラのステレオマイクを使って、カードに記録した画像にあとから音声を加えます。簡単なメモ代わりに使えます。

- 最長30秒の録音ができます。
- 1 再生画面で音声を録音する画像を表示し、 \odot ボタンを押します。
 - プロテクトされた画像には録音できません。
 - 音声録音は再生メニューの[編集]からも設定できます。[編集]の[画像選択]で音声を録音する画像を選択して \odot ボタンを押し、[録音]を選択します。
 - 2 [録音]を選択して、 \odot ボタンを押します。
 - 録音を中止する場合は、[中止]を選択してください。
 - 3 [録音スタート]を選択して \odot ボタンを押すと、録音を開始します。
 - 4 \odot ボタンを押して、録音を終了します。
 - 音声を録音した画像には♪が表示されます。
- 録音した音声を消去する場合は、手順3で[消去]を選択してください。



録音音声の再生

([J再生])

音声録音した静止画を選んでⓂボタンを押すとメニューが表示されます。[J再生]を選択して、Ⓜボタンを押すと録音音声の再生が始まります。Ⓜボタンまたは**MENU**ボタンを押すと再生を終了します。録音音声の再生中に△▽を押すと音量調節ができます。



- タッチで再生することもできます(P.110)。

パノラマ画像をスクロール再生する

複数の画像をつなぎ合わせたパノラマ画像をスクロール再生することができます。

1 1コマ再生でパノラマ画像を選びます。

2 リアダイヤルをQに回します。

- △▽◀▶で上下左右にスクロールできます。



- パノラマ画像のスクロール再生中、さらにリアダイヤルをQに回すと2倍から最大14倍まで拡大表示され、Ⓜに回すと縮小表示されます。Ⓜボタンを押すと1コマ再生に戻ります。
- 2倍以上の拡大表示中に**INFO**ボタンを押してから◀▶を押すと、表示中の拡大倍率を固定したまま画像を選択できます。再度**INFO**ボタンを押すと、画面をスクロールできる状態に戻ります。フロントダイヤルを回しても画像の選択ができます。



- タッチで操作することもできます(P.110)。

3

再生する

タッチパネルを使う

タッチパネルを使って、画像の操作ができます。

- 先のとがったものや爪で操作しないでください。
- モニター保護シートや手袋を使っていると、うまく操作できない場合があります。

1 コマ再生で使う

■ コマ送り／コマ戻し

- タッチした状態で、指を左に動かすとコマ送りし、右に動かすとコマ戻しします。





■ 拡大

- 画面に軽くタッチすると、スライダーが表示されます。
- バーのスライダーを指で上下に動かすと拡大表示します。
- 拡大中に、タッチした状態で指を動かすと表示範囲をスクロールできます。



■ 録音音声、ムービーの再生





-  にタッチすると再生が始まります。
- 再生中、タッチした状態で指を上下に動かすと音量を変更できます。
- ムービーの場合、再生中に画面をタッチすると一時停止します。もう一度タッチするとムービー再生を再開します。
- 一時停止中に画面下部のバーを指で左右に動かすと、次の再生開始位置を移動できます。
-  にタッチすると、再生を終了します。

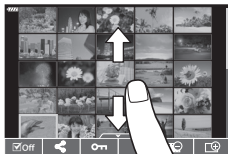


インデックス再生／カレンダー再生で使う

1コマ再生画面で画面に軽くタッチすると、が表示されます。にタッチするとインデックス再生になります。さらににタッチすると、カレンダー再生になります。

■ ページを送る／戻す


- タッチした状態で、指を上動かすとページを送り、下動かすとページを戻します。
- またはで表示するコマ数を切り換えられます。
 **【表示】** (P.128)
- に何度かタッチすると1コマ再生に戻ります。







■ 画像を見る

- 見たい画像にタッチすると1コマ表示します。

画像を選択する／プロテクトする

1コマ再生画面で画面に軽くタッチするか、インデックス再生画面でにタッチすると、タッチメニューが表示されます。タッチメニューのアイコンにタッチするとそれぞれの操作ができます。



	画像を選択します。複数を選択してから一括して削除などができます。
	スマートフォンにシェアしたい画像を予約できます。  「画像の転送予約をする(シェア予約)」(P.106)
	画像のプロテクトをします。

自分撮りモードで再生する

■ コマ送り／コマ戻し

1コマ再生画面(P.110)と同様です。


■ 拡大

1コマ再生画面(P.110)と同様です。

■ 録音音声、ムービーの再生


1コマ再生画面(P.110)と同様です。

■ シェア予約

- 画面をタッチするとシェア予約ボタンが表示されます。
-  をタッチすると画像にシェア予約をつけます。



■ 撮影モードに切り換える

-  にタッチすると撮影モード(P.66)に切り換わります。



- 自分撮りモードでは**INFO**ボタンが無効になります。

4 メニューの機能

メニューの基本操作

メニューでは、ライブコントロールやLVスーパーコンパネなどに表示されない撮影／再生時の機能やカメラを使いやすくカスタマイズできる機能を設定します。

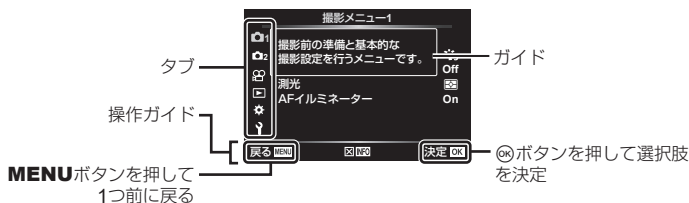
タブ	タブ名	説明
	撮影メニュー 1	静止画撮影に関するメニューです。撮影前の準備や撮影機能の設定を行います。
	撮影メニュー 2	
	動画メニュー	ムービー撮影に関するメニューです。基本的な設定やカスタマイズの設定を行います。
	再生メニュー	画像の再生や編集に関するメニューです。
	カスタムメニュー	カメラのカスタマイズに関するメニューです。
	セットアップメニュー	日時や表示言語などの設定に関するメニューです。

メニューで選べない機能について

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。

- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- 設定済みの項目との組み合わせにより設定できない場合
モードダイヤルを に設定していると、ピクチャーモードが選択できないなど

1 MENUボタンを押し、メニューを表示させます。



- 機能を選択すると、約2秒後にガイドが表示されます。
- **INFO** ボタンを押すと、ガイドの表示／非表示を切り換えることができます。

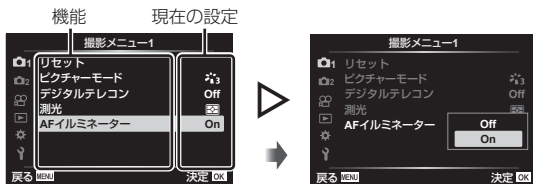
2 △▽でタブを選択し、▷を押します。

- ★カスタムメニューを選択したときは、メニューグループのタブが表示されます。△▽でメニューグループを選択して▷を押します。



メニューグループ

3 △▽で機能を選択し▷を押して、各設定画面に進みます。



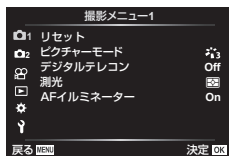
4 △▽で設定値を選択しⓀボタンを押して、設定内容を確定します。

- 繰り返しMENUボタンを押して、メニューを終了します。



- 各機能の初期設定については、「初期設定一覧」(P.167)をご覧ください。

撮影メニュー1 / 撮影メニュー2を使う



撮影メニュー1

- 📷 リセット (P.115)
- 📷 ピクチャーモード (P.77, 115)
- 📷 デジタルテレコン (P.115)
- 📷 測光 (P.90)
- 📷 AFイルミネーター (P.116)

撮影メニュー2

- 📷 手ぶれ補正 (P.88)
- 📷 電動ズーム速度 (P.116)
- 📷 フラッシュ補正 (P.88)
- 📷 多重露出撮影 (P.116)
- 📷 インターバル撮影設定 (P.118)
- 📷 静音[♥]撮影設定 (P.119)
- 📷 RCモード撮影 (P.119)

カメラの設定を初期値に戻す (リセット)

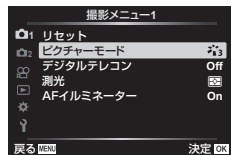
カメラの設定を工場出荷時の設定に戻します。ほぼすべての設定に戻すか、撮影に関する機能のみに戻すかの選択ができます。

- 1 **☑** 撮影メニュー 1で、[リセット]を選択して、**▷**を押します。
- 2 リセットの種類([フル]と[標準])を選択し、**Ⓚ** ボタンを押します。
 - 日付や言語など一部を除いた設定値をリセットする場合は、[フル]を選び**Ⓚ** ボタンを押します。☞ 「初期設定一覧」(P.167)
- 3 [実行]を選択し、**Ⓚ** ボタンを押します。

画像の仕上がりを設定する (ピクチャーモード)

[ピクチャーモード] (P.77)の設定に、個別にコントラストやシャープネスなどの微調整をしておくことができます。調整したパラメータは仕上げり項目ごとに記憶されます。

- 1 **☑** 撮影メニュー 1で、[ピクチャーモード]を選択して、**▷**を押します。
 - 撮影モードの設定に応じて選択できるピクチャーモードが表示されます。



- 2 **△▽**で項目を選択して**Ⓚ** ボタンを押します。
 - 各項目でさらに**▷**を押すと、選択したピクチャーモードに応じて詳細設定ができます。詳細設定ができないピクチャーモードもあります。
 - [標準]以外の階調ではコントラスト調整は反映されません。

被写体を拡大して記録する (デジタルテレコン)

画像の中央部を切り出して、設定されている画質モードのサイズまで拡大して記録します。被写体を約2倍に拡大して記録できます。レンズの焦点距離以上の倍率で撮影できるため、レンズ交換ができないときや被写体に近づきにくいときなどに便利です。

- 1 **☑** 撮影メニュー 1で[デジタルテレコン]を[On]にします。
- 2 モニターの表示が2倍に拡大されます。
 - 撮影するとモニターに表示された状態で記録されます。
 - パノラマ、多重露出、デジタルシフトでは使用できません。
 - [デジタルテレコン]を[On]にして撮影したRAW画像の再生時は、モニターに表示した部分を示す枠が表示されます。
 - AFターゲットが少なくなります。
 - 画面に \square が表示されます。

暗い場所でもピントを合わせやすくする (AFイルミネーター)

暗い場所でもピントを合わせやすくするため、AFイルミネーター (AF補助光) を発光します。[Off] に設定するとAFイルミネーターを発光しません。

ズーム速度を設定する (電動ズーム速度)

電動ズームレンズをズームリングで操作するときの静止画撮影でのズーム速度を変更できます。

- 1 撮影メニュー 2 で [電動ズーム速度] を選択して、▶ を押します。
- 2 ▲▼ で項目を選択して OK ボタンを押します。

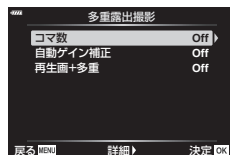
複数の画像を重ね合わせて撮影する (多重露出撮影)

撮影した画像にもう一度撮影した画像を重ねて1つの画像に合成します。カードに保存されている画像を表示して重ねて撮影することもできます。

合成した画像は、撮影した画像の画質モードと同じ設定で保存されます。保存されている画像を表示して合成できるのは、RAW で記録されている画像のみです。

[画質モード] を RAW の設定で撮影すると、[再生画+多重] を繰り返し使うことで、3コマ以上の撮影画像を合成することもできます。

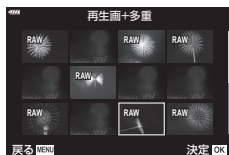
- P/A/S/Mモードで使用できます。
- 1 撮影メニュー 2 で、[多重露出撮影] を選択し、▶ を押します。
 - 2 十字ボタンの ▲▼ で項目を選択し、▶ ボタンを押します。
 - ▲▼ ボタンで設定を選択し、OK ボタンを押します。



コマ数	[Off] : 多重露出撮影をしません。 [2コマ] : 2コマの多重露出撮影をします。
自動ゲイン補正	[On] : 合成する各コマの明るさを1/2にして合成します。 [Off] : 各コマの明るさのまま合成します。
再生画+多重	[On] : カードに保存されているRAW画像と多重露出撮影をします。 [Off] : 2コマ続けて撮影した画像を合成します。 <ul style="list-style-type: none">• [再生画+多重] を設定するには [コマ数] を [2コマ] に設定してください。

3 [再生画+多重]を[On]に設定すると、合成する画像一覧が表示されます。

- Δ ∇ \triangleleft \triangleright ボタンで画像を選択し、 \triangleright ボタンを押します。
- 選択できる画像はRAW画像のみです。

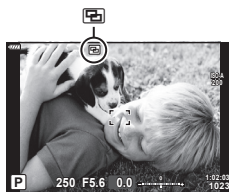


4 多重露出設定画面でOKボタンを押して、設定を確定します。

- 撮影メニューに戻ります。

5 MENUボタンを押して、メニューを終了します。

- モニターに \square が表示されます。
- [再生画+多重]を設定したときは、選択した画像がモニターに半透過で表示されます。



6 撮影します。


- 1コマ目を撮影または[再生画+多重]に設定したときは、撮影画面に合成する画像が半透過で表示されます。
- 1コマ目を撮影すると \square が緑で表示されます。
- 通常の多重露出撮影では、2コマ目を撮影すると画像が合成されます。
- \square ボタンを押すと再度1コマ目の撮影ができます。
- [再生画+多重]のときは、同じ再生画像を使って繰り返し多重露出撮影ができます。

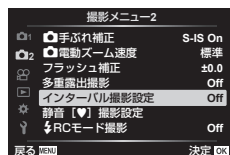
7 多重露出を終了するときは、MENUボタンか \square ボタンを押します。

- MENUボタンを押したときは、メニューで[コマ数]を[Off]に設定します。
- 多重露出撮影を終了するとモニターの \square が消えます。
- 多重露出撮影を設定すると、スリープモードには入りません。
- 他のカメラで撮影された画像を使った合成はできません。
- [再生画+多重]を[On]に設定し、RAW形式の画像を選択するときに表示される画像は、撮影時の設定で現象されたものです。
- [再生画+多重]でRAW形式の画像を選択するとき、RAW+JPEGで記録した画像はRAW画像が表示されます。
- 撮影に関する設定は、多重露出撮影を解除してから行ってください。一部設定できない機能があります。
- 次の場合は1枚目以降の多重露出が自動的に解除されます。
電源をオフにする / \square ボタンを押す / MENU ボタンを押す / 撮影モードを変更する / 電池残量がなくなる / 各コネクタへのケーブルの挿入
- インターバル撮影とは併用できません。
- [画質モード]をRAWの設定で撮影した画像は、再生モードで合成することもできます。

一定時間ごとに自動的に撮影する (インターバル撮影)

設定した間隔で自動的に撮影できます。また撮影した一連のコマを1つのムービーとして記録することもできます。**P/A/S/M**モードでのみ設定できます。

- 1  撮影メニュー 2で、[インターバル撮影設定]を選択して▶を押します。




- 2 [On]を選択して▶を押します。
- 3 以下の設定をしてⓂを押します。

コマ数	撮影するコマ数を設定します。
撮影開始待ち時間	インターバル撮影を開始して、最初のコマが撮影されるまでの待ち時間を設定します。
撮影間隔	撮影開始後の各コマの撮影間隔を設定します。
タイムラプス動画	静止画のみの記録か、撮影後に一連のコマでムービーを生成するかを設定できます。 [Off]: 各コマを静止画として記録します。 [On]: 静止画とともに、一連のコマで1つのムービーを生成して記録します。
タイムラプス動画設定	[タイムラプス動画]で記録するムービーの[ムービーサイズ]と[フレームレート]を設定します。


- ・画面に表示される開始予定時間や終了予定時間は目安です。撮影条件などによって異なる場合があります。

- 4 [Off] / [On]の選択画面に戻りますので、[On]が選択されていることを確認し、もう一度Ⓜボタンを押します。

- ・ **MENU** ボタンを押して、メニューを終了します。
- ・ 撮影画面に戻ると、画面に  が表示されます(アイコンには設定したコマ数が表示されます)。

- 5 撮影します。



- ・ AF後、ピントが合わなくても撮影されます。ピント位置を固定したいときはMFで撮影してください。
- ・ 【撮影確認】(P.125)は0.5秒で動作します。
- ・ 撮影開始待ち時間、撮影間隔の設定を1分31秒以上にすると、1分でモニターを消灯してカメラの電源がオフになります。撮影10秒前に自動的に復帰します。またモニター消灯中は、シャッターボタンを押しても復帰します。
- ・ AF方式(P.80)が[C-AF] [C-AF+TR]では、[S-AF]に設定されます。
- ・ インターバル撮影中は、タッチ操作は受け付けません。
- ・ バルブ、タイムまたはコンポジット撮影とは併用できません。
- ・ 多重露出撮影とは併用できません。

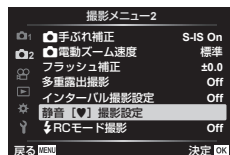
- 撮影間隔より、フラッシュの充電時間が長いときは、フラッシュは発光しません。
- 撮影した静止画が正しく記録されていない場合は、タイムラプスムービーは生成されません。
- カード残量が不足した場合、タイムラプスムービーは記録されません。
- 撮影開始後に次の操作をするとインターバル撮影は、終了します。
モードダイヤル / **MENU**ボタン / ボタン / レンズ取り外しボタン / USBケーブルを接続 / 電源オフ
- 電池残量が少なくなると途中で撮影を終了します。十分に充電した電池をお使いください。
- 【タイムラプス動画設定】の【ムービーサイズ】で【4K】を選択して生成されたムービーは、パソコンの環境によって再生できない場合があります。再生条件については当社ホームページをご確認ください。

静音撮影時の動作を設定する （静音[♥]撮影設定）


このメニューでは、静音[♥]撮影時(P.74)の以下の動作について設定します。




- 長時間露光時に発生するノイズ低減処理を行うかどうか
- 【電子音】 / 【AFイルミネーター】 / 【フラッシュ】の動作の設定を許可するかどうか

- 1  撮影メニュー 2で、【静音[♥]撮影設定】を選択して、を押します。



- 2 Δ ∇ で項目を選択してを押します。

- 3 以下の設定をしてボタンを押します。

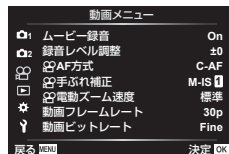
静音[♥]長秒時ノイズ低減	【オート】：静音[♥]撮影(P.74)での長時間露光時に発生するノイズを低減します。ノイズ低減処理時に、シャッターの動作音がします。 【Off】：ノイズ低減処理は行いません。
電子音	【許可】：  カスタムメニュー  【電子音】 (P.129)の設定に従って動作します。 【禁止】：静音撮影時に電子音を鳴らないようにします。
AFイルミネーター	【許可】：  撮影メニュー 1 【AFイルミネーター】 (P.116)の設定に従って動作します。 【禁止】：静音撮影時にAFイルミネーターの動作を禁止します。
フラッシュ	【許可】：フラッシュの発光モード(P.71)の設定に従って動作します。 【禁止】：静音撮影時にフラッシュの動作を禁止します。

ワイヤレスRCフラッシュ撮影 （RCモード撮影）

内蔵フラッシュとRCモード機能付き専用フラッシュを使ってワイヤレスフラッシュ撮影ができます。📷 「ワイヤレスRCフラッシュ撮影」 (P.155)

動画メニューを使う

動画メニューでは、ムービー撮影の機能を設定します。



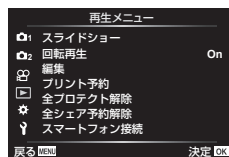
メニュー項目	説明	
ムービー録音	<p>[Off] : ムービー撮影中に音声を録音しません。</p> <p>[On] : ムービー撮影中に音声を録音します。</p> <p>[On] : ムービー撮影時に風切り音を低減しながら録音します。</p>	62
録音レベル調整	内蔵マイクの感度を設定します。マイクが拾っている音量の過去数秒間のピーク値を音量レベルバーで確認しながら、 Δ ∇ で感度を調整します。	—
AF方式	ムービー撮影のAF方式を選択します。	80
手ぶれ補正	ムービー撮影の手ぶれ補正を設定します。	88
電動ズーム速度	電動ズームレンズを操作するときのムービー撮影でのズーム速度を変更できます。	—
動画フレームレート	<p>ムービー撮影時のフレームレートを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> テレビでムービーを再生する場合、テレビとムービーのフレームレートが合っていないとなめらかに再生されません。ムービーを撮影する前に、各国/地域のテレビ映像信号に合わせてフレームレートを設定してください。 - NTSC地域 : 60p (30p) - PAL地域 : 50p (25p) 	83
動画ビットレート	ムービー撮影時の圧縮率を選びます。	83

- ムービー録音では、レンズの駆動音やカメラの操作音が入ることがあります。気になるときは、[AF方式]を[S-AF]や[MF]にして撮影したり、ボタンをなるべく押さないようにするなど、音の発生を抑えてください。
- ART (ジオラマ)では、ムービー録音できません。
- ムービー録音が[Off]のときは、が表示されます。

再生メニューを使う

再生メニュー

- スライドショー (P.104)
- 回転再生 (P.121)
- 編集 (P.121)
- プリント予約 (P.107)
- 全プロテクト解除 (P.124)
- 全シェア予約解除 (P.106)
- スマートフォン接続 (P.138)



縦位置で撮影した画像を自動で回転表示する (回転再生)

設定が[On]のとき、縦位置で撮影した画像が自動的に回転して再生されます。

撮影した画像を加工する (編集)

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。RAW画像は、アートフィルターなどの撮影時に使うような処理を加えることができます。JPEG画像は、トリミングやリサイズなどの簡単な加工ができます。

- 再生メニューで[編集]を選び▶を押します。
- △▽で[画像選択]を選びⓄボタンを押します。
- ◀▶で編集する静止画を選択し、Ⓞボタンを押します。
 - RAW画像の場合は[RAW編集]、JPEG画像の場合は[JPEG編集]が表示されます。RAW+JPEGで記録した画像は、メニューに両方が表示されますので、編集したい方のメニューを選びます。
- [RAW編集]または[JPEG編集]を選択してⓄボタンを押します。

RAW編集	設定に合わせて編集したJPEG画像をつくります。 現設定 現在のカメラの設定に応じた処理がされます。あらかじめカメラの設定をしておきます。露出補正など、一部の設定は反映されません。
	ART BKT アートフィルターの処理をしたJPEG画像を作ります。複数のアートフィルターを選択して同時に複数の画像を作れます。

JPEG編集	<p>[JPEG編集]では以下の内容が編集できます。</p> <p>階調オート 逆光時に暗く写った被写体を明るくします。</p> <p>赤目補正 フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。</p> <p>トリミング 画像をトリミングします。フロント/リアダイヤルでトリミングサイズ、十字ボタンでトリミング位置を指定します。</p> <p>アスペクト アスペクト比が4:3 (基準)の画像を、[3:2]、[16:9]、[1:1]、または[3:4]に変更します。アスペクト比選択後、十字ボタンでトリミング位置を指定します。</p> <p>モノクロ作成 白黒に変換します。</p> <p>セピア作成 セピア色に変換します。</p> <p>鮮やかさ調整 画像の色をより鮮やかにします。画面で確認しながら鮮やかさを調整します。</p> <p>リサイズ 画像サイズを1280×960、640×480、または320×240に変換します。アスペクト比が4:3 (基準)以外の画像は、近い大きさの画像サイズに変換されます。</p> <p>eポートレート なめらかな肌に補正します。顔が検出できないなど、画像によっては補正できない場合があります。</p>
--------	--

5 設定を完了したら \odot ボタンを押します。

- 画像に設定が反映されます。

6 [実行]を選択して \odot ボタンを押します。

- 編集された画像がカードに記録されます。
- 画像によっては赤目補正できないことがあります。
- 次の場合はJPEG編集できません。
パソコンで編集した画像/カードの空き容量が不足している場合/他のカメラで撮影した画像
- **[リサイズ]**では、撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。
- 画像によっては**[リサイズ]**を使用できないことがあります。
- **[トリミング]** / **[アスペクト]**は、アスペクト比が**4:3** (基準)の画像のみ編集できます。

音声録音


静止画に音声を録音します(最長30秒)。

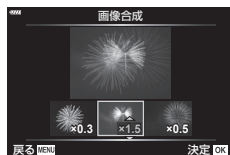
画像再生時の**[録音]**と同じ機能です(P.108)。

画像を合成する

(画像合成)

記録されているRAW画像を重ねて合成して別の画像として保存します。2コマまたは3コマの合成ができます。

- 1 再生メニューで[編集]を選び▷を押します。
- 2 △▽で[画像合成]を選びⓧボタンを押します。
- 3 合成するコマ数を選択してⓧボタンを押します。
- 4 △▽◀▷で合成するRAW画像を選択し、ⓧボタンを押します。
 - 手順3で選択したコマ数を選択すると、画像合成画面が表示されます。
- 5 合成する各画像のゲインを選択します。
 - ◀▷で画像を選択し、△▽で数値を変更します。
 - ゲインは0.1～2.0まで選択できます。表示画像を見ながらゲインを調節してください。
- 6 ⓧボタンを押すと、確認画面が表示されます。
[実行]を選択し、ⓧボタンを押します。




- 画像をRAW形式で保存し、繰り返し[画像合成]を行うと、4コマ以上の画像合成が可能です。

ムービーから静止画を作る

(静止画切り出し)

ムービー内のフレームを選択し、静止画として保存します。

- 本機で撮影された画像サイズが[4K]のムービーでのみ可能です。


- 1 再生メニューで[編集]を選択して、▷を押します。
- 2 △▽で[画像選択]を選びⓧボタンを押します。
- 3 ◀▷でムービーを選択してⓧボタンを押します。
- 4 [ムービー編集]を選びⓧボタンを押します。
- 5 △▽で[静止画切り出し]を選びⓧボタンを押します。
- 6 ◀▷で静止画として保存するコマを表示してⓧボタンを押します。
 - △▽でジャンプ操作が可能です。
 - 保存した画像の撮影日時は、実際に撮影した日時と異なる場合があります。

ムービーをトリミングする

(トリミング)

ムービーの削除したい範囲を指定して削除します。特定の部分を残したいときは、この操作を繰り返します。


- 本機で撮影されたムービーでのみ可能です。

- 1 再生メニューで[編集]を選択して、▶を押します。
- 2 △▽で[画像選択]を選びⓄボタンを押します。
- 3 <▶でムービーを選択してⓄボタンを押します。
- 4 [ムービー編集]を選びⓄボタンを押します。
- 5 △▽で[トリミング]を選びⓄボタンを押します。
- 6 [上書き保存]または[新規作成]を選択して、Ⓞボタンを押します。
 - 画像がプロテクトされている場合は、[上書き保存]は選択できません。
- 7 <▶で先頭のフレームまたは最後のフレームのどちらから削除するかを選択し、Ⓞボタンを押します。
- 8 <▶で削除する範囲を指定します。
 - 赤く表示された部分が削除されます。
- 9 Ⓞボタンを押します。
- 10 [実行]を選択してⓄボタンを押します。
 - 保存した画像の撮影日時は、実際に撮影した日時と異なる場合があります。

全てのプロテクトを解除する

(全プロテクト解除)

プロテクトされている画像を一度に解除できます。

- 1 再生メニューで[全プロテクト解除]を選択して、▶を押します。
- 2 [実行]を選択してⓄボタンを押します。

セットアップメニューを使う

カメラの基本的な設定をします。表示する言語やモニター
の明るさの調整などがあります。カメラを使い始めるとき
に設定する項目を集めています。



メニュー項目	説明	🔍
カードセットアップ	カードの初期化や、カードに保存されている画像を一括で削除します。	126
日時設定	日時を設定します。	20
🗣️ (言語切り換え)	機能設定時に表示されるガイドやメニューの言語を選択します。	126
モニター調整	モニターの明るさと色温度を調整します。◀▶で🌞 (色温度)と🌟 (明るさ)を切り換え、△▽で設定値を選びます。 INFO ボタンを押すたびにモニター表示の彩度が [Natural] と [Vivid] で切り換わります。	—
撮影確認	撮影後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。撮影確認中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。 [0.3秒] ~ [20秒] : 画像を表示する時間を指定します。 [Off] : 記録中の画像は表示されません。 [Auto▶] : 記録中の画像を表示し、そのまま再生モードに切り換わります。画像を確認した後、消去したいときに便利です。	—
Wi-Fi/Bluetooth設定	本機の無線機能を使って、Wi-Fi/Bluetooth接続が可能なスマートフォンと接続するための設定をします。	140, 145, 146
バージョン	カメラや接続しているレンズ、アクセサリーのファームウェアのバージョンを表示します。お問い合わせいただくときやカメラのファームウェアのアップデートなどの場合に確認してください。	—

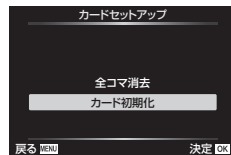
カードを初期化する (カードセットアップ)

新しく購入したカード、他のカメラで使用したカード、パソコンなどで他の用途で使用したカードは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。☞「カードについて」(P.150)

- 1 ①セットアップメニューで、[カードセットアップ]を選択して、▶を押します。

- カードにデータが含まれている場合は、メニュー項目が表示されます。[カード初期化]を選択して、Ⓚボタンを押します。



- 2 [実行]を選択して、Ⓚボタンを押します。

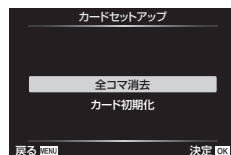
- 初期化が実行されます。

全コマを消去する (カードセットアップ)

撮影した画像をすべて消去します。プロテクトした画像は消去されません。

- 1 ①セットアップメニューで、[カードセットアップ]を選択して、▶を押します。

- 2 [全コマ消去]を選択して、Ⓚボタンを押します。



- 3 [実行]を選択して、Ⓚボタンを押します。

- 全コマ消去が実行されます。

表示言語を設定する (🗨️)

機能設定時に表示されるガイドやメニューの言語を選択します。

- 1 ①セットアップメニューで、[🗨️]を選択して、▶を押します。

- 2 十字ボタンの△▽◀▶またはフロント/リアダイヤルで、設定したい言語にカーソルを移動します。

- 言語を選択する画面は、2ページで構成されています。△▽◀▶ボタンまたはフロント/リアダイヤルでカーソルを移動して、ページを切り換えられます。



- 3 設定したい言語の位置にカーソルを移動させた状態で、Ⓚボタンを押します。

カスタムメニューを使う

★カスタムメニューを使って、機能の拡張やカメラのカスタマイズができます。

カスタムメニュー

- A** AF/MF (P.127)
- B** ボタンダイヤル(P.128)
- C1/C2** 表示/音/接続(P.128)
- D1/D2** 露出/ISO/BULB (P.129)
- E** フラッシュ (P.130)
- F** 画質/WB/色(P.130)
- G** 記録(P.131)
- H** EVF (P.132)
- I** その他(P.132)



A AF/MF

MENU → * → A

メニュー項目	説明	👉
AEL/AFLモード	AFやAEロックの機能を設定します。	132
AFターゲットパッド	[On] にすると、ファインダーをのぞきながらモニターをタッチして、AFターゲットの位置を変更できます。モニターをタッチしたまま指を動かすと、AFターゲットの位置が移動します。 <ul style="list-style-type: none">• [On]にすると、モニターのダブルタッチで、ドラッグ操作の有効/無効の切り換えができます。• [AFターゲットパッド]は、拡大枠画面(P.98)でも使用できます。	—
◎顔優先	顔優先AFや瞳優先AFの方式を選択できます。	69
MFアシスト	[On] に設定すると、マニュアルフォーカス時にフォーカスリングを回したとき、自動的に拡大表示したり、ピーキング表示することができます。	133
レンズリセット	[Off] にすると、電源をオフにしてもフォーカス位置をリセットしません。 [On] のとき、電動ズームレンズはズームの位置もリセットします。	—

B ボタン/ダイヤル

MENU → ⚙️ → B

メニュー項目	説明	🔍
ボタン機能	各ボタンに機能の割り当てができます。	96
▶️Ⓞボタン機能	再生時のⓄボタンの機能を変更できます。 [◀️]：スマートフォンに転送したい画像に転送予約(シェア予約)をつけます。 [☑️]：複数の画像を選択できます。 [🖨️]：プリントしたい画像をあらかじめ指定しておくことができます。プリント枚数はすべて1枚に設定されます。日時はプリントされません。	105, 106, 107
ダイヤル機能	リアダイヤルとフロントダイヤルの機能を変更できます。	—

G1 表示/音/接続

MENU → ⚙️ → G1

メニュー項目	説明	🔍
📷Control表示	ムービーモード以外でⓄボタンを押したときに、ライブコントロールを表示するか、LVスーパーコンパネを表示するかを撮影モードごとに設定できます。	75, 76
📄/Info表示設定	INFO ボタンを押したときに表示する情報画面の表示/非表示を設定します。 [▶️Info]：再生情報画面の設定 [LV-Info]：撮影情報画面の設定 [📄表示]：インデックス表示/カレンダー表示の設定	133, 134
LVブースト	低照度下の撮影でも被写体を確認しながら撮影できます。 [Off] ：露出設定を反映してライブビュー表示します。撮影結果をあらかじめ確認しながら撮影できます。 ・バルブ/タイム撮影では [On2] に切り換わります。 ・拡大/プレビュー表示では [On1] に切り換わります。 [On1] ：露出設定を反映せずに見やすい明るさで表示します。実際に撮影される画像とは明るさが異なります。 [On2] ： [On1] よりさらに明るく表示します。星景撮影で星を確認しながら撮影するときなどに適しています。 ・実際に撮影される画像とは明るさが異なります。また、被写体の動きが少し荒くなります。	—
フリッカー低減	ライブビュー表示の蛍光灯などによるフリッカーの影響を低減します。 [オート] で低減されないときは、地域の商用電源周波数に合わせて [50Hz] [60Hz] に設定します。	—
表示罫線選択	[方眼]、[黄金分割]、[三分割]、[目盛]、[対角線]、[動画罫線]から選択し、撮影画面に罫線を表示できます。	—
ピーキング色	輪郭強調の色(赤・黄・白・黒)を変更できます。	133

メニュー項目	説明	🔍
電子音	[Off]に設定すると、シャッターボタンを押してピントが合ったときのピピッという音を鳴らさないようにできます。	—
HDMI	[出力サイズ]：HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号形式を選択します。 [HDMIコントロール]：[On]にするとHDMIコントロール対応テレビのリモコン操作を許可します。撮影した画像をテレビで再生するときに使えます。	134
USB接続モード	カメラをパソコンに接続するときの方式を選択します。 [オート]では機器に接続するたびにメニューが表示されます。	—

メニュー項目	説明	🔍
露出基準調整	適正露出の基準値を測光方式ごとに調整できます。 <ul style="list-style-type: none"> 調整した方向の露出補正範囲が狭くなります。 調整量は撮影画面では確認できません。通常の露出補正を目的とする場合は、露出補正(P.67)を行ってください。 	—
ISOオート設定	ISO感度を[AUTO]に設定したときの上限値と基準値を設定します。 [上限値]：ISO感度の上限を設定します。 [基準値]：通常使用するISO感度を設定します。	—
高感度ノイズ低減	高感度撮影時のノイズ低減レベルを選択できます。	—
長秒時ノイズ低減	長時間露出時に発生するノイズを低減します。 [オート]：長秒時、カメラ内部温度上昇時に、ノイズ低減処理を行います。 [On]：常にノイズ低減処理を行います。 [Off]：ノイズ低減処理を行いません。 <ul style="list-style-type: none"> ノイズ低減処理中は、画面に処理が終了するまでの時間が表示されます。 連写設定時は自動的に[Off]になります。 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。 静音[♥️]撮影(P.74)時の動作は、[静音[♥️]撮影設定](P.119)で設定した[静音[♥️]長秒時ノイズ低減]の設定内容が優先されます。 	58

メニュー項目	説明	🔍
BULB/TIME リミッター*	バルブ撮影、タイム撮影の最長時間を設定します。	58
ライブBULB設定	撮影中の画面表示の間隔を設定します。更新回数には制限があります。また、ISO感度が高いほど表示回数が少なくなります。モニターにタッチするかシャッターボタンを半押しすると表示を更新できます。【Off】にすると表示しません。	
ライブTIME設定*		
コンポジット撮影 設定*	コンポジット撮影時に基準となる露出時間を設定します。	60

* Mモードの長秒時(タイム)撮影/ライブコンポジット(比較明合成)にのみ反映されます。APモードのライブタイム/ライブコンポジット撮影には反映されません。

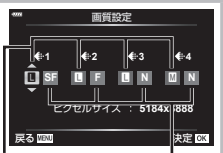
E フラッシュ


MENU → * → E

メニュー項目	説明	🔍
⚡同調速度	フラッシュ発光時のシャッター速度を設定できます。	136
⚡低速制限	フラッシュ発光時の低速側のシャッター速度の制限値を設定できます。	136
🔍+🔍連動	【On】にすると、フラッシュ補正值に露出補正值が加算されます。	67, 88
⚡+WB連動	フラッシュ発光時のホワイトバランスの設定を選択できます。	—

F 画質/WB/色

MENU → * → F

メニュー項目	説明	🔍
画質設定	JPEGの画質モードを変更できます。3種類の画像サイズと3種類の圧縮率の組み合わせから選択します。 1) <D>で【←:1】～【←:4】の画像サイズと圧縮率を選択し、△▽で値を変更します。 2) ⓧボタンを押すと確定されます。 	82, 136
WBモード	ホワイトバランスの設定をします。それぞれの設定を微調整しておくこともできます。	79, 89
WBオート 電球色 残し	【On】にすると電球色の色味を残します。	—
カラー設定	撮影した画像をモニターやプリンターで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。	94

メニュー項目	説明	🔍
ファイルネーム	<p>[オート]: カードを入れ換えても、ファイル番号は通し番号で付けられます。カード内に重複するファイル番号がある場合は、最も大きなファイル番号に続いた番号が付けられます。</p> <p>[リセット]: 新しいカードを入れると、フォルダ番号は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、最も大きなファイル番号に続いた番号が付けられます。</p>	—
ファイルネーム編集	<p>画像につくファイル名を変更できます。以下の部分が編集できます。</p> <p>sRGB: Pmdd0000.jpg ————— Pmdd AdobeRGB: _mdd0000.jpg ————— mdd</p> <p>1) [sRGB]または[AdobeRGB]を選んで▶を押します。</p> <p>2) ◀▶でカーソルを移動し、△▽で文字を変更します。</p> <p>3) 手順2を繰り返し、すべてを設定したらⓂボタンを押します。</p>	—
著作権情報*	<p>最大63文字の撮影者／著作権者の名称を画像に付加します。</p> <p>[著作権情報記録]: [On]を選択すると撮影者／著作権者の名称をExif情報に付加します。</p> <p>[撮影者入力]: 撮影者の名称を入力します。</p> <p>[著作権者入力]: 著作権者の名称を入力します。</p> <p>1) ①の中から文字を選択し、Ⓜボタンを押します。選択した文字は②に表示されます。</p> <p>2) 手順1を繰り返し、すべてを入力したら[END]を選択しⓂボタンを押します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を消去するには、INFOボタンを押し、カーソルを②に移動してから、消去したい文字を選んで🗑️ボタンを押します。 <div style="text-align: center;">  </div> <p>* [著作権情報]の使用によって生じたトラブルや損害などについては、当社は一切の責任を持ちません。お客様の責任で使用してください。</p>	—

メニュー項目	説明	🔍
EVF自動切換設定	[Off]にすると、ファインダーをのぞいても表示は切り換わりません。表示を切り換えるには \square ボタンを押します。	—
EVF調整	ファインダー表示の明るさや色合いを調整します。 [EVF自動調光]を[On]にすると、自動で明るさを調整します。また、情報表示の濃さも自動的に調整されます。	—

I その他

メニュー項目	説明	🔍
ピクセルマッピング	撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。	161
水準器調整	水準器の角度のずれを調整できます。 [リセット]：出荷時の調整値に戻ります。 [キャリブレーション]：現在のカメラの状態位置を0点とします。	—
タッチパネル設定	モニターに触れてカメラを操作することができます。[Off]にするとタッチパネルの操作を禁止します。	—
スリープ時間	設定した時間、カメラを操作しないと、省電力モード(スリープモード)になります。シャッターボタンの半押しで解除されます。	—
認証マーク表示	認証マークを表示します。	—

AEL/AFLモード

MENU → ⚙ → A → [AEL/AFLモード]

AEL/AFLボタンを押してオートフォーカスや測光を行うことができます。フォーカスモードごとにmodeを選択します。



AEL/AFL機能分担一覧

モード		シャッターボタンの働き				AEL/AFLボタンの働き	
		半押ししたとき		全押ししたとき		押ししている間	
		AF動作	測光	AF動作	測光	AF動作	測光
S-AF	mode1	S-AF動作	固定	—	—	—	固定
	mode2	S-AF動作	—	—	固定	—	固定
	mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—
C-AF	mode1	C-AF開始	固定	停止	—	—	固定
	mode2	C-AF開始	—	停止	固定	—	固定
	mode3	—	固定	停止	—	C-AF開始	—
	mode4	—	—	停止	固定	C-AF開始	—
MF	mode1	—	固定	—	—	—	固定
	mode2	—	—	—	固定	—	固定
	mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—

マニュアルフォーカス時にピント合わせを補助する (MFアシスト)

MENU → * → A → [MFアシスト]

MFでのピント合わせを補助する機能です。フォーカスリングを回すと、被写体の輪郭を強調したり画面の一部を拡大したりして表示します。フォーカスリングの操作をやめると、元の表示に戻ります。

拡大	画面の一部を拡大して表示します。拡大する部分はあらかじめAFターゲットで決めることができます。☞「ピントの位置を自分で決める」(P.68)
ピーキング	画面内の輪郭のはっきりした箇所を強調表示します。強調表示の色を選択することができます。☞【ピーキング色】(P.128)

- ピーキング表示は、細かい被写体ほど強く表示される傾向にあります。正確なピント位置を保証するものではありません。



- 【ピーキング】は、ボタン操作で表示することもできます。ボタンを押すたびに表示を切り換えることができます。あらかじめボタン機能(P.96)でいずれかのボタンに機能を割り当てておきます。

情報表示の画面を追加する

MENU → * → Q → [Info表示設定]

▶Info (再生情報表示)

▶[Info]で以下の再生情報表示画面を追加できます。追加した画面は、画像再生時に**INFO**ボタンを繰り返し押しすと表示されます。また、初期設定で表示されている画面を非表示にすることもできます。

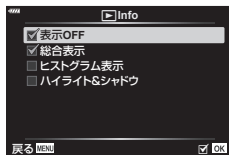


ヒストグラム表示



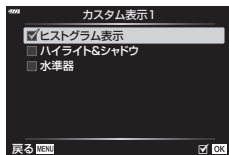
ハイライト&シャドウ表示

- ハイライト&シャドウ表示では、露出オーバーの部分を赤、露出アンダーの部分を青で表示します。



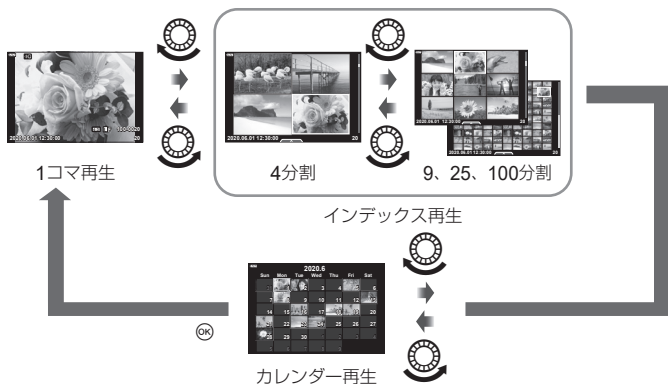
LV-Info (撮影情報表示)

[LV-Info]でヒストグラム表示画面、ハイライト&シャドウ表示画面、水準器表示画面を追加できます。[カスタム表示1]または[カスタム表示2]を選んで、追加する画面にチェックを入れます。追加した画面は、撮影時に**INFO**ボタンを繰り返し押しすと表示されます。また、初期設定で表示されている画面を非表示にすることもできます。



表示(インデックス/カレンダー表示)

[表示]で、インデックス表示画面の分割数を変更したり、初期設定で表示されている画面を非表示にできます。チェックを入れた画面は画像再生時にリアダイヤルを回して選択します。

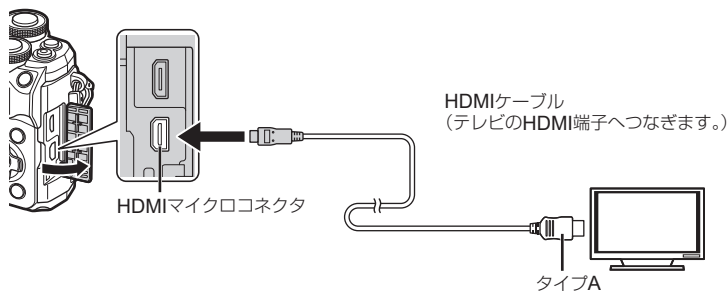


カメラの画像をテレビで見る (HDMI)

MENU → * → [C2] → [HDMI]

別売のケーブルを使ってテレビに接続して画像を再生します。また、撮影でも使用できます。HDMIケーブルを使ってハイビジョン対応のテレビに接続すると、高画質な画像をテレビで見ることができます。

- 1 カメラの電源がオフになっていることを確認し、カメラとテレビを接続します。

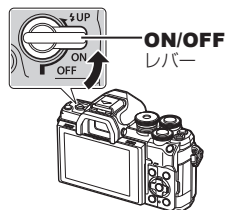


- HDMI端子の位置はテレビによって異なります。テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラの電源をオンにします。

3 テレビの入力を切り換えます。

- HDMIケーブル接続時は、カメラのモニターは消灯します。
- テレビの入力切り換えについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビの設定によっては、画像や情報表示の一部が欠けて見えることがあります。
- HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号形式を選ぶことができます。テレビの入力設定に合わせて選択してください。



4K優先	4Kを優先してHDMI出力します。
1080p優先	1080pを優先してHDMI出力します。
720p優先	720pを優先してHDMI出力します。
480p/576p	480p/576p形式でHDMI出力します。

- 他のHDMI出力機器と接続しないでください。故障の原因となります。
- パソコンとのUSB接続中は、HDMI出力は行われません。
- 撮影状態のときは信号形式を**[4K優先]**にしている場合でも、**1080p優先**で出力されます。
- カメラからHDMIケーブルを抜くときは、カメラの電源をオフにしてください。

テレビのリモコンを使う

HDMIによるコントロールに対応したテレビに接続したとき、テレビのリモコンで操作することができます。**[HDMIコントロール]**を**[On]**にしてください。**[On]**に設定中は、再生以外のカメラ操作はできません。

カメラのモニター表示は消灯します。

- テレビに表示された操作ガイドに従って操作できます。
- 1コマ再生のときに、リモコンの**[赤]**ボタンで情報表示の切り換え、**[緑]**ボタンでインデックス表示への切り換えができます。
- テレビによっては使用できない機能があります。

フラッシュ発光時のシャッター速度 (⚡同調速度/⚡低速制限)

MENU → **☆** → **3** → [⚡同調速度] / [⚡低速制限]

フラッシュが発光するときのシャッター速度の条件を設定できます。

撮影モード	フラッシュ発光シャッター速度	上限	下限
P	カメラが自動的に設定	[⚡同調速度] 設定*1	[⚡低速制限] 設定*2
A			
S	シャッター速度設定による		制限無し
M			

*1 別売の専用フラッシュは1/200秒

*2 スローシンクロ発光設定時は最長60秒まで延長

JPEGの画像サイズと圧縮率の組み合わせ (画質設定)

MENU → **☆** → **F** → [画質設定]

画像サイズと圧縮率を組み合わせ、JPEGの画質モードを設定できます。

画像サイズ		圧縮率		
サイズ名	ピクセルサイズ	SF (Super Fine)	F (Fine)	N (Normal)
L (Large)	5184×3888	L SF	L F	L N
M (Middle)	3200×2400	M SF	M F	M N
S (Small)	1280×960	S SF	S F	S N

5 スマートフォンと接続する

本機の無線LAN機能(Wi-Fi)とBluetooth®機能を使ってスマートフォンと接続し、専用アプリを使用することで、撮影や撮影後の楽しみがますます広がります。カメラとスマートフォンを接続しておく、スマートフォンの操作で画像の転送やリモート撮影、カメラ内の画像にGPSタグの追加ができます。

- すべてのスマートフォンで動作を保証するものではありません。

専用アプリOLYMPUS Image Share (OI.Share)を使ってできること

- カメラの画像をスマートフォンへ転送
カメラ内の画像をスマートフォンに取り込むことができます。
また、カメラ内の画像をスマートフォン側で選択して転送できます。
- スマートフォンからリモート撮影
スマートフォンでカメラをリモート操作し、撮影することができます。
- カメラと写真を楽しむための情報にアクセス
撮影テクニックの解説(フォトガイド)や取扱説明書、写真投稿コミュニティなどに、外出先でもかんたんにアクセスできます。

詳細は、下記アドレスをご参照ください。

<https://app.olympus-imaging.com/oishare/>

専用アプリOlympus Image Palette (OI.Palette)を使ってできること

- 写真をステキに加工
スマートフォンに取り込んだ画像を直感的な操作で印象的な仕上がりにすることができます。

詳細は、下記アドレスをご参照ください。

<https://app.olympus-imaging.com/oipalette/>

専用アプリOLYMPUS Image Track (OI.Track)を使ってできること

- カメラの画像にGPSタグを追加
スマートフォンで記録したGPSログをカメラに転送するだけで、撮影した画像にGPSタグを追加することができます。

詳細は、下記アドレスをご参照ください。

<https://app.olympus-imaging.com/oitrack/>



- 無線LAN機能を使用する前に「無線LAN / Bluetooth®機能について」(P.176)をよくお読みください。
- 本機を購入した地域以外での無線LAN / Bluetooth®機能の使用については、その国の電波管理規則に違反する恐れがありますので、当社では一切の責任は負えません。
- 電波による通信は、傍受される可能性があります。あらかじめご了承ください。
- 本機の無線LAN機能を使って、自宅や公衆のアクセスポイントに接続することはできません。
- 送受信アンテナは、グリップ内にあります。金属類をなるべく近づけないでください。
- バッグなどにカメラを入れて運ぶ場合、バッグの素材やその他の内容物によってカメラの電波が遮蔽され、スマートフォンと通信できない場合があります。

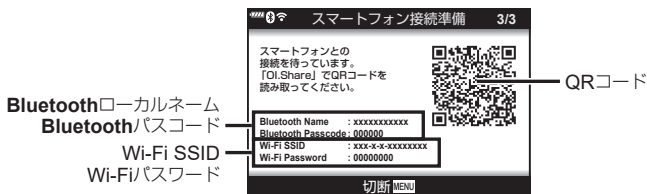
- ・ 接続中は、バッテリーの消耗が早くなります。バッテリーの残量が少ないと通信中でも通信が途切れる場合があります。
- ・ 電子レンジやコードレス電話機など、磁場、静電気、電波の発生するところでは通信しにくくなったり、速度が遅くなったりします。
- ・ カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしていないと、無線LAN機能が使用できません。

スマートフォンとの接続設定をする

はじめてスマートフォンとカメラを接続する場合は、初期設定が必要です。

- ・ 接続設定は、スマートフォンのOSの設定画面で行わず、アプリ(OI.Share)の画面に従って行ってください。

- 1 あらかじめスマートフォンにインストールした専用アプリOI.Shareを起動します。
- 2 再生メニューで[スマートフォン接続]を選択して▶を押します。
 - ・ モニター画面のにタッチしても接続できます。
- 3 モニターに表示される操作ガイドに従って、Wi-Fi/Bluetooth接続の準備を進めます。
 - ・ モニターにBluetoothローカルネームとそのパスコード、Wi-Fi SSIDとそのパスワード、QRコードが表示されます。



- 4 スマートフォンのOI.Shareの画面下部のカメラのアイコンをタップします。
 - ・ [かんたん接続設定]のタブが表示されます。

5 OI.Shareに表示されるガイドに従ってQRコードを読み取り、接続設定を進めます。

- QRコードを読み取れない場合は、OI.Shareに表示されるガイドに従って手動で設定する必要があります。
 - Bluetooth** : OI.Shareに表示される**Bluetooth**設定画面でカメラのモニターに表示されているローカルネームを選択し、パスコードを入力します。
 - Wi-Fi** : OI.Shareに表示される**Wi-Fi**設定画面で、カメラのモニターに表示されている**SSID**とパスワードを入力して接続します。
- 接続すると、画面に📶1が表示されます。
- Bluetooth**®のアイコンは以下の状態を表しています。
 - 📶点灯：無線信号発信状態
 - 📶点灯：無線接続確立状態

6 Wi-Fi接続を終了するには、カメラの**MENU**ボタンを押すか、モニター画面の**【切断】**にタッチします。

- OI.Shareでカメラの電源をオフにし、接続を終了することもできます。
- 初期設定では、Wi-Fi接続を終了しても**Bluetooth**®接続が維持され、スマートフォンからリモート撮影ができる状態になります。Wi-Fi接続を終了するときに**Bluetooth**®接続も終了するように設定するには、**【Bluetooth】**を**【Off】**にします。

電源オン時の無線接続常時受け付けを設定する

カメラの電源をオンしている時に、常にスマートフォンとの無線接続が可能な状態にするかどうかを設定します。

1 設定メニューで**【Wi-Fi/Bluetooth設定】**を選択して**▷**ボタンを押します。

2 **【Bluetooth】**を選択して**▷**を押します。

- あらかじめカメラとスマートフォンの接続設定を完了させてください。完了していない場合、**【Bluetooth】**は選択できません。

3 設定値を選択して**Ⓞ**ボタンを押します。

Off	カメラの電源がオンのときの無線接続常時受け付けを解除し、無線信号の発信を停止します。スマートフォンとの接続には、カメラの再生メニューから 【スマートフォン接続】 (P.138)を行います。
On	カメラの電源がオンのとき、無線信号が発信され、カメラとスマートフォンは常に接続可能な状態になります。OI.Shareの操作だけで、いつでもスマートフォンと無線接続し、リモート撮影や写真転送などが可能になります。

- 【Bluetooth】**設定の設定値は、カメラの**Bluetooth**®通信の状態表示も兼ねていますので、設定値である**【Off】** **【On】**以外に、**【停止中】** **【動作中】**が表示されます。

電源オフ時の無線接続を設定する

カメラの電源をオフにしているときも、スマートフォンと無線接続するかどうかを設定します。

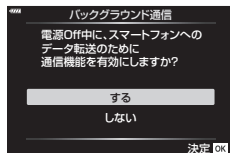
- 1 **Y**セットアップメニューで**[Wi-Fi/Bluetooth設定]**を選択して**▷**ボタンを押します。
- 2 **[バックグラウンド通信]**を選択して**▷**を押します。
- 3 設定値を選択して**ⓧ**ボタンを押します。

毎回確認	カメラの電源をオフにすると、スマートフォンとの無線接続を有効にするかどうかを確認する画面が表示されます。
Off	カメラの電源をオフにしているとき、スマートフォンとの無線接続を無効にします。
On	カメラの電源をオフにしているときもスマートフォンとの無線接続を有効にして、カメラ内の画像をスマートフォンに転送したり、スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧できます。

■ [毎回確認]について

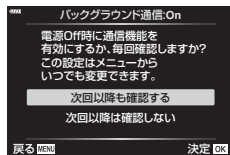
[バックグラウンド通信]を[毎回確認]に設定し、以下の条件がすべて満たされた場合、カメラの電源オフ時に次の確認画面が表示されます。

- [通信機能]が[On]になっている
- スマートフォンとの接続設定(P.138)が完了している
- カードが正しく差し込まれている



する	スマートフォンとの無線接続を有効にして、カメラの電源がオフになります。
しない	スマートフォンとの無線接続を無効にして、カメラの電源がオフになります。

- 確認画面の表示中に約1分経過すると、スマートフォンとの無線接続を無効にして、カメラの電源がオフになります。
- スマートフォンとの接続設定(P.138)を行った後に初めて電源を切ると、確認画面の後に次回以降も確認するかどうかを確認する画面が表示される場合があります。[次回以降は確認しない]を選ぶと、次回以降の電源オフ時に確認画面が表示されなくなります。電源オフ時の確認画面を再度表示させる場合は、[バックグラウンド通信]を[毎回確認]に設定してください。



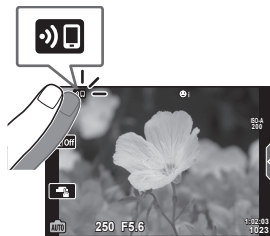
- スマートフォンとの無線接続を有効にしている場合も、以下の場合は自動で無効になります。一度カメラの電源をオンにすると、再度有効になります。
 - スマートフォンとの通信がないまま12時間経過した場合
 - カードを抜き差しした場合
 - 電池交換をした場合
 - 電池の本体内部充電中に充電エラーが発生した場合
- [バックグラウンド通信]が[On]の場合、**ON/OFF**レバーを**ON**の位置に合わせてもカメラの電源がすぐにオンにならない場合があります。

スマートフォンに画像を転送する

スマートフォンでカメラ内の画像を選択して取り込むことができます。また、あらかじめシェアする画像をカメラで選択しておくこともできます。🔗「画像の転送予約をする(シェア予約)」(P.106)

1 カメラの[スマートフォン接続]を開始します(P.138)。

- モニター画面の📱にタッチしても接続できます。
- 接続設定済みの場合は、自動的に接続を開始します。
- 接続すると、画面に📶1が表示されます。



2 OI.Shareで[写真転送]をタップします。

- カメラ内の画像が一覧で表示されます。

3 転送したい写真を選択して保存ボタンをタップします。

- 保存が完了したらスマートフォンからカメラの電源をオフできます。



- ⓘ (セットアップメニュー)の[Wi-Fi/Bluetooth設定]で次の設定をしておく、カメラの電源がオフのときもスマートフォンの操作(手順3、4)だけで画像を転送できます。
 - [通信機能] : [On]
 - [バックグラウンド通信] : [On]

カメラの電源オフ時に自動で画像を転送する

次の準備をしておく、カメラの電源オフ中に自動でスマートフォンに画像を転送します。

- カメラで画像にシェア予約をつける(P.106)。
- 電源オフ時の無線接続を有効にする(P.140)。
- スマートフォンがiOSの場合、あらかじめスマートフォンでOI.Shareを起動しておく。




- スマートフォンがiOSの場合、ご家庭のWi-Fi ルーター等ほかのアクセスポイントに接続されていると自動で接続されません。その場合は、OI.Shareの写真転送機能をご利用ください。
- スマートフォンによっては、スマートフォンがスリープ状態では画像の転送が停止する場合があります。その場合は、スマートフォンがスリープ状態にならないようにしてお使いください。

スマートフォンからリモート撮影する (ライブビューリモコン)

カメラをスマートフォンから操作して、スマートフォンでライブビューを確認しながらリモート撮影(ライブビューリモコン)ができます。

- カメラ側は接続画面になり、撮影操作はスマートフォン側からすべて行います。

- 1 カメラの[スマートフォン接続]を開始します。
 - モニター画面のにタッチしても接続できます。
- 2 OI.Shareを起動して、[リモコン]ボタンをタップします。
- 3 [ライブビュー]をタップします。
- 4 シャッターボタンをタップして撮影します。
 - 撮影した画像はカメラ内のカードに記録されます。
 - 使用できる撮影機能に一部制限があります。

スマートフォンからリモート撮影する (ワイヤレスレリーズリモコン)




カメラをスマートフォンから操作して、リモート撮影(ワイヤレスレリーズリモコン)ができます。

- カメラは通常と全く変わらず撮影操作が可能です。加えて、スマートフォンの画面に表示されるシャッターボタンでも静止画撮影/ムービー撮影ができます。
- [Bluetooth] (P.139)が[Off]になっている場合は[Bluetooth]を[On]にします。
- [Bluetooth]が[On]になっている場合は、カメラの電源オンと同時に無線通信が常時待機状態になります。

- 1 OI.Shareを起動して、[リモコン]ボタンをタップします。
- 2 [ワイヤレスレリーズ]をタップします。
- 3 シャッターボタンをタップして撮影します。
 - 撮影した画像はカメラ内のカードに記録されます。
 - スマートフォンとの接続時、カメラはスリープモードには入りません。
 - [Bluetooth] (P.139)が[Off]になっていても、カメラの[スマートフォン接続]からの操作で[ワイヤレスレリーズ]は可能です。

画像に位置情報をつける

スマートフォンで記録したGPSログをカメラに転送することで、GPSログを記録していた間に撮影した写真にGPSタグを追加できます。

- 1 カメラで撮影を始める前に、スマートフォンでOI.Trackを起動してGPSログの記録を開始します。
 - GPSログ記録開始前に、時刻を同期するためにカメラを一度OI.Trackに接続し、OI.Trackの設定画面で日時の同期を行う必要があります。
 - GPSログ記録中は、電話や他のアプリの使用はできませんが、OI.Trackは終了させないでください。
- 2 カメラで撮影が終わったら、OI.TrackでGPSログの記録を終了します。
- 3 カメラのモニター画面で  をタッチして、スマートフォンと接続します。
 - 再生メニューの[スマートフォン接続]からも接続できます。
- 4 OI.TrackでGPSログをカメラに転送します。
 - カメラに転送されたGPSログを元に、手順1の後に撮影した画像に位置情報が付与されます。
 - 位置情報が付与された画像には、が表示されます。
 - 位置情報付与機能はGPS機能を搭載したスマートフォンでのみ使用できます。
 - ムービーには位置情報は付与されません。

無線LAN/Bluetooth®設定を初期化する

[Wi-Fi/Bluetooth設定]の設定内容を初期化します。

- 1 ①セットアップメニューで[Wi-Fi/Bluetooth設定]を選択して▷ボタンを押します。
- 2 [Wi-Fi/Bluetooth設定リセット]を選択して▷を押します。
- 3 [実行]を選択してⓂボタンを押します。
 - 次のメニュー項目が初期化されます。
[通信機能] (P.146) / [Bluetooth] (P.139) / [接続パスワード設定] (P.145) / [バックグラウンド通信] (P.140)
 - 初期化すると、スマートフォンとの接続設定も初期化されます。スマートフォンと接続するには、再度初期設定を行ってください(P.138)。

パスワードを変更する

Wi-Fi/Bluetooth接続で使うパスワードを変更します。

- 1 ①セットアップメニューで[Wi-Fi/Bluetooth設定]を選択して▷ボタンを押します。
- 2 [接続パスワード設定]を選択して▷を押します。
- 3 操作ガイドに従ってⓂボタンを押します。
 - 新しいパスワードに設定されます。
 - Wi-Fi接続のパスワードとBluetooth®接続のパスコードが両方とも変更されます。
 - パスワード変更後は、再度スマートフォンとの接続設定を行ってください。🏠 「スマートフォンとの接続設定をする」 (P.138)

無線LAN/Bluetooth®機能をオフにする

無線LAN/Bluetooth®機能を無効にします。

- 1 1 セットアップメニューで **[Wi-Fi/Bluetooth設定]** を選択して **▷** を押し
ます。
- 2 **[通信機能]** を選択して **▷** を押し
ます。
- 3 **[Off]** を選択して **Ⓞ** ボタンを押し
ます。
 - 以下の機能が使用できなくなります。
[スマートフォン接続] (P.138) / [バックグラウンド通信] (P.140) /
[Bluetooth] (P.139)

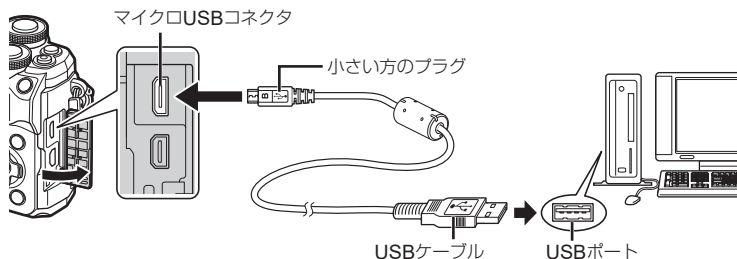


- カメラの電源をオフにしている間のみ無線LAN/Bluetooth®機能を無効にする場合は、
1 セットアップメニュー **[Wi-Fi/Bluetooth設定]** の **[バックグラウンド通信]** を **[Off]** に設定
してください。🔧 「電源オフ時の無線接続を設定する」 (P.140)
- カメラの電源オン時に無線接続常時受け付けを解除し、無線信号の発信を停止する場合は、
1 セットアップメニュー **[Wi-Fi/Bluetooth設定]** の **[Bluetooth]** を **[Off]** に設定してくだ
さい。🔧 「電源オン時の無線接続常時受け付けを設定する」 (P.139)

6 パソコンと接続する

パソコンに画像を取り込んで保存する

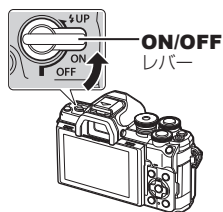
- 1 カメラの電源がオフになっていることを確認し、カメラとパソコンを接続します。



- USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

- 2 カメラの電源をオンにします。

- モニターにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。
- 画面が表示されないときは、カスタムメニューの[USB接続モード] (P.129)を[オート]に設定してください。
- カメラをパソコンに接続しても、カメラの画面に何も表示されない場合、電池残量が著しく不足している可能性があります。充電した電池を使用してください。



- 3 △▽を押して[ストレージ]を選択します。Ⓚ ボタンを押します。



4 カメラが新しい機器としてパソコンに認識されます。

- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン/工場出荷時にOSがインストールされていないパソコン/自作パソコン
- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

ソフトウェアのインストール

カメラとパソコンを直接USB接続して使うときには、以下のソフトウェアをインストールしてください。

Olympus Workspace

カメラで撮影した静止画やムービーをパソコンに取り込んで、閲覧や編集を行うためのアプリケーションソフトウェアです。カメラのファームウェアのアップデートもできます。ソフトウェアのダウンロードについては以下をご覧ください。ソフトウェアのダウンロードにはご利用の製品のシリアルNoを入力する必要があります。

<https://support.olympus-imaging.com/owdownload/>

7 ご注意

電池についてのご注意

- 電池は、当社製リチウムイオン電池1個を使用します。当社純正の充電電池以外は使用できません。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
 - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
 - 長時間、モニターで画像を表示する。
 - パソコンとの接続時。
 - 無線LAN/Bluetooth[®]機能を有効にする。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- 長期間(1ヶ月以上)カメラを使わない場合、カメラから電池を取り出して保管してください。
長期間電池をカメラに入れたままにしておくと、電池の寿命が短くなったり、電池が使えなくなる可能性がありますので、ご注意ください。
- ご購入の際、充電電池は十分に充電されていません。ご使用前に付属のUSB-ACアダプターで充電を行ってください。
- 付属のUSB-ACアダプターによる充電電池の充電時間は、通常約4時間(目安)です。
- 付属の電池は専用のUSB-ACアダプターまたは充電器以外は使用しないでください。また、付属のUSB-ACアダプターは専用の電池(カメラ)以外に使用しないでください。
- 指定以外の電池を使用した場合、爆発(または破裂)の危険があります。
- 使用済み電池は取扱説明書の「使用上のご注意」(P.177)に従って廃棄してください。

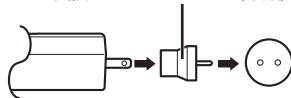
7

ご注意

海外での使用について

- USB-ACアダプターは、世界中のほとんどの家庭用電源AC100～240V（50/60Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプター（市販）が必要になる場合があります。
- イラストの変換プラグアダプター（市販）は一例です。詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。

変換プラグアダプター（市販）



- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、USB-ACアダプターが故障することがありますので使用しないでください。

7

注意

カードについて

本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、SD規格に準拠したSD/SDHC/SDXCカード（市販）です。最新情報は当社ホームページをご確認ください。



SDカードの書き込み禁止スイッチについて

SDカード本体は書き込み禁止スイッチを備えています。スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みができなくなります。スイッチを戻すと書き込み可能になります。



- 新しく購入したカード、他のカメラで使用したカード、パソコンなどで他の用途で使用したカードは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。☑ 「カードを初期化する（カードセットアップ）」（P.126）
- 初期化や消去してもカード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- SDカードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっている場合は、再生の一部の機能などで制限があります。

画質モード／ファイル容量／撮影可能枚数

表内のファイルサイズは、アスペクト比4:3のときのおおよその目安です。

画質モード	画像サイズ (ピクセルサイズ)	圧縮率	ファイル 形式	ファイルサイズ (MB)	撮影可能 枚数*		
RAW	5184×3888	ロスレス圧縮	ORF	17.4	867		
L ¹ SF		1/2.7		13.1	1054		
L ¹ F		1/4		8.9	1549		
L ¹ N		1/8		4.6	3013		
M ¹ SF	3200×2400	1/2.7		JPEG	5.1	2696	
M ¹ F		1/4			3.6	3905	
M ¹ N		1/8			1.9	7395	
S ¹ SF	1280×960	1/2.7			JPEG	1.0	13559
S ¹ F		1/4				0.8	18079
S ¹ N		1/8				0.5	28713

* SDカード16GBの場合

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもモニターに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。
- モニターに表示される撮影枚数は9999までです。
- ムービーの撮影可能時間については、当社ホームページをご確認ください。

交換レンズについて

撮影シーン、目的に合わせてレンズを交換します。M.ZUIKO DIGITAL という商品名、または右のマークのついている「マイクロフォーサーズシステム専用」の交換レンズが使えます。



また、フォーサーズシステムのレンズやOMシステムのレンズを使用することもできます。その場合は別売のアダプターが必要です。

- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- ほこりの多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けしないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、ほこりの侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

7

ご注意

■ レンズとカメラの組み合わせ

レンズ	カメラ	装着	AF	測光
マイクロフォーサーズマウント規格レンズ	マイクロフォーサーズマウント規格カメラ	可	可	可
フォーサーズマウント規格レンズ		マウントアダプター装着で可	不可*1	可
OMシステムレンズ			不可	可*2

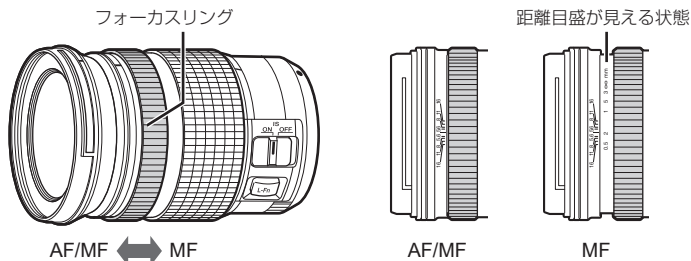
*1 MF（マニュアルフォーカス）のみ可能です。

*2 正確な測光はできません。

MFクラッチを搭載したレンズについて

MFクラッチ(マニュアルフォーカスクラッチ)機構を搭載したレンズでは、フォーカスリングの位置を変えることによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

- お使いになる前に、フォーカスリングの状態を確認してください。
- フォーカスリングをAF/MFの位置(レンズ先端側)にするとオートフォーカスになり、MFの位置(カメラボディ側)にするとカメラのAF方式の設定に関わらずマニュアルフォーカスになります。



- カメラのAF方式が**[MF]**の場合は、フォーカスリングをAF/MFの位置に切り換えても、オートフォーカスでの撮影はできません。

専用外部フラッシュ

発光量やマクロ撮影など、目的に合わせて選べます。専用外部フラッシュは、カメラとの通信機能により、TTL-AUTO、スーパーFP発光など多彩な調光モードが使えます。カメラのホットシューに取り付ける以外にも、専用のブラケットケーブル(別売)とフラッシュブラケットを使って撮影することもできます。フラッシュの機能や操作については、それぞれのフラッシュの取扱説明書をお読みください。

また、このカメラは以下のワイヤレスフラッシュシステムに対応しています。


電波通信ワイヤレスフラッシュ：CMD、CMD、RCV、X-RCVモード

電波通信によるワイヤレスコントロールで複数のフラッシュをコントロールします。フラッシュの設置方法の自由度がひろがります。対応したフラッシュ同士または、電波コマンダー/レシーバーを使って非対応のフラッシュをコントロールすることもできます。

ワイヤレスRCフラッシュ：RCモード

光通信によるワイヤレスコントロールで複数のフラッシュをコントロールします。カメラでフラッシュの発光モードの設定ができます(P.71)。

■ 専用フラッシュの機能比較

型名	調光モード	GN (ガイドナンバー) (ISO100時)	対応ワイヤレスシステム
FL-700WR	TTL-AUTO、MANUAL、 FP TTL AUTO、 FP MANUAL、MULTI、 RC、SL MANUAL	GN42 (75mm<150mm>*1時) GN21 (12mm<24mm>*1時)	CMD、  CMD、RCV、 X-RCV、RC
FL-900R	TTL-AUTO、 AUTO、MANUAL、 FP TTL AUTO、 FP MANUAL、MULTI、 RC、SL AUTO、 SL MANUAL	GN58 (100mm<200mm>*1時) GN27 (12mm<24mm>*1時)	RC
STF-8	TTL-AUTO、MANUAL、 RC*2	GN8.5	RC*2

*1 カバーできるレンズ焦点距離(<>)の数値は35mmフィルムカメラ換算)

*2 コマンダー(発信側)としてのみ働きます。

ワイヤレスRCフラッシュ撮影

RCモード機能付き専用フラッシュではワイヤレスフラッシュ撮影ができます。3つのグループのフラッシュと内蔵フラッシュを別々に発光制御できます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

1 ワイヤレスRCフラッシュをRCモードに設定して、配置します。

- 専用外部フラッシュの電源を入れMODEボタンを押して、RCモードにします。
- 専用外部フラッシュのチャンネルとグループを設定します。

2 撮影メニュー 2 (P.114)の[RCモード撮影]を[On]にします。

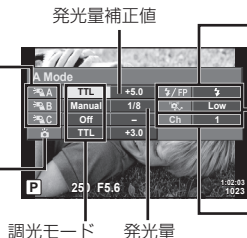
- ☉ボタンを押すとRCモード表示に切り換わります。INFOボタンを押すたびに、LVスーパーコンパネまたはLVコントロールとRCモード表示を切り換えることができます。
- フラッシュモードを選択します。(RCモードでは赤目軽減発光はできません。)

3 RCモード表示でグループごとに調光モードなどの設定をします。

グループ

- グループごとに調光モードを選択し、発光量補正します。MANUALでは発光量を選択します。

カメラ側のフラッシュの動作を設定します。



通常発光/スーパーFP発光
 ・通常発光とスーパーFP発光を切り換えます。

通信光量レベル
 ・通信光量レベルを[HI]、[MID]、[LO]から選択します。

チャンネル
 ・通信のためのチャンネルをフラッシュと合わせます。

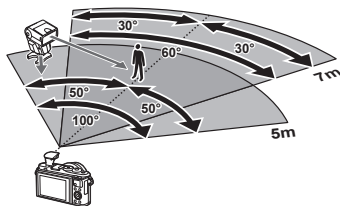
4 ON/OFFレバーをUPの位置に回して、フラッシュをポップアップさせます。

- フラッシュの充電完了を確認してから確認撮影します。

■ ワイヤレスフラッシュの制御可能範囲

ワイヤレスフラッシュのリモートセンサーをカメラ側に向けて設置します。次の図は設置範囲の目安です。範囲は周辺環境により異なります。

- ワイヤレスフラッシュの設置数は1グループ最大3台を推奨します。
- 4秒を超える後幕シンクロ撮影の場合は、ワイヤレスフラッシュ撮影できません。
- 被写体が近すぎる場合、通信用の発光が露出に影響を与えることがあります。(カメラ側フラッシュをディフューザー等で減光すると症状が緩和されます。)
- RCモードで使用中は、フラッシュの同調速度上限は1/160秒になります。



市販のフラッシュについて

市販のフラッシュをカメラのホットシューに接続して使用する場合は、次のことにご注意ください。

- X端子に約24V以上の電圧がかかる古いタイプの市販フラッシュを接続すると故障します。
- 当社規格外の通信端子のあるフラッシュを接続すると故障する可能性があります。
- 撮影モードを**M**にして、シャッター速度をフラッシュの同調速度以下にして、ISO感度を**[AUTO]**以外でお使いください。
- フラッシュで調光する場合は、フラッシュにカメラのISO感度と絞り値を設定する必要があります。フラッシュによる明るさを調整するには、いずれかをシフトします。
- レンズにあった照射角のフラッシュをお使いください。通常、照射角は35mmフィルムカメラ換算の焦点距離で表します。

7

ご注意

主なアクセサリーについて

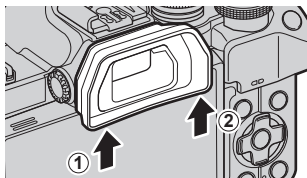
コンバーターレンズ

レンズに取り付けることで、手軽に魚眼撮影やマクロ撮影ができます。組み合わせ可能なレンズについては、当社ホームページをご覧ください。

アイカップ(EP-16)

大型のアイカップに交換することができます。

取り外し



システムチャート

電源



BLS-50
リチウムイオン電池



F-5AC
USB-ACアダプター



BCS-5
リチウムイオン充電器

ファインダー



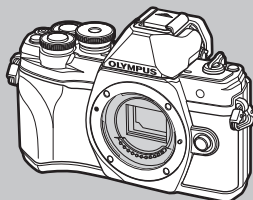
EP-16
アイカップ

照準器



EE-1
照準器

E-M10 Mark IV



ケース/ストラップ

ショルダーストラップ/
カメラケース

接続ケーブル

USBケーブル/
HDMIケーブル*1

メモリーカード

SD/SDHC/
SDXC

ソフトウェア

Olympus Workspace
画像編集ソフトウェア

OLYMPUS Image Share (OI.Share)
Olympus Image Palette (OI.Palette)
OLYMPUS Image Track (OI.Track)
スマートフォン用アプリ

□ : E-M10 Mark IV対応製品

■ : 市販製品

最新情報は当社ホームページをご確認ください。

*1 HDMIケーブルは市販製品をお求めください。

*2 アダプターと組み合わせて使用できるレンズには制限があります。詳しくは当社ホームページをご覧ください。

*3 取り付け可能なレンズについては、当社ホームページをご覧ください。

レンズ



マイクロフォーサーズシステムレンズ群



MMF-2/MMF-3^{*2}
フォーサーズアダプター



フォーサーズシステム
レンズ群



BCL-1580/BCL-0980
ボディキャップレンズ

コンバーター レンズ^{*3}

FCON-P01
フィッシュアイ

WCON-P01
ワイド

MCON-P01
マクロ

MCON-P02
マクロ

MC-14
テレコンバーター

MC-20
テレコンバーター

7

ご注意

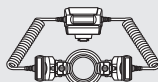
フラッシュ



FL-900R
エレクトロニックフラッシュ



FL-700WR
エレクトロニックフラッシュ



STF-8
マクロフラッシュ

電波システムアクセサリ



FC-WR
電波式ワイヤレスコマンド



FR-WR
電波式ワイヤレスレシーバー

カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

- ・絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。

カメラの外側：

- ・柔らかい布でやさしく拭きます。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、固く絞ってから、汚れを拭き取ります。その後、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を固く絞って拭き取ります。

モニター：

- ・柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ：

- ・市販のレンズブローアードでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カメラの保管

- ・長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- ・電池は定期的に取り換えて、カメラの機能をテストしてください。
- ・ボディキャップ、リアキャップはゴミやほこりを落としてから装着してください。
- ・カメラにレンズを取り付けていないときは、ほこりの侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。また、必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- ・使用後は清掃して保管してください。
- ・防虫剤のあるところに保管しないでください。
- ・薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- ・レンズを汚れたままにしておくと、カビがはえることがあります。
- ・長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確認してください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやほこりを超音波振動により、払い落とす機能を備えています(ダストリダクション機能)。ダストリダクション機能は、カメラの電源を入れたときに働きます。また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。

画像処理機能をチェックする — ピクセルマッピング

撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 カスタムメニュー **1** の [ピクセルマッピング] (P.132) を選択します。

2 **▷** を押して、**OK** ボタンを押します。

- ピクセルマッピング実行中の **[処理中]** バーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。
- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

アフターサービス

同梱の保証書は、日本国内向けに出荷された商品にのみ有効です。

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書に従ったお取り扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 本製品の製造打ち切り後、7年間は本製品のアフターサービスについて対応いたします。但し、当該アフターサービス対応については、故障の状況、本製品に対応する補修用性能部品の有無、及び保有している場合はその期間(製造打ち切り後7年間を目安に保有いたします)等に応じ、当社の判断で、本製品の修理または同等品への交換(製品交換)のいずれかにて対応させていただきます。
- 交換が行われた部品(もしくは製品)の所有権は当社に帰属し、返却はいたしません。
- 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

こんなときは？

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない

- USB-ACアダプターで電池を充電してください。

低温下であり、一時的に電池の性能が低下した

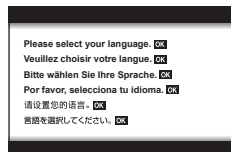
- 電池は低温では性能が低下します。カメラから電池を取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してみましょう。

言語の設定を促す画面が表示される

以下の場合に、図の画面が表示されます。

- 初めてカメラの電源を入れた
- 言語の設定が終了していない

「初期設定をする」(P.20)をご覧ください、言語の設定を行ってください。



8

日時設定がされていない

購入時のままで使用している

- お買い上げ時のカメラの状態では日時設定はされていません。日時設定をしてからご使用ください。☞ 「初期設定をする」(P.20)

カメラから電池を抜いていた

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります(当社試験条件による)。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には日時の設定が正しいことを確認してください。

設定した機能が元に戻ってしまう

撮影モードが**AUTO** (📷)、**SCN**、**AP**のときは、モードダイヤルを回すと設定した機能が初期設定に戻ります。

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。

- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- 設定済みの項目との組み合わせにより設定できない場合
【📷】(P.73)と【長秒時ノイズ低減】(P.129)の組み合わせなど

AFターゲットの数が少なくなった

【デジタルテレコン】(P.115)、アスペクト比設定(P.82)、AFターゲット(P.68)の設定により、AFターゲットの数や大きさが変わります。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた

- カメラは何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入ります。☞【スリープ時間】(P.132)
シャッターボタンを半押しすると復帰します。
さらに、4時間経過するとカメラの電源が切れます。

フラッシュが充電中である

- モニターの⚡マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待つからシャッターボタンを押してください。

ピント合わせができなかった

- 被写体に近すぎる場合やオートフォーカスの苦手な被写体の場合は、ピント合わせができません。(モニターの合焦マークが点滅します。)被写体との距離を十分にとったり、被写体と同じ距離にあるコントラストのはっきりしたものでピントを合わせてから、構図を決めて撮影してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅
このようなものには
ピントが合いません。



コントラストがはっきりしない被写体

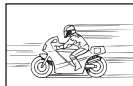


画面中央に極端に明るいものがある場合

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。



遠いものと近いものが混在する場合



動きの速いもの



被写体がAFターゲット内にない

長秒時ノイズ低減が作動している

- 夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。このカメラは長秒時の撮影後にノイズを取り除く動作をしますが、この間、次の撮影はできません。【長秒時ノイズ低減】は【Off】に設定することもできます。
☞【長秒時ノイズ低減】(P.129)

撮影した画像が全体的に白っぽい

逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストといわれる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光を遮ってみましょう。☞「交換レンズについて」(P.152)

被写体にない明るい点が写り込む

撮像素子のドット抜けの可能性があります。【ピクセルマッピング】を行ってください。

また、消えないときは何度かピクセルマッピングを行ってみてください。🔍 「画像処理機能をチェックする - ピクセルマッピング」(P.161)

被写体が歪んで写る

以下の機能では電子シャッターを使用します。

ムービー撮影(P.62) / 静音撮影(P.74) / **SCN**モードのパノラマ(P.35)、
静音撮影(P.36)、マルチフォーカス撮影(P.36) / **AP**モードの静音撮影(P.42)、
パノラマ(P.43)、フォーカスブラケット撮影(P.46)

動きの速い被写体の撮影やカメラを激しく動かした撮影をすると画像に歪みが出ます。カメラを激しく動かした撮影は避けるか、通常の連写で撮影してください。

画像にすじが写る

電子シャッターを使った以下の機能では、蛍光灯やLED照明の光源下では、フリッカーなどにより画像にすじが写ることがあります。

ムービー撮影(P.62) / 静音撮影(P.74) / **SCN**モードのパノラマ(P.35)、
静音撮影(P.36)、マルチフォーカス撮影(P.36) / **AP**モードの静音撮影(P.42)、
パノラマ(P.43)、フォーカスブラケット撮影(P.46)

シャッター速度を遅くして撮影すると軽減できる場合があります。

MF (マニュアルフォーカス)から変更できない

お使いのレンズによっては、マニュアルフォーカスクラッチ機構が搭載されており、フォーカスリングが手前に引かれているとマニュアルフォーカスになります。レンズの状態を確認してください。

🔍 「MFクラッチを搭載したレンズについて」(P.153)

インデックス再生画面の分割数を変更／追加したい

カスタムメニュー **4** 【**Info**表示設定】の【**表示**]で、インデックス再生画面に表示する画面の分割数を変更／追加できます(P.134)。

メニュー画面のガイドを非表示にしたい

メニュー画面表示中に**INFO**ボタンを押すと、ガイドの表示／非表示を切り換えることができます(P.113)。

ダイヤル機能／ボタン機能の割り当てを確認したい









カスタムメニュー **5** の各メニューで、割り当てられている機能を確認できます。



ボタン機能(P.128) / **▶** **◎** ボタン機能(P.128) / ダイヤル機能(P.128)

テレビでムービーを再生するとなめらかに再生されない

テレビのフレームレートと撮影したムービーのフレームレートが合っていない可能性があります。その場合はパソコンで再生してください。テレビでなめらかに再生するには、カメラのフレームレート設定を変更する必要があります。🔍 【動画フレームレート】(P.120)

エラーコード

モニター表示	原因	対処方法
 カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
 このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
 書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	カードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっています。スイッチを戻して解除してください(P.150)。
 撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。
 カード残量がありません	カードに十分な空き容量がありません。	大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
 画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。
 この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
 この画像は編集できません	他のカメラで撮影した画像などを選択している場合は編集できません。	パソコンの画像ソフトなどで編集してください。
日時を設定してください	日時が未設定です。	日時を設定してください(P.21)。
 しばらく使用できません カメラの内部温度が下がるまでお待ちください	連写などによりカメラの内部温度が上昇しています。	カメラの電源を切り、内部温度が下がるまでしばらくお待ちください。 しばらくすると、自動的に電源が切れます。 カメラの内部温度が下がって撮影可能になるまでしばらくお待ちください。
 電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。

モニター表示	原因	対処方法
 接続されていません	カメラがパソコンやHDMI機器に正しく接続されていません。	正しく接続しなおしてください。
 この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などは、プリント予約できないものがあります。	パソコンなどを使って個別にプリントしてください。
ズームリングを回し 繰り出してください	沈胴式レンズの、レンズが沈胴したままになっています。	レンズを繰り出してください。
レンズの状態を確認してください	レンズとの間でエラーが発生しています。	カメラの電源を切り、レンズとの接続状態を確認してから電源を入れなおしてください。
対応レンズを装着してください	選択している撮影モードにレンズが対応していません。	対応レンズに交換するか、別の撮影モードを使用してください。

初期設定一覧

*1: [リセット] (フル)で初期設定に戻る機能 *2: [リセット] (標準)で初期設定に戻る機能

ボタン機能/ライブコントロール/LVスーパーコンパネ

機能	初期設定	*1	*2	👉
ISO感度	AUTO	✓	✓	70
連写/セルフタイマー	◆□	✓	✓	73
AFターゲット設定	▣	✓	✓	68
フラッシュ	⚡	✓	✓	71
📷AF方式	S-AF	✓	✓	80
📷AF方式	C-AF	✓	✓	80
アスペクト比	4:3	✓	✓	82
📷画質モード	📺	✓	✓	82
📷画質モード(4K)	3840×2160 30p	—	—	83
📷画質モード(スタンダード)	1920×1080 Fine 60p	✓	✓	85
📷画質モード(HS)	1280×720 HighSpeed 120fps	—	—	85
ムービー (露出)モード	P	✓	—	87

📷 撮影メニュー

タブ	機能	初期設定	*1	*2	👉	
📷 1	リセット	標準	—	—	115	
	ピクチャーモード	📺 Natural	✓	✓	77, 115	
	デジタルテレコン	Off	✓	✓	115	
	測光	☀️	✓	✓	90	
	AFイルミネーター	On	✓	✓	116	
📷 2	📷手ぶれ補正	S-IS On	✓	✓	88	
	📷電動ズーム速度	標準	✓	—	116	
	フラッシュ補正	±0.0	✓	✓	88	
	多重露出撮影	コマ数	Off	✓	✓	116
		自動ゲイン補正	Off	✓	✓	
		再生画+多重	Off	✓	✓	
	インターバル撮影設定	Off	✓	✓	118	
	静音[♥️]撮影設定	静音[♥️]長秒時 ノイズ低減	Off	✓	—	119
		電子音	禁止	✓	—	
		AFイルミネーター	禁止	✓	—	
フラッシュ		禁止	✓	—		
📷RCモード撮影	Off	✓	✓	119		

📺 動画メニュー

タブ	機能		初期設定	*1	*2	👉
📺	ムービー録音		On	✓	✓	120
	録音レベル調整		±0	✓	✓	120
	📺 AF方式		C-AF	✓	✓	120
	📺 手ぶれ補正		M-IS 1	✓	✓	88
	📺 電動ズーム速度		標準	✓	—	120
	動画フレームレート		30p	✓	—	83, 120
	動画ビットレート		Fine	✓	—	83, 120

▶ 再生メニュー




















タブ	機能		初期設定	*1	*2	👉
▶	スライドショー	スタート	—	—	—	104
		BGM	On	✓	✓	
		スライド	すべて	✓	✓	
		1コマ再生時間	3秒	✓	—	
		ムービー再生	ショート	✓	—	
回転再生		On	✓	✓	121	
編集	画像選択	RAW編集	—	—	—	121
		JPEG編集	—			122
		ムービー編集	—			123, 124
		録音	—			108, 122
	画像合成	—	123			
プリント予約		—	—	—	107	
全プロテクト解除		—	—	—	124	
全シェア予約解除		—	—	—	106	
スマートフォン接続		—	—	—	138	

8

資料

⚙️ カスタムメニュー

タブ	機能		初期設定	*1	*2	👉	
⚙️	AF/MF						
	A	AEL/AFLモード	S-AF	mode1	✓	✓	127, 132
			C-AF	mode2			
			MF	mode1			
	AFターゲットパッド		Off	✓	✓	127	
	◎顔優先		👤	✓	—	69, 127	
	MFアシスト	拡大	Off	✓	—	127, 133	
		ピーキング	Off	✓	—		
	レンズリセット		On	✓	✓	127	

タブ	機能		初期設定	*1	*2		
	ボタン/ダイヤル						
	B	ボタン機能	 ボタン機能	AEL/AFL	✓	—	96, 128
			 ボタン機能	QFn	✓	—	
			 ボタン機能	REC	✓	—	
		 ボタン機能		✓	—	128	
	ダイヤル機能	P	フロントダイヤル：露出補正 リアダイヤル：Ps	✓	—	128	
		A	フロントダイヤル：露出補正 リアダイヤル：絞り				
		S	フロントダイヤル：露出補正 リアダイヤル：シャッター速度				
		M	フロントダイヤル：絞り リアダイヤル：シャッター速度				
	表示/音/接続						
	C1	 Control表示		 LV-C	✓	—	76, 128
			P/A/S/M	 LV-C	✓	—	
			ART	 LV-C	✓	—	
			SCN/AF	 LV-C	✓	—	
		 Info表示設定	 Info	表示Off、総合表示	✓	✓	128, 133
LV-Info			カスタム表示1（ヒストグラム表示）、カスタム表示2（水準器）	✓	—		
 表示			25、カレンダー表示	✓	—		
		LVブースト	Off	✓	✓	128	
		フリッカー低減	オート	✓	—	128	
		表示罫線選択	Off	✓	—	128	
	ピーキング色	赤	✓	—	128		
C2	電子音		On	✓	✓	129	
	HDMI	出力サイズ	1080p優先	✓	—	129, 134	
		HDMIコントロール	Off	✓	—		
	USB接続モード		オート	✓	✓	129	
露出/ISO/BULB							
D1	露出基準調整		±0	✓	—	129	
							
							
	ISOオート設定	上限値	6400	✓	✓	129	
		基準値	200	✓	✓		
	高感度ノイズ低減	標準	✓	✓	129		
	長秒時ノイズ低減	オート	✓	✓	57, 129		
D2	BULB/TIMEリミッター		8分	✓	✓	58, 130	
	ライブBULB設定		Off	✓	—	58, 130	
	ライブTIME設定		0.5秒	✓	—	58, 130	
	コンポジット撮影設定		1秒	✓	—	60, 130	

タブ	機能	初期設定	*1	*2	🔍		
⚙️	フラッシュ						
	E	⚡同調速度	1/250	✓	✓	130, 136	
		⚡低速制限	1/60	✓	✓	130, 136	
		📷+📷連動	Off	✓	✓	67, 88, 130	
		⚡+WB連動	WB OFF	✓	—	130	
	画質/WB/色						
	F	画質設定	◀️:1 SF、◀️:2 LF、◀️:3 N、◀️:4 MN	✓	✓	130, 136	
		WBモード	オート	✓	✓	79, 130	
		WBオート 電球色残し	On	✓	✓	130	
		カラー設定	sRGB	✓	✓	94, 130	
	記録						
	G	ファイルネーム	リセット	✓	—	131	
		ファイルネーム編集	—	✓	—	131	
		著作権情報	著作権情報記録	Off	✓	—	131
			撮影者入力	—	—	—	
著作権者入力	—		—	—			
EVF							
H	EVF自動切換設定	On	✓	—	132		
	EVF調整	EVF自動調光	Off	✓	—	132	
		EVF調整	📷±0、📷±0	✓	—		
その他							
I	ピクセルマッピング	—	—	—	132, 161		
	水準器調整	—	✓	—	132		
	タッチパネル設定	On	✓	—	132		
	スリープ時間	1分	✓	✓	19, 132		
	認証マーク表示	—	—	—	132		

🔍 セットアップメニュー

タブ	機能	初期設定	*1	*2	🔍	
🔍	カードセットアップ	—	—	—	126	
	日時設定	—	—	—	20	
	🗨️	English	—	—	125, 162	
	モニター調整	📷±0、📷±0、Natural	✓	—	125	
	撮影確認	0.5秒	✓	—	125	
	Wi-Fi/ Bluetooth 設定	通信機能	On	✓	—	146
		Bluetooth	On	✓	—	146
		バックグラウンド通信	毎回確認	✓	—	140
		接続パスワード設定	—	—	—	145
		Wi-Fi/Bluetooth設定 リセット	—	—	—	145
	バージョン	—	—	—	125	

仕様

■ カメラ

型式	
型式	マイクロフォーサース規格準拠レンズ交換式カメラ
使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL・マイクロフォーサースシステムレンズ
レンズマウント	マイクロフォーサースマウント
35 mmフィルムカメラ 換算焦点距離	レンズ焦点距離の約2倍
撮像素子	
型式	4/3型Live MOSセンサー
総画素数	約2177万画素
カメラ部有効画素数	約2030万画素
画面サイズ	17.4 mm (H) × 13.0 mm (V)
アスペクト比	1.33 (4:3)
ファインダー	
形式	電子ビューファインダー、アイセンサー有り
画素数	約236万ドット
視野率	100%
アイポイント	約19.2 mm (-1m ⁻¹ 時)
ライブビュー	
センサー	Live MOSセンサー使用
視野率	100%
モニター	
型式	3.0 型TFTカラー液晶、可動式、タッチパネル
総画素数	約104万ドット(アスペクト比 3 : 2)
シャッター	
型式	電子制御式フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/4000 ~ 60秒、バルブ撮影、タイム撮影
オートフォーカス	
型式	ハイスピードイメージャ AF
測距点	121点
測距点選択	自動選択・任意選択
露出制御	
測光方式	TTL測光方式(イメージャ測光) デジタルESP測光/中央重点平均測光/スポット測光
測光範囲	EV -2 ~ 20 (f2.8レンズ、ISO100相当)
撮影モード	AUTO : オート / P : プログラムAE (プログラムシフト可能) / A : 絞り優先AE / S : シャッター優先AE / M : マニュアル / MV : ムービー / ART : アートフィルター / SCN : シーン / AP : アドバンスドフォト
ISO感度	LOW、200 ~ 25600 (1/3EVステップ)
露出補正	±5.0EV (1/3EVステップ)
ホワイトバランス	
型式	撮像素子
設定方式	オート/プリセット(6種) /カスタムWB /ワンタッチWB (4件登録可)

記録	
記録媒体	SD / SDHC / SDXC UHS-II対応
記録方式	デジタル記録、JPEG (DCF2.0)、RAWデータ
対応規格	Exif 2.31、DPOF
静止画音声	Waveフォーマットに準拠
ムービー	MPEG-4 AVC/H.264
音声	ステレオPCM 48kHz
再生	
表示形式	1コマ表示 / 拡大表示 / インデックス表示 / カレンダー表示
ドライブ関係	
ドライブモード	1コマ撮影 / 連写 / セルフタイマー / 静音撮影
連写性能	最高約8.7コマ/秒(連写 $\frac{1}{2}$ 時)、最高約15コマ/秒(静音連写 $\frac{1}{2}$ 時)
セルフタイマー	12秒後撮影 / 2秒後撮影 / カスタム
省電力機能	スリープモード移行: 1分(カスタマイズ可) 電源OFF: 4時間
フラッシュ	
ガイドナンバー	5.1 (ISO100・m) / 7.2 (ISO200・m)
照射角	14mmレンズ(35mmフィルム換算28mm相当)の画角をカバー
調光方式	TTL-AUTO (TTLプリ発光式) / MANUAL
同調速度	1/250秒以下
無線LAN	
対応規格	IEEE 802.11b / g / n
Bluetooth®	
対応規格	Bluetooth Version 4.2 BLE
外部コネクタ	
マイクロUSBコネクタ / HDMIマイクロコネクタ(タイプD)	
電源	
電池	リチウムイオン電池 1個
大きさ・質量	
大きさ	121.7 mm (幅) × 84.6 mm (高さ) × 49.0 mm (奥行き) (突起部を除く)
質量	約383 g (電池 / カードを含む)
動作環境	
温度	0°C ~ 40°C (動作時) / -20°C ~ 60°C (保存時)
湿度	30% ~ 90% (動作時) / 10% ~ 90% (保存時)

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

■ リチウムイオン電池

MODEL NO.	BLS-50
形式	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	DC7.2 V
公称容量	1210 mAh
充放電回数	約500回(使用する条件により異なります。)
使用周囲温度	0℃～40℃ (充電時)
大きさ	約35.5 mm (幅)×12.8 mm (高さ)×55 mm (奥行き)
質量	約46 g

■ USB-ACアダプター

MODEL NO.	F-5AC-1/F-5AC-2
定格入力	AC100 V～240 V (50/60 Hz)
定格出力	DC5V、1500mA
使用周囲温度	0℃～40℃ (動作時) / -20℃～60℃ (保存時)




- 外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 最新の仕様は、当社ホームページをご覧ください。

9 安全にお使いいただくために

安全にお使いいただくために

ご使用前に、この内容をよくお読みの上、製品を安全にお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

危険

電池は誤った使い方をしない

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによる火災ややけど、けがの原因となります。

- 火の中に投下したり、電子レンジやホットプレート、高压容器で加熱しない
- 電磁調理器の上や傍らに置かない
- 端子を金属類で接続しない
- 電池とネックレスやヘアピン、鍵等の金属と一緒に持ち運んだり、保管しない
- 高温になる場所で使用・放置しない
直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど
- 直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない
端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
- 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない
- 電池の液が目に入った場合は、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流した後、直ちに医師の診断を受けてください。失明の恐れがあります。
- カメラから電池が取り出せなくなった場合、無理に取り出さず、お買い上げの販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。電池の外装にキズなどのダメージを加えますと、発熱・破裂のおそれがあります。

USB-ACアダプターは誤った使い方をしない

火災・破裂・発火・発煙・発熱・感電・やけど・故障の原因となります。

USB-ACアダプターが、熱い、異臭や異常音が出る、煙がでているなど異常を感じたら、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止し、お買い上げの販売店、当社修理センター、当社カスタマーサポートセンター、または当社サービスステーションにご連絡ください。

- USB-ACアダプターを濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない
- USB-ACアダプターを布などで覆った状態で使用しない
- USB-ACアダプターを分解・改造しない
- USB-ACアダプターは指定の電源電圧で使用する

⚠ 警告

製品の取扱いについて

- 可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない
引火・爆発の原因となります。
- ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使用したり、保管しない
火災・感電の原因となります。
- ファインダーでの撮影時は、定期的に休憩をとる
目の疲労や気分が悪くなったり、乗り物酔いに似た症状が出る場合があります。
必要な休憩の長さや頻度は個人によって異なりますので、ご自身でご判断ください。
疲労感、不快感などの異常を感じたときには、回復するまでファインダーの使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。
- フラッシュやLED（AFイルミネーター含む）を人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない
- カメラで日光や強い光を見ない
視力障害をきたすおそれがあります。
- 幼児や子供の手の届く場所に放置しない
以下のような事故が発生するおそれがあります。
 - 誤ってストラップを首に巻きつけ、窒息を起こす。
 - 電池などの小さな付属品を飲み込む
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
 - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
 - カメラの動作部でけがをする。
- フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない
- 連続発光後、発光部分に手を触れない
やけどのおそれがあります。
- 分解や改造をしない
感電・けがをするおそれがあります。
- 内部に水や異物を入れない
火災・感電の原因となります。
万一水に落ちたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、お買い上げの販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。

- 本機の温度の高い部分に長時間触れない
低温やけどのおそれがあります。このような条件での使用が予想される場合は、あらかじめ三脚や手袋などを用意してください。
- 専用の当社製リチウムイオン電池、充電器、USB-ACアダプター以外は使用しない
発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。
- 通電中のUSB-ACアダプター、充電中の電池に長時間触れない
通電中のUSB-ACアダプターや充電中の電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。

電池の取扱いについて

- 水や海水などの液体で濡らさない
- 濡れた手で触ったり持ったりしない
発熱・破裂・発火・感電・故障の原因となります。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止する
火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- 外装にキズや破損のある電池は使用しない、またキズを付けない
破裂・発熱・発火の原因となります。
- 膨れた電池を無理に機器に取り付けない
発熱、破裂、発火の原因となります。
- 落下や打撃により電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない
破裂・発熱・発火の原因となります。
- 充電器や機器に接続時、無理に接続しない
プラス・マイナスを逆に接続すると、電池が逆に充電され内部で異常な反応が起こり、漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 電子レンジや高压容器などに入れない
急に加熱されたり、密封状態が壊れたりして、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 電磁調理器の上や傍らに置かない
誤って加熱され、発熱、破裂、発火の原因となります。

- 充電中や放電中に可燃物を上に載せたり、覆ったりしない
発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- カメラの電池室を变形させたり、異物を入れたりしない
- 液漏れや異臭、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、すぐに火気から遠ざける火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店、当社修理センター、当社カスタマーサポートセンター、または当社サービスステーションにご連絡ください。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着すると、皮膚に傷害を起こすおそれがあるので、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。
- 発熱、発火、爆発の可能性があるため、低温環境下でリチウムイオン電池を使用しないでください。

USB-ACアダプターの取扱いについて

- コンセントからの抜き差しは、必ずUSB-ACアダプター本体を持つ
USB-ACアダプター本体を持たないと、火災・感電の原因となることがあります。

無線LAN / Bluetooth®機能について

- 心臓ペースメーカーを装着している方から15cm以上離す
本機からの電波がペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。
- 病院内や医療用電気機器のある場所では電源を切る
本機からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。必ず無線LAN / Bluetooth®機能もオフにしてください(P.146)。
- 航空機内では電源を切る
運行の安全や支障をきたすおそれがあります。必ず無線LAN / Bluetooth®機能もオフにしてください(P.146)。

⚠ 注意

製品の取扱いについて

- 異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常を感じたときは使用を中止する
火災・やけどの原因となることがあります。
やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、お買い上げの販売店、当社修理センター、当社カスタマーサービスセンター、または当社サービスステーションにご連絡ください。
(電池を取り外す際は、素手で電池を触らないでください。また可燃物のそばを避け屋外で行ってください。)
- 濡れた手でカメラを操作しない
故障・感電の原因となることがあります。
- カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する
けがや事故の原因となることがあります。
- 高温になるところに放置しない
部品の劣化・火災の原因となることがあります。

電池の取扱いについて

- 乳幼児や動物・ペットには、電池の取り扱い、運搬をさせない(舐める、口に入れる、噛む等の危険防止)
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用したあとは、すぐに電池を取り出さない
やけどの原因となることがあります。
- 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておく
液漏れ・発熱により、火災・けが・故障の原因となることがあります。
- 長期間保管する場合は、涼しいところに保管してください。
- 電池は、当社製リチウムイオン電池1個を使用します。指定の電池をお使いください。指定以外の電池を使用した場合、爆発(または破裂)の危険があります。
- 当社製リチウムイオン充電電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。

USB-ACアダプターの取扱いについて

- お手入れの際は、USB-ACアダプター本体をコンセントから抜いて行う

USB-ACアダプター本体を抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

- 付属のUSB-ACアダプター F-5ACはこのカメラ専用です。
他のカメラに接続して電池を充電することはできません。
- 付属のUSB-ACアダプター F-5ACはこのカメラ以外の機器に接続して使用しないでください。
- プラグインタイプのUSB-ACアダプター F-5ACは、コンセントに垂直に正しく据え付けてください。

- ACアダプターの電源プラグはACアダプターを主電源から切り離すために使用されるため、簡単に取り外しできるコンセントに接続してください。

交換レンズの取り扱いについて

- レンズまたは光学ビューファインダー（外付け）で直接太陽や強い光を見ない
失明や視力障害を起こすことがあります。
- 使用しないときはレンズキャップを付けて保管する
太陽光が入射して、火災の原因になることがあります。

使用上のご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。
以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
 - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
 - 砂、ほこり、ちりの多い場所
 - 火気のある場所
 - 水に濡れやすい場所
 - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- ファインダーを直射日光や強い光源に向けて放置しないでください。焼きつきを起こすことがあります。
- カメラをご使用の際は、必ず電池/カードカバーを閉じロックをしてください。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。
ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- テレビ、電子レンジ、ゲーム機、スピーカー、大型モーター、電波塔や高圧線の近くでカメラを使用すると磁気や電磁波、電波、高電圧の影響で、カメラが誤動作する場合があります。カメラが正常に動作しない場合は、電源を切ってから、電池を抜き差しして再度電源を入れてください。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- SD/SDHC/SDXCカード以外は、絶対にカメラに入れない
その他のカードを誤って入れた場合は、無理に取り出さず、お買い上げの販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。
- 大切なデータは万一の場合に備え、パソコン等の他の記録媒体に定期的にバックアップしてください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 三脚を着脱する際は、カメラを回さず三脚のネジを回してください。

- カメラを持ち運ぶ際は、当社純正アクセサリー以外（三脚など）は取り外してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- 各カバーの開け閉めや電池の交換時は、本機の水分を十分拭き取ってから行ってください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 電気回路接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
 - ズーム動作を繰り返す。
 - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
 - 長時間、モニターで画像を表示する。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- 電池の端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるに従って一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。長期間の旅などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

詳しくは一般社団法人JBRCホームページ (<https://www.jbrc.com>) をご覧ください。



- モニターは強く押さないでください。画面上ににじみが残ったり、画像が正しく再生されなくなったり、モニターが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- モニターの画面上下に光が帯状に見えることがあります。故障ではありません。
- 被写体が斜めるとき、モニターにギザギザが見えることがあります。故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるに従ってモニターは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したモニターは、常温に戻ると回復します。
- 本製品のモニターは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、モニターの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報については当社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複製することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら当社カスタマーサポートセンターまでご連絡ください。

機器認定について

本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵されています。認証ラベルは無線設備に添付されています。次の事項を行った場合、法律で罰せられることがあります。

本製品を分解、または改造すること

本製品の証明ラベルをはがすこと

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業、科学、医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定省電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くでこれらの無線局が運営されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに場所を変更するか、または電波の使用を停止してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定省電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときは、カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

無線LAN機能

本機は、2.4GHz周波数帯を使用するDSSS/OFDM変調方式を採用しており、与干渉距離は、40 m以下です。

2.4DS/OF4

Bluetooth®機能

本機は、2.4GHz周波数帯を使用するその他変調方式を採用しており、与干渉距離は、10 m以下です。

2.4 XX 1

無線LAN/Bluetooth®機能の使用について

本製品を購入した地域以外での無線LAN/Bluetooth®機能の使用については、その国の電波管理規則に違反する場合がありますので、当社では一切の責任は負えません。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。本装置は、VCCI協会の運用規程に基づく技術基準に適合した文言、又はマークを画面に電子的に表示しています。表示の操作方法は、取扱説明書の【認証マーク表示】(P.132)に記載しております。

VCCI-B

接続ケーブル、USB-ACアダプター (USB-ACアダプター対応機種のみ)は、必ず、当製品指定のものをお使いください。指定品以外では、VCCI協会の技術基準を超えることが考えられます。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

SDXCロゴは、SD-3C,LLCの商標です。

ApicalロゴはApical Limitedの登録商標です。



Micro Four Thirds / Four ThirdsおよびMicro Four Thirds / Four Thirds

ロゴマークはオリンパス(株)の日本・米国・EU・その他各国の商標または登録商標です。

Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの認証マークです。



Bluetooth®のワードマー

クおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、オリンパス株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NONCOMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

このカメラの内部のソフトウェアは第三者作成のソフトウェアを含んでいます。第三者作成のソフトウェアは、その所有者または著作権者により所定の条件が課せられており、その条件に基づいてあなたに配布されています。この条件の中であなたに告知するものがある場合には、以下のURLのウェブサイトに必要に応じて準備されたsoftware notice PDFファイル内に見出すことができます。

<http://www.olympus.co.jp/en/support/imgsd/digicamera/download/notice/notice.cfm>

索引

アイコン

⚡RCモード	155
🗨️ (言語切り換え)	125
😊 (顔優先AF)	69
📷 (連写L)	73
📷 (連写H)	73
📷/Info表示設定	128, 133
📷Info	128
📷表示	128
📷/心	73
📷Control表示	128
⚡同調速度	130, 136
⚡低速制限	136
🔗+🔗連動	130
⚡+WB連動	130
📷 (インデックス再生)	111, 134
📷 (インデックス再生/カレンダー再生)	103
📷 (ショートカット)ボタン	31
🎞️ (ムービー)ボタン	62, 96, 128
🗑️ (1コマ消去)	105
✓ (画像選択)	106
🔍 (クローズアップ再生)	103

英数

A (絞り優先撮影)	53
AdobeRGB	94
AEL/AFLモード	132
AEブラケット	45
AEロック	97, 127, 132
AFイルミネーター (AF補助光)	28, 116
AFターゲット選択	68
AFターゲット設定	68
AFターゲットパッド	127
AFターゲット表示	68
AF方式	80
ムービー	120
APモード	37
ART (アートフィルター)	47

AUTO (📷)	32
Bluetooth	137
BULB	58
BULB/TIMEリミッター	130
C-AF	80
C-AF+TR	80
Control表示	128
DPOF	107
EVF自動切換設定	132
EVF調整	132
Exif情報	131
GPSログ	144
HDMI	129
HDR逆光補正	35, 36
HDR撮影	41
INFO	26, 101, 113
ISOオート設定	129
ISO感度	70
JPEG編集	122
LIVE TIME	58
LV-Info	128, 133
LVスーパーコンパネ	76
LVブースト	128
M (マニュアル撮影)	57
MFアシスト	127, 133
MF切換	97
MFクラッチ	153
MF (マニュアルフォーカス)	80
OI.Palette	137
OI.Share	137
OI.Track	137
Olympus Workspace	2, 148
P (プログラム撮影)	51
Ps (プログラムシフト)	52
RAW	82
RAW編集	121
RCモード(⚡RCモード)	155
S (シャッター優先撮影)	55
S-AF	80
S-AF+MF	80

SCN (シーンモード)	34
SDカード	150
フォーマット(初期化)	126
sRGB	94
USB接続モード	129
WBオート電球色残し	130
WB (ホワイトバランス)	79
WBモード	130
Wi-Fi/Bluetooth設定	125, 140, 145, 146

あ

アートフィルター	47
アイセンサー	23
アクセサリ	157
アスペクト比設定	82
圧縮率	82, 136, 151
アドバンストフォトモード	37
位置情報	144
インストール	148
インターバル撮影設定	118
インデックス再生	103, 111, 134
オートモード	32
音声録音	
静止画	108
音量調節	104

か

カード	150
カードセットアップ	126
階調	92
回転	103
回転再生	121
顔優先AF	69
拡大枠AF	98
画質設定	
静止画	130, 136
ムービー	83
画質モード	
静止画	82
ムービー	83
カスタムメニュー	127, 168
画像合成	123

画像サイズ	151
静止画	82, 136
ムービー	83
画像転送	142
画像編集	121
画面表示	24
再生時	100
カラークリエーター	78
カラー設定	94, 130
カレンダー再生	103, 111, 134
銀残し(プリーチバイパス)	49
クローズアップ再生	103
言語切り換え(●●)	125
効果	93
高感度ノイズ低減	129
交換レンズ	152
合焦音(電子音)	129
光跡撮影	35
コンティニュアスAF	80
コントラスト	91
コンボジット撮影設定	130

さ

再生	
静止画	102, 103
ムービー	102, 104
再生メニュー	121, 168
彩度	91
撮影	
静止画	27
ムービー	62
撮影確認	125
撮影可能枚数	151
撮影メニュー	114, 167
撮影メニュー 1	114
撮影メニュー 2	114
撮影モード	27
シーンモード	34
シェア予約	106
視度調整ダイヤル	23
自分撮り	66
絞り優先撮影(A絞り優先撮影)	53
シャープネス	90

シャッター優先撮影 (Sシャッター優先撮影)	55
充電	14, 16
消去	
1コマ消去	105
全コマ消去	126
選択コマ消去	106
初期化	126
シングルAF	80
水準器調整	132
水準器表示	26
スーパースポットAF (拡大枠AF)	98
ストレージ	147
スマートフォン接続	137
スライドショー	104
スリープ時間	19, 132
スローモーションムービー	65
静音撮影	36, 42, 74
静音[♥]撮影設定	119
静止画切り出し	123
セットアップメニュー	125, 170
セルフタイマー	73
全プロテクト解除	124
専用フラッシュ	154
測光	90
ソフトウェア	148

た

タイム撮影	58
タイムラプス動画	118
ダイヤル機能	128
多重露出	40
多重露出撮影	116
タッチAF	30
タッチパネル	30, 110
タッチパネル設定	132
縦横比設定(アスペクト比設定)	82
長時間露出(BULB/TIME)	58
調色	93
長秒時ノイズ低減	129
著作権情報	131
追尾AF	80
低速制限	130

デジタルシフト	44
デジタルテレコン	67, 115
手ぶれ補正	88
ムービー	120
テレビ	134
電子音	129
電池残量	19
電動ズーム速度	
静止画	116
ムービー	120
電波通信ワイヤレスフラッシュ	154
動画ビットレート	83, 120
動画フレームレート	83, 120
動画メニュー	120, 168
同調速度	130, 136
トリミング	
静止画	122
ムービー	124

な

日時設定	20
認証マーク表示	132
ネオノスタルジー	49

は

バージョン	125
パートカラー	50
ハイスピードムービー	65
ハイダイナミックレンジ(HDR)撮影	41
ハイライト&シャドウコントロール	95
パソコン	147
パノラマ	43
バルブ撮影	58
ピーキング	97, 133
ピーキング色	128
ピクセルサイズ	136, 151
ピクセルマッピング	132, 161
ピクチャーモード	77, 115
ヒストグラム表示	26
瞳優先AF	69
表示罫線選択	128
ファイル形式	151

ファイルサイズ	151
ファイルネーム	131
ファイルネーム編集	131
ファインチューン	50
フィルター効果	92
フォーカスブラケット	46
フォーカスモード(AF方式)	80
フォーカスリング	80
フォーマット	126
フラッシュ	71
フラッシュ低速制限	130, 136
フラッシュ同調速度	130, 136
フラッシュ補正	88
ブリーチバイパス(銀残し)	49
フリッカー低減	128
プリント予約	107
フレームレート	65
プレビュー	97
プログラム撮影(Pプログラム撮影)	51
プログラムシフト	52
保護(プロテクト)	105
補助光(AFイルミネーター)	28, 116
ボタン機能	96
ホワイトバランス	79
ホワイトバランス補正	89

ま

マニュアル撮影(Mマニュアル撮影)	57
マニュアルフォーカス(MF)	80
マニュアルフォーカスクラッチ (MFクラッチ)	153
ムービー再生	104
ムービー撮影	62
ムービーモード	64
ムービー録音	120
ムービー露出モード	87
無線LAN	137
メニュー	113, 167
モードダイヤル	27
モニター調整	125

や

ユーザー登録	2
--------	---

ら

ライブBULB設定	130
ライブTIME設定	130
ライブガイド	32
ライブコントロール(LVコントロール)	75
ライブコンポジット撮影	38, 60
ライブタイム	39
リセット	115
リモート撮影	143
連写	73
レンズリセット	127
録音	
静止画	108
録音レベル調整(ムービー)	120
露出基準調整	129
露出補正	67

わ

ワイヤレスRCフラッシュ	155
ワンタッチWB	80, 97

発行日 2020.3.

OLYMPUS

オリンパス株式会社

● インターネットでの情報入手

<https://olympus-imaging.jp/>

製品仕様、パソコン接続、OS 対応、Q&A などの各種最新情報は、
オリンパスホームページで簡単にご確認いただけます。
上記 URL より [サポート / ダウンロード] のページへお進みください。

● 電話でのお問合せ（オリンパスカスタマーサポートセンター）



0570-073-000

ナビダイヤル

* 携帯電話・PHS からのご利用になれます。

FAX 042-642-7486

* 調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間：平日および土曜・日曜・祝日 9:30 ~ 18:00

* 年末年始、システムメンテナンス日はお休みさせていただきます。

※記載内容は変更されることがあります。